

# サマースクール 2014

## 院生による研究発表会・予稿集

主催／ Organized by

東京外国語大学国際日本研究センター  
International Center for Japanese Studies  
Tokyo University of Foreign Studies

2014年7月30日(水)、31日(木)  
東京外国語大学府中キャンパス研究講義棟 102-106 室  
July 30 and 31, 2014  
Room 102-106, Research and Lecture Building  
Fuchu Campus, Tokyo University of Foreign Studies

7月30日(水) Wednesday 30th July

会場 研究講義棟 1F 102,103,104,105

Venue 102,103,104,105 1F, Research and Lecture Building

**14:20 ~ 17:30 (102) 言語 / Linguistics**

「名詞句の前に位置する場合のタイ語限定表現  $khe^{\wedge}e$  と  $phian$  の意味的特徴に関する考察

—日本語との対照を目指して— ……………7

モンコンチャイ アッカラチャイ (東京外国語大学)

MONGKOLCHAI Akrachai (Tokyo University of Foreign Studies)

「日本語とペルシア語における動詞の自他交替の対照」 ……………10

カーヴェ マグスディ (東京外国語大学)

MAGHSOUDI Kaveh (Tokyo University of Foreign Studies)

「マーカに注目する中日感嘆文に関する一考察——“多ム”型と「なんと」型をめぐって」 ……………13

揣 迪之 (北京外国語大学)

CHUAI Dizhi (Beijing Foreign Studies University)

「日中両言語における心理状態・属性を表す語の一考察」 ……………16

張 舒鵬 (東京外国語大学)

ZHANG Shupeng (Tokyo University of Foreign Studies)

「複合動詞「～あげる/あがる」と中国語補語<-上>の意味拡張に見る日本語と中国語の空間認知の相違」 …… 19

張 正 (東京外国語大学)

ZHANG Zheng (Tokyo University of Foreign Studies)

「コーパスに基づく日本語反復形容詞の研究」 ……………22

陳 祥 (国立政治大学)

CHEN Hsiang (National Chengchi University)

**14:20 ~ 17:30 (103) 文学、文化、社会 / Literature, Culture, Society**

「日本のアニメーションは海外でどのように日本語学習に用いられてきたのか—元学習者へのインタビューからみる1980年代、1990年代のアニメーションを用いた日本語学習の実態—」 ……………25

臼井 直也 (東京外国語大学)

USUI Naoya (Tokyo University of Foreign Studies)

「聴解ストラテジーに対する意識調査—台湾人日本語学習者を対象として—」	28
王 睿琪 (東京外国語大学)	
WANG Ruiqi ( Tokyo University of Foreign Studies )	
「日本語の「が」と中国語の「一個」における空間認知と事態把握 —中国語の誤用コーパスからみた日本語の特質—」	31
張 学博 (東京外国語大学)	
ZHANG Xue Boi ( Tokyo University of Foreign Studies )	
「タイ人日本語学習者における接続表現としての「て形」の理解と運用能力」	34
ナンティポーン チャンチャルーン (タマサート大学)	
NUNTIPORN Junjareon ( Thammasat University )	
「日本語学習者のスピーチレベルに関する考察-スピーチレベル設定に資する効果的な教材の作成に向けて-」	37
斎藤 奈菜子 (東京外国語大学)	
SAITO Nanako ( Tokyo University of Foreign Studies )	
「韓国人日本語学習者における無声破擦音「つ」の発音に関する一考察」	40
金 智善 (韓国外国語大校)	
KIM Jisun ( Hankuk University of Foreign Studies )	

**14:20 ~ 17:30 (104) 文学、文化、社会 / Literature, Culture, Society**

「現代日本社会における若者の性意識とジェンダー規範— 避妊行動にみる男女間の非対称性 —」	43
イザベル ファスベンダー (東京外国語大学)	
ISABEL Fassbender ( Tokyo University of Foreign Studies )	
「Representations of Japanese Company Green Communication」	46
ノルマリス アムザ (シンガポール国立大学)	
Normalis Binti Amzah ( National University of Singapore )	
「海外映画タイトルの韓・日比較-タイトルの構成を中心に-」	49
鄭 盛旭 (韓国・中央大校)	
JUNG Sungwook ( Chung-ang University )	
「『積極的平和主義』を正当化させるための言語的ストラテジーに関する一考察 —2014年安倍内閣施政方針演説の批判的談話分析を通じて—」	52
秦 石美 (北京外国語大学)	
QIN Shimei ( Beijing Foreign Studies University )	
「多文化共生主義と昨今の排外主義の台頭考察—ヘイトスピーチを中心に—」	55
廣瀬 龍 (東京学芸大学)	
HIROSE Ryu ( Tokyo Gakugei University )	
「徳富蘇峰と兆民における自由民権論—『将来之日本』と『三酔人経綸問答』を中心に—」	58
劉 品宜 (国立台湾大学)	
Liu Ping-i ( National Taiwan University )	

『古今集遠鏡』と宣長の歌論」……………	61
藤井 嘉章 (東京外国語大学)	
FUJII Yoshiaki ( Tokyo University of Foreign Studies )	
「雨夜の品定の予言的機能-高麗人予言との比較を中心に-」……………	64
李 玟喜 (韓国外国語大学校)	
Lee Jihee ( Hankuk University of Foreign Studies )	
「竹内好の翻訳理論についての考察」……………	67
余 祎延 (厦門大学)	
YUI Huiyan ( Xiamen University )	
「レフ・トルストイと日本の文学者」……………	70
ナザランカ カチャリーナ (東京外国語大学)	
Nazaranka Katsiaryna ( Tokyo University of Foreign Studies )	
「近世日本の読本と中国の白話小説—『椿説弓張月』における《楊家将演義》受容の可能性—」……………	73
平原 真紀 (東京外国語大学)	
HIRAHARA Maki ( Tokyo University of Foreign Studies )	
『好色一代女』における嫉妬について—構成と特性を中心に—」……………	76
王 薇婷 (国立台湾大学)	
WANG Weiting ( National Taiwan University )	



7月31日(木) Thursday 31th July

会場 研究講義棟 1F 106,103,104,105

Venue 106,103,104,105 1F, Research and Lecture Building

**14:20 ~ 17:30 (106) 言語 / Linguistics**

- 「日本語とビルマ語の主語を表す助詞について」……………79  
トゥザ ライン (東京外国語大学)  
THUZAR Hlaing ( Tokyo University of Foreign Studies )
- 「『NP1のNP2』の用法: ‘NP2 of NP1’の誤用と英語名詞句との対照的視点から」……………82  
川村 駿 (東京外国語大学)  
KAWAMURA Shun ( Tokyo University of Foreign Studies )
- 「『のに』の言いさし文について」……………85  
徐 園園 (北京大学)  
XU Yuanyuan ( Peking University )
- 「日本語と英語の時制: 学習者の誤用に見られる時制・アスペクトスキーマ」……………88  
荒川 和仁 (東京外国語大学)  
ARAKAWA Kazuhito ( Tokyo University of Foreign Studies )
- 「ウズベク語の愛称形成について—日本語との対照的観点から—」……………91  
ハルナザロフ マムルジョン (東京外国語大学)  
Halnazarov Maamorjon ( Tokyo University of Foreign Studies )

**14:20 ~ 17:30 (103) 文学、文化、社会 / Literature, Culture, Society**

- 「三者間の共同作業における言語行動—親疎関係による課題達成および対人関係調整の相互行為—」……………94  
ツォイ エカテリーナ (東京外国語大学)  
TSOY Ekaterina ( Tokyo University of Foreign Studies )
- 「日本語とビルマ語の言いさし文に関する対照研究—「から」と“lo.”で終わる文を中心に—」……………97  
大西 秀幸 (東京外国語大学)  
ONISHI Hideyuki ( Tokyo University of Foreign Studies )
- 「発話行為理論から見た文末の接続表現の用法—カラ・ケド・シを中心に—」……………100  
孫 思琦 (筑波大学)  
SUN Siqi ( University of Tsukuba )

「日中両言語における再依頼に対する断り表現」	103
宗 甜甜 (東京学芸大学)	
ZONG Tiantian ( Tokyo Gakugei University )	
「視覚動詞「see」の対訳から見る中日の差異—認知スタンスを中心に—」	106
邬 海厅 (北京大学)	
WU Haiting (Peking University)	
「「依頼」会話に見られる談話展開のパターン—ウズベク人と日本人の接触場面の考察—」	109
ウマロヴァ ムノジャット (筑波大学)	
Umarova MUNOJOT (University of Tsukuba)	

**14:20 ~ 17:30 (104) 文学、文化、社会 / Literature, Culture, Society**

「日本語教育と文学教育の連携—俳句を用いた授業の実践報告から—」	112
鈴木 祐己 (東京外国語大学)	
SUZUKI Yuki ( Tokyo University of Foreign Studies )	
「PISAから日本の基礎教育を考え直す—上海市の教育システムと比較して—」	115
村上 昂音 (東京外国語大学)	
MURAKAMI Kouon ( Tokyo University of Foreign Studies )	
「学校教育における子どもの自立を育てることの意義に関する研究—小幡肇学級の卒業生へのインタビューを通して—」	118
劉 妍 (東京外国語大学)	
LIU Yan ( Tokyo University of Foreign Studies )	
「日本で看護職をめざす外国人看護師向けの、学校 [留学] 方式の可能性」	121
辻 好文 (東京外国語大学)	
TSUJI Yoshifumi ( Tokyo University of Foreign Studies )	
「タイの国際病院における医療通訳者 (日—タイ) の現状と研修の必要性」	124
スィリクワン サグアンボン (タマサート大学)	
SIRIKWAN Sanguanphon ( Thammasat University )	
「台湾における日本研究—国科会全資料をもとに—」	127
王 素蘭 (台湾開南大学)	
WAN Su Lan (Hainan University)	

**14:20 ~ 17:30 (105) 文学、文化、社会 / Literature, Culture, Society**

「戦前日本における農業団体の米価調節論—1930年代の議論を中心として—」	130
黄 楚群 (東京外国語大学)	
HUANG Chuqun ( Tokyo University of Foreign Studies )	

「戦前日本における電力国家管理と「経済の社会化」—永井柳太郎の思想を中心に—」	133
内川 隆文 (東京外国語大学)	
UCHIKAWA Takahumi ( Tokyo University of Foreign Studies )	
「1893年シカゴ万国宗教会議とアメリカ社会—アメリカ仏教伝播の観点から—」	136
那須 理香 (国際基督教大学)	
NASU Lika ( International Christian University )	
「村上春樹『女のいない男たち』試論—「シェエラザード」を通して—」	139
倪 逸舟 (東京外国語大学)	
NI Yizhou ( Tokyo University of Foreign Studies )	
「坂口安吾のアイデンティティ政治研究」	142
盧 柏丞 (台湾・東海大学)	
LU Bocheng ( Tunghai University )	
「日清修好条規の検討—清国、日本及び国際的視点より—」	145
李 宜潔 (国立政治大学)	
LEE Ichien ( National Chengchi University )	

## 名詞句の前に位置する場合のタイ語限定表現 *khê* と *phian* の意味的特徴に関する考察—日本語との対照を目指して—

モンコンチャイ アッカラチャイ  
東京外国語大学大学院博士後期課程

名詞句の前に置く場合の限定表現 *khê* と *phian* の意味的特徴については、いずれも「ある要素が唯一のものであることを示し、同類のほかのものを排除する」という「限定」の意味を表すという共通の意味を持っている。この場合、日本語ではとりたて助詞「だけ」「しか」「ばかり」等を用いて表現することが一般的である。しかし、さらに詳細に述べる際にはそれぞれの表現が異なってくる。対象となる事柄を段階的に把握し、何らかの基準より低い段階に置かれている場合と、当該の数量が何らかの基準より「少ないこと」やその数量が「足りないこと」を述べる場合に *khê* と *phian* が同様に用いられるが、TNC (Thai National Corpus) から収集したデータにより *khê* と *phian* についての違いは両者の文体の差があることがわかった。それは、*khê* より *phian* の方が硬い文章で用いられる頻度が高い。

### 1. 本稿の目的

ある要素が唯一のものであることを示し、同類のほかのものを排除するという「限定」の意味を表す場合、日本語では「だけ」「しか」「ばかり」などのとりたて助詞を用いて表す。それに対して、タイ語では、このような意味を表す時には *khê* や *phian* などの語を用いて表現する。

日本語では「だけ」「しか」「ばかり」などのとりたて助詞は、名詞句や動詞句などの後につき、その要素を取り立てる。一方、タイ語の場合、その修飾関係は、被修飾語である主要部に修飾語が後置される NA 型である。そのため、タイ語の限定表現の統語的な位置は名詞句や動詞句の前に置くものとなり、後続の要素を取り立てて限定することになる。次の (1) は *khê* と *phian* を用いた例である。

- (1) *mây mii weelaa læy àan {khê/phian} bòthûi nùg*  
 [否定] ある 時間 だから 読む [限定] レッスン 1  
 (時間がなかったなので、第1章だけ読んだ。)

(1) では、下線部分の「第1章 (*bòtthîi nuòng*)」が *khêe* と *phiaŋ* によって取り立てられることにより、同類の他のもの、つまり「第2章」「第3章」などが排除され、「第1章」のみが「読んだ」唯一の章であるという限定の意味が表される。

本稿では、上記のようなタイ語における限定の意味を表す *khêe* と *phiaŋ* という表現について、それが名詞句の前に位置する場合について、その表現の意味的特徴を明らかにすることを目的とする。

## 2. タイ語の限定表現に関する先行研究の検討及びその問題点

三上 (2002)、Iwasaki & Ingkaphirom (2005)、Surarungsikul (2008) 等による記述では、次のような点についてまだ明らかにされていないと考えられる。三上 (2002) では、*khêe* について「数量が（予想よりも）少ない」という意味を表すとされているが、単に「数量」ではなく何らかの「段階性」ととらえられる場合もあるのではないかと考えられる。また、Surarungsikul (2008) でなされた「当該の物事・出来事・事実は限られた程度を超えない」という意味における *khêe* と *phiaŋ* の区別は適切ではないと考えられる。

## 3. 名詞句の前に位置する場合の *khêe* と *phiaŋ* の意味的特徴

### 3.1 対象となる数量が基準より少ないことを表す

*khêe* と *phiaŋ* は、当該の数量が何らかの基準より「少ないこと」を述べる場合に用いられる。

(2) *maanii kin khêek {khêe/phiaŋ} sǒŋj chin tɛɛ maaná<sup>?</sup>kin tâj sɨp chin*

[人名] 食べる ケーキ [限定] 2 個 しかし [人名] 食べる も 10 個

(マーニーはケーキを2個だけ食べたが、マーナは10個も食べた。)

(2) では、当該の数量 (*sǒŋj chin* (2個)) は話し手のとらえる基準より「少ない」ことが表されている。この場合、文中に現れるように「*maaná<sup>?</sup>kin sɨp chin* (マーナは10個食べた)」ということが、話し手によって1つの外的な基準としてとらえられていると考えられる。また、(3) に示すように、話し手のとらえる基準については、必ずしも言語的に明確に述べられるとは限らない。

(3) *maanii kin {khêe/phiaŋ} sǒŋj chin kháw cuŋ hǐw khûn maa<sup>?</sup>ɨk*

[人名] 食べる [限定] 2 個 彼 だから 空腹 上がる 来る また

(マーニーは2つしか食べなかったため、彼女はまたお腹が空いてきたわけだ。)

(3) でも、当該の数量 (*sǒŋj chin* (2個)) が何らかの基準より「少ない」ことが表されている。この場合、「2個しか食べなかったため、まだお腹が空いている」という因果関係として述べられていることから、「空腹を感じないで済む十分な量」というのが話し手のとらえる基準であると推測できる。

### 3.2 対象となる事柄が基準を満たさない段階に置かれていることを表す

*khêe* と *phiaŋ* は対象となる事柄を段階的に把握し、それが一般的な基準、または、話し手のとらえる基準を満たさない段階に置かれているという場合にも用いられる。

(4) *maanii pen {khêe/phiaŋ} phûan mây-dây pen fɛɛn kàp kháw*

[人名] [コンピュータ] [限定] 友達 [否定] [コンピュータ] 恋人 と 彼

(マーニーは彼の恋人ではなく、ただの友達だ。)

(4) では、話し手は人間関係の親密さを段階的に把握し、恋人になるまでは今の関係より深まらなければならないものだととらえていると推察できる。そして、マーニーは話し手のとらえる基準 (恋人になるまでの十分な親密度) を満たさない段階に置かれているということが述べられている。

また、さらに文脈を読み込めば、*khêe* と *phiaŋ* には他人への軽蔑感や、自分が嘆き悔やんだり、謙遜

したりするようなニュアンスが生じる場合もある。以下の (5) はその例を示す。

- (5) *maanii rian-còp {khêe/phian} pɔɔ sii cà<sup>2</sup> tham-ŋaan aray dây*  
[人名] 卒業する [限定] 小 4 [意志] 働く 何 できる  
(マーニーは小学4年しか卒業してないのだから、何もできないわよ。)

(5) のように、話し手は対象となる事柄(学校教育)を段階的に把握し、「小学4年」が一般的なあるいは話し手のとらえる基準を満たさない段階に置かれているととらえている。そして同時には話し手が相手を「大したもの・ことではない」と軽蔑していることが表されている。

### 3.3 文体的特徴から見た限定表現 *khêe* と *phian* の違いについて

3.1 節および 3.2 節で見てきたように、*khêe* と *phian* については、いずれも「数量が基準より少ないこと」および「事柄が基準を満たさない段階に置かれていること」について表すことがわかった。一方、この2つの語の違いは両者の文体差にあるのではないと思われる。

TNC コーパスでは、法案、学術論文、新聞、小説、一般書籍、その他といったジャンルが設定されているが、このうち、法案および学術論文は比較的硬い文体が用いられるジャンルであると考えられる。TNC コーパスで観察された *khêe* は全 15,291 例であるが、そのうちの 733 例 (5.06%) のみが学術論文の中に見られた。また、わずか 2 例 (0.01%) だけが法案に観察された。*khêe* の全体の出現数から見ると、この2つのジャンルを合わせて 5.07% が見られたにすぎない。

一方、*phian* は全 23,413 例観察されたが、そのうちの 7,639 例 (32.63%) が学術論文に見られる例であり、229 例 (0.98%) が法案において観察された。この2つのジャンルでコーパス全体における *phian* の出現数のうち 33.61% の割合を占めている。このことから考えると、*phian* は、*khêe* とは異なり、硬い文体において用いられる表現であるという特徴があるのではないかと考えられる。

## 4. まとめ

名詞句の前に置く場合の限定表現 *khêe* と *phian* は、その意味的特徴として「対象となる事柄が唯一のものであり、同類の他のものを排除することを表す」という他の限定表現と共通の「限定」の意味を持っている。しかし、さらに詳細に述べると、*khêe* と *phian* は「対象となる数量が基準より少ないこと」を表し、「対象となる事柄が基準を満たさない段階に置かれていること」を表す場合もある。*khêe* と *phian* の違いについては、*phian* は、*khêe* より硬い文体において用いられる表現であるという特徴が観察された。

## 日本語とペルシア語における動詞の自他交替の対照

カーヴェ マグスディ  
東京外国語大学大学院博士後期課程

日本語は、自動詞と他動詞の交替が発達しており、動詞語幹に加わる接辞の変化によって、自動詞と他動詞が形成され、「ナル型」言語として、自動詞構文が卓越している。一方、ペルシア語は、印欧語族の言語ではあるが、同じ印欧語族のロマンス系やスラブ系の言語と違い、日本語の自動詞構文を受動態や再帰動詞ではなく、自動詞構文で表す場合が多く、自他交替が発達しているため、日本語との対照が興味深い。本発表では、日本語の自他対応とペルシア語の（複合動詞における）自他対応を対照させ、特に日本語の *-e-* 他動詞/*-ar-* 自動詞の対応をペルシア語と比較し、日本語は自動詞化が卓越しているのに対し、ペルシア語は自他両方への両極化が卓越していることを明らかにすることを旨とする。

### 1. はじめに

日本語では、接辞の違いによってペアをなす自動詞・他動詞が多く存在し、結果状態に着目した自動詞構文が卓越している。特に日本語の自動詞化プロセスによって作られた自動詞構文は、英語や他の西欧語の言語では、自動詞構文ではなく、受身構文や再帰動詞によって現わされるケースがよく見られる。しかし、発表者が母語としている（印欧語族の）ペルシア語においては日本語同様に自動詞・他動詞のペアが多く見られるので、動詞の自他対応に関する両言語の対照が興味深い。そこで、本発表では Jacobsen (1991) による自動詞化における自動詞・他動詞のペアを参照し、日本語とペルシア語における自他対応の対照を行う。

### 2. 日本語における自動詞化

本発表の対象になるのは、影山 (1996) が「脱使役化」と名付けている *-e-* 他動詞と *-ar-* 自動詞のペアである。すなわち、*-e-* 接辞を持つ他動詞から *-ar-* 接辞を持つ自動詞が派生されたペアである。

例：上げる (ag-e-ru) → 上がる (ag-ar-u)、植える (u-e-ru) → 植わる (uw-ar-u)、温める (atatam-e-ru)  
→ 温まる (atatam-ar-u)

### 3. ペルシア語の自他交替の形式

ペルシア語の自動詞・他動詞に関する先行研究を踏まえ、ペルシア語における自他のペアは次のように分類できる。まず、「単純動詞」としてペアを成す自動詞と他動詞には「使役化」「能格動詞」「意味的に対応するペア」の三つの種類がある。

「使役化」とは、使役化接辞の *-ān-* が加わることによって、項が一つ増えるプロセスである。つまり、自動詞から他動詞が作られる過程である。

ex. *juš + ān* → *jušān* 「沸く」 → 「沸かす」

「能格動詞」とは自動詞と他動詞いずれの場合でも同じ形の動詞が用いられるものである。

ex. *šekastan* 「壊れる」「壊す」

自動詞と他動詞が異なる形態を持つが意味的に対応する自動詞と他動詞のペアを「意味的に対応するペア」と呼ぶ。

ex. *oftādan, andāxtan* 「落ちる」「落とす」

上述のペアは全て単純動詞であり、数も限られている。しかしペルシア語において最も使用頻度の高い動詞は複合動詞である。ペルシア語における複合動詞とは「非動詞成分＋動詞成分」の組み合わせによって形成されたものであり、その非動詞成分として、名詞、形容詞、過去分詞、副詞のような様々な品詞が用いられる。動詞成分の中で、最も使用頻度が高いのは「*kardan*」である。*kardan* は単純動詞としては、「to do」の意味を持ち、複合動詞の動詞成分として用いられるときは、「to do」と「to make」の二つの意味を取る。特に非動詞成分が形容詞のとき、*kardan* は *to make* の意味を持ち、使役動詞として機能する。*kardan* の代わりに *šodan (to become)* が用いられると、起動動詞が形成される。このように複合動詞でも様々な自動詞・他動詞のペアが作られる。

### 4. 形態的な対照

Jacobsen (1991) の日英自他対応表においては、接辞の違いによってペアを成す自動詞・他動詞は16のグループに分けられている。*-ar-* 自動詞と*-e-* 他動詞のグループには70個のペアがある。ここで、その70個のペアと同じ意味を持つペルシア語の動詞のうち、最も代表的なものを抽出し、日本語のペアはペルシア語でどのような形で現われるかについて検討する。日本語のペアの中で動詞の意味範囲が非常に広く、周辺的な意味をいくつかとる動詞もあったが、できる限り最もプロトタイプ的で、かつ多くの場合は入れ替えることができるペルシア語の動詞を選択した。例えば日本語の「上がる・上げる」のペアには「高い場所への移動」や「物価・価値などが高まる」のようなプロトタイプ的な意味があれば、「利益を得る」や「部屋に入る」というより周辺的な意味もある。「上げる」が表す全ての意味を異なる言語のたった一つの動詞で表すのはほぼ不可能であるが、ここでは、対応する様々な動詞の中でよりプロ



トタイプ的な動詞をが選択した。英語の動詞の分析はここでは省略するが、日本語における -ar- 自動詞と -e- 他動詞のペアと相当するペルシア語の動詞は（下の表からも分かるとおり）7つのグループに分けることができる。

日本語の -ar-/e- 自・他のペアと対応するペルシア語の自他対応のペアの生起数

記号	動詞ペアのタイプ	例	数
a	複合動詞 (šodan・kardan)	garm šodan/garm kardan, šoru' šodan/šoru' kardan	39
b	複合動詞 (その他)	jā xordan/jā zadan, yād gereftan/yād dādan	12
c	受身・他動詞	pušānde šodan/pušāndan, baste šodan/bastan	3
d	能格動詞	pičidan, poxtan	2
e	他動詞化	pičidan/pičāndan, nešastan/nešāndan	2
f	意味的に対応するペア	xordan/zadan	2
g	対応しない	daryāft kardan/e'tā kardan, qabul šodan/emtehān dādan	10

上述の表の a, b, d, e, f グループは全て自動詞と他動詞がペアを成しているグループである。つまり、日本語の -ar-/e- 自・他のペアはペルシア語でも上述の a, b, d, e, f グループの場合（ほぼ8割の場合）自動詞と他動詞のペアで現われている。この点からペルシア語では、英語よりも、自動詞が高い頻度で利用されていることが明確になる。また、このうち最も使用頻度が高いのは複合動詞である。a, b から分かつとおりほぼ7割は複合動詞で現われ、「非動詞成分+šodan」と「非動詞成分+kardan」のパターンで作られた複合動詞のペアは全体の半分以上をなしている。

## 5. おわりに

## マーカ―に注目する中日感嘆文に関する一考察 ――“多ム”型と「なんと」型をめぐって

揣迪之

北京外国語大学・日本語研究センター博士前期課程

日本語の典型的な感嘆文である「なんと」型感嘆文は中国語の“多（ム）”型感嘆文に対応するとされてきた。外国語教育の面においても両言語間の翻訳の面においてもそうされてきた。しかし、実は両者の間に性格上の差異もあれば、対応しない場合も数多く存在する。

日本語の「なんと」型感嘆文と中国語の“多（ム）”型感嘆文に関する先行研究を踏まえ、その意味上、用法上の性格を検討し、異同を示唆することで、第一に使用上の特徴をさらに明確にし、第二に感嘆文の深層に存在する表現上の性格に迫ることを試みる。

日本語の「なんと美しい花だろう」という文に対応する中国語が“多ム漂亮的花啊”という文である。前者は「なんと」「なんといい」「なんて」「なんていう」の形式上のバラエティを含めたマーカ―を有することで「なんと」型感嘆文と呼ぶ。同じように、後者は“多ム（DUOME）”およびその短縮の形である“多（DUO）”の形式上のバラエティを含めたマーカ―を有することで“多ム”型感嘆文と呼ぶ。両者とも両言語における典型的な感嘆文である。この両者の間に存在する意味から使用までの対応性から中国語を母語とする学習者は両者が完全な対応関係にあると考えがちなのである。

この両者の対応性を確認するため、筆者は中国の大学で広く使用されている教科書を収録した日本語

教科書データベース（JKDB）を調査した。その結果、一方を用いて他方を説明することと「両者が相当する」というような解釈が多く見られるが、両者の違いを含めたそれ以外の説明が一切ない。実際この二種類の表現に非対称な点が存在することに気づき、本稿が先行研究の指摘を踏まえ、中日対訳コーパス、現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）、北京大学中国語学研究中心コーパス（CCL コーパス）からの例文を手がかりに考察を行い、以下のような結論が得られた。

一. “多ム”型感嘆文の発話では、話し手が感嘆の対象に対して自分の意見を持っていて発表したい、自分の意見を聞いてほしい気持ちから、感嘆の対象にも周りの人にも積極的に関わろうとし、感嘆の対象に向かって前へ一歩進んで評価を下す。“多ム”型感嘆文は伝達性があり、発話時の姿勢も含めて開放的である。一方、「なんと」型感嘆文の発話では、話し手が感嘆の対象に対してあくまで畏敬するか拒絶するかのように距離を置いたり、または程度の甚だしさに圧倒されて接近する余裕がないまま、感嘆の対象から一歩下がって感動のことばを放つ。「なんと」型感嘆文は伝達性が薄く、言わば閉鎖的である。

○你还算好，看你这屋子弄得多ム干净整齐，……

あなたはまだいいわ。このお部屋もきちんとしていて。（『女の人について』）

○まったく、何と欲張りなワン・セット主義であることか。

这是典型的贪得无厌的“大而全”主义。（『タテ社会の人間関係』）

二. 非現実な内容に対する感嘆は、“多ム”型感嘆文で表現することはできるが、「なんと」型感嘆文では表現できない。ただ、中日対訳コーパスでは 101 例で 1 例、BCCWJ では若干例の非現実な内容を扱う「なんと」型感嘆文が見られるため、この点は規則ではなく、原則として理解したほうがよいと考える。

○唉，假如方丹早就去北京治病那该有多好啊！

ああ方丹、早く北京の病院に行ければいいのに！（『車椅子の上の夢』）

○これが生まれて最初の男の子とのキスだったとしたら何て素敵なんだろうって。

假如这是生来同男孩子的第一个吻，那该有多棒！（『ノルウェイの森』）

三. 「なんと」型感嘆文は必ず名詞を文の中心に据える。一方，“多ム”型感嘆文は、「属性概念を表す語+名詞」の構造でも、「属性概念を表す語」だけでも成り立つ。

○ああ何と云う潤いを持った、綺麗な眼だろう。

啊，那是一双多ム漂亮的水汪汪的眼睛呀！（『痴人の愛』）

○なんとという暗さ（名詞）だろう……

多ム黑暗（形容詞）呐……（『砂の女』）

四. 人間の感情および欲求の程度が甚だしい場合，“多ム”型感嘆文で表現できるのに対し、「なんと」

型感嘆文では表現できない。具体的には“多ム”型感嘆文で表現できる感情形容詞の程度が甚だしい場合および「願う」、「必要とする」、「懐かしむ」、「愛する」、「憎む」、「うらやむ」といった心理動詞の程度が甚だしい場合は、「なんと」型感嘆文では対応できない。

○小曦多ム高兴啊！她简直要跳起来了！

小曦は飛び上がりそうになった。（『車椅子の上の夢』）

○我多ム希望妈妈能了解了解我心里的苦处啊！

お母さんに苦しみを分かってほしかった。（『ああ、人間よ』）

本稿の議論を概観すると，“多ム”型感嘆文は「なんと」型感嘆文に比べ、使用上により包括的である。

## 日中両言語における心理状態・属性を表す語の一考察

張舒鵬

東京外国語大学大学院博士後期課程

日本語には、同じ語基を持っており、かつ感情・評価表現にかかわる形容詞-動詞のペア（【あわれだ-あわれむ】や【かなしい-かなしむ】など）がある。一方、中国語のいわゆる「心理動詞」の中に、動詞として主語者の感情を表す以外に、形容詞風にモノへの評価込みの属性を表す用法があるもの（【可怜】（あわれむ/かわいそうだ）や【烦】（いらいらする・いらいらさせる/いやらしい）など）がある。

本発表では、コーパス（日本語では「現代日本語均衡コーパス（BCCWJ）」、中国語では「北京大学中国語学研究中心（CCL）語料庫」）を用いて、これらの語が述語になるときに現れる名詞項の意味役割や、文構造上の特徴を考察し、感情・評価表現をめぐる両言語の語の相違や共通性を考えようとする。こととする。

本発表では、日中両言語において、同じ語（日本語の場合は語基・語根を共有する形容詞・動詞のペア）を用いて、人間の心理状態と物事の属性の両方を表しうるという現象に注目し、上記現象が見られるような語（または語のペア）を研究対象として、それらの語が述語になる時の、文に現れる名詞項目対述語の意味役割に基づく構文パターンの観点から、これらの語の多義のあり方を類型化した。なお、名詞項目の意味役割を確認する手段として、コーパス（日本語では「現代日本語均衡コーパス（BCCWJ）」、中国語では「北京大学中国語学研究中心（CCL）語料庫」）を利用した。類型化した結果、研究対象の語（または語のペア）が述語となるとときに現れる名詞項目の意味役割のあり方に応じて、日本語では3つのグループ、中国語では5つのグループの存在が明らかになった。このことから、次のようなことが考えられる。①語の多義のあり方に関して、中国語が日本語よりややバリエーションが多いようである。②それぞれの語が表す〔属性〕の意味は、話者による評価の色合いが濃いようなものが多いようである。

## 1. 考察対象

### 1.1 日本語の場合

日本語では、【悲しい—悲しむ】【尊い—尊ぶ】のような【X-i; X-m(b)u】などのペア、【わずらわしい—わずらう・わずらわす】のような【X-ashii; X-u, X-asu】のペア、【面白い—面白がる】のような【X-i; X-garu】のペアを扱うこととする。

### 1.2 中国語の場合

中国語において心理状態・属性の両方を表しうる語は日本語ほど数多くなく、かつ「～がる」のような形容詞から心理状態動詞を作る接辞がない。本発表では【奇怪】【可怜】【讨厌】【讲究】【烦】【可惜】【苦】【麻烦】などを考察対象とする。

## 2. 名詞項の意味役割および構文パターン

### 2.1 名詞項の意味役割

研究対象が述語になるときに文に現れる名詞項目の、述語に対する意味役割は本発表では次のようなものが観察された。便宜上、用例は簡略化したものを使うとする。

#### ① 属性の持ち主（対属性）

- ・ **先生の話**は面白かった。
- ・ **娘儿俩**无依无靠真可怜。（**親子2人**は頼るものもなく本当にかわいそうだ。）

#### ② 心理状態の主体（対心理状態）

- ・ **わたし**は故郷が懐かしい。／**わたし**は故郷を懐かしむ。
- ・ 要是你早告诉我，**我**也就不奇怪了。（君が早く言ってくれば、**僕**だっておかしく思わなかったんだ。）

#### ③ 心理状態の対象（対心理状態）

- ・ わたしは**父の死**が悲しい。／わたしは**父の死**を悲しむ。
- ・ 我也不太清楚**这儿的情况**。（**この様子**はわたしにもよくわからない。）

#### ④ 心的態度の対象（対心理状態）

- ・ 親は**子**をあわれむ。
- ・ 他这是自作自受，没人可怜**他**。（これは彼の自業自得だ。誰も**彼**に同情などはしない。）

#### ⑤ 心理（生理）変化を引き起こすモノ（対心理（生理）変化を引き起こす動作）

- ・ **相手チーム**は猛チャージをかけてこちらを苦しめてくる。
- ・ **你**又来烦我。（**おまえ**はまた俺をいらいらさせてきた。）

#### ⑥ 心理（生理）変化が起きるヒト（対心理（生理）変化を引き起こす動作）

- ・ 相手チームは猛チャージをかけて**こちら**を苦しめてくる。
- ・ 你又来烦**我**。（おまえはまた**俺**をいらいらさせてきた。）

### 2.2 構文パターン

以上整理した名詞項目の意味役割に基づいて、本発表の研究対象となる語（または語のペア）の構文パターンを次のようにまとめることができる。

イ <属性の持ち主>—〔属性〕

- ロ <心理状態の主体>— (<心理状態の対象>) — [心理状態]
- ハ <心理状態の主体>— <心的態度の対象>— [心理状態]
- ニ <心理 (生理) 変化を引き起こすモノ>— <心理 (生理) 変化が起きるヒト>— [心理 (生理) 変化を引き起こす動作]

### 3. 類型化

2. で見てきた名詞項目対述語の意味役割および語の構文パターンに基づいて、同じ構文を持ちうる語を同じグループのものとして、次のように類型化した。

グループ	日本語	中国語	イ	ロ	ハ	ニ
A	【悲しむ—悲しい】など	【奇怪】 【明白】	○	○		
B	【あわれだ—あわれむ】など	【可怜】 【讨厌】	○		○	
C	【苦しい—苦しむ・苦しめる】など	【苦】	○	○		○
D		【麻烦】	○			○
E		【烦】	○	○	○	○

○=その構文パターンを持ちうる

### 参考文献

- 国立国語研究所 (1972) 『形容詞の意味・用法の記述的研究』 秀英出版
- 朱徳熙 (1982) 『语法讲义』 商务印书馆

## 複合動詞「～あげる/あがる」と中国語補語<-上>の意味拡張に見る 日本語と中国語の空間認知の相違

張正

東京外国語大学大学院博士前期課程

日本語の「動詞+あげる/あがる」と中国語の<動詞+上>の基本義は「上方移動」を表すが、「～あげる/あがる」と<-上>が複合動詞の後項として機能する場合、その意味拡張には相違点がみられる。日本語においては、「完成アスペクト：炊き上がる / 書き上げる」のように、「上」UP という概念が、「良い結果状態」即ち UP=GOOD という意味に拡張する。一方、中国語では、「付着・接触：貼上 邮票（切手を貼る）」のように、<-上>は ON という平面概念に意味拡張をおこす。国際日本研究センターHP で公開している「オンライン英作文学習者コーパス・誤用辞典」では、「on が正しいのに、in を用いる誤用」が、前置詞の誤用のなかで最も多い。これは、英語と比較しても、日本語の空間認知において、ON という事態把握が少ないという特質を示している。

### 1. はじめに

日中両言語において、上昇を表す複合動詞の後項はそれぞれの代表として「～あげる」「～あがる」と「～上」が挙げられる。両者は「上への移動」という基本義を持っており、派生義にいずれも時間に関わるものがある。「～あげる」「～あがる」と「～上」は空間から時間へ拡張する点で共通点を持っているが、時間に関わる派生義の中身において、相違点が見られる。本稿では日本語の複合動詞後項「～あげる」「～あがる」と中国語の補語成分「～上」を取り上げて、両者の時間に関わる派生義における相違点を考察する。

### 2. 「～あげる」、「～あがる」における空間から時間への意味拡張

姫野(1999)は複合動詞「～あげる」「～あがる」を後項動詞の意味特徴によって分類した。本節は、姫野(1999)の分類における「完了・完成」のグループを取り上げて、「～あげる」「～あがる」における空間から時間への意味拡張について分析を行う。



「～あげる」「～あがる」の「完了・完成」を表す意味はメタファーに基づく拡張と説明することができる。プロトタイプ的な意味の中「上」という要素が「完了・完成」の意味では「良い結果状態」に転換される。即ちUP=GOODという意味に拡張する。「空間」という意味要素が「時間」へ拡張すると考えられる。即ち、「上への空間的移動」から「時間軸における良い結果状態への移動」へという派生プロセスとして理解できる。

### 3. 中国語の補語成分「～上」における空間から時間への意味拡張

本節は劉(1998)の分類によって、「～上」における空間から時間への意味拡張について分析を行う。

#### 3.1. 「～上」の趨向意味

「～上」の趨向意味とは、①動作にともなって、主体或いは対象物が上に移動し、高いところに到達することを表す。また②前へ進み到達することを表す。

この類は、前項動詞が主に「飛(飛ぶ)」、「抬(担ぐ)」、「追(追う)」のような空間移動を表す動詞である。

(1) 老鹰 飞上 了 蓝天。/鷹は、青空に舞い上がった。(喜多田(1982))

鷹 飛ぶ - あがる LE 青空

(2) 快 跑, 别 被 他 追上。/速く走れ、彼に追いかけるな。(作例)

速い 走る するな られる 彼 追う - かける

例文(1)の「～上」は「～あがる」と同じように「上への移動」を表す。しかし、中国語の「～上」には「到達点」が含まれている。例文(2)の「～上」は「上への移動」という意味が失われ、単に到達を表す。

#### 3.2. 「～上」の結果意味

この類は、前項動詞が①「吃(食べる)」、「买(買う)」、「住(住む)」のような「入力」の意味を表す動詞であり、「～上」と結合して、「(達成しにくい)目的を達成した」という意味を表す。また②「考(受験する)」、「当(なる)」のような「出力」の意味を表す動詞と結合し、「努力によって好ましい結果が出る」という意味を表す。

(3) 终于 住上 新 房子 了。/やっとのことで、新しい家を住むようになった(作例)

やっと 住む 新しい 家 LE

(4) 他 考上 大学 了。/彼は大学入試に合格した。(作例)

彼 受験する - 受かる 大学 LE

ここでの「～上」は「上への移動」という空間移動を表さず、動作の終了また動作の結果を表す。これは趨向意味①から派生したと考えられ、「達成」という結果状態に注目する。

#### 3.3 「～上」の状態意味

この類における「～上」は新たな状態に移り、動作あるいは状態の開始を表す。

(5) 这 孩子, 怎么 又 玩上 了。/この子、またどうして遊びだしたのか。

この 子、なぜ また 遊び - 始める LE

ここでの「～上」は趨向意味②から派生したものであると考えられ、新たな状態に「到達する」、その結果、

動作や状態が開始され、持続されると考えられる。

#### 4. まとめ

複合動詞「～あげる」「～あがる」は完了・完成の意味を表すとき、「～あげる」「～あがる」に含まれる「上」という概念が UP から GOOD へ拡張することがわかる。一方、中国語の補語成分「～上」は、結果意味を表すとき、「～あがる/～あげる」と同じく、GOOD という「良い評価」に結びついている。しかし、結果意味において、「～上」の方が「結果に到達する」という ON のイメージが強い。また、時間に関わる派生義において、「～上」は「開始」を表すこともできる。「開始」を表す場合は、「上」が水平の「前」に転換され、前へ進み、到達するという具体的な空間移動から、新たな状態に移るという抽象的な意味へ拡張し、「開始」の意味が派生する。「開始」の意味においても、「到達」という ON のイメージがはっきりしている。

#### 参考文献

- 姫野昌子(1999) 『複合動詞の構造と意味』 ひつじ書房  
劉月華(1998) 『趨向補語通釈』 北京語言文化大学

## コーパスに基づく日本語反復形容詞の研究

陳祥

台湾国立政治大学大学院博士前期課程

本研究の目的はコーパスに基づく反復形容詞の意味用法を記述することである。従来の研究は日本語の反復形容詞の形態・意味と機能について考察している。しかし、反復形容詞と同じ語幹を有する表現との間の違い、例えば「痛い、痛ましい、痛む、痛々しい」や「憎い、憎たらしい、憎む、憎々しい」の間の違いは考察していない。

本稿は BCCWJ (現代日本語書き言葉均衡コーパス) から収集した用例を基にして分析を行う。「XXしい」反復形容詞の用法や、反復形容詞と同じ語幹を有する類義表現との間の違いを明らかにする。

### 1. 研究動機及び目的

本研究で言う「反復形容詞」とは、「痛々しい」「憎々しい」のような「XXしい」構造を持つ形容詞を指す。反復形容詞について「重複形容詞」という用語を使う学者(蜂矢 1981、頼 2001、荒川 2006)と「反復形容詞」という用語を使う学者(湯 2012)がいる。本研究は「反復形容詞」という用語を使う。

反復形容詞の意味についてすでに先行研究で指摘されている。湯(2012)では、反復形容詞は一般に「いかにも…である/見るからに…そうな様子」と解釈することができると指摘している。また、飛田・浅田(1991)は、反復形容詞は「いかにも…である/見るからに…そうな様子」という意味を表すと指摘し、以下の例を取り上げている。

(1)彼は怒ってあらあらしく床を踏み鳴らした。(飛田・浅田 1991:35)

(2)彼の包帯はまことにいたいたしい。(飛田・浅田 1991:58-59)

例えば、例(1)では「荒々しい」は、「行為態度などがいかにも乱暴で粗雑である様子」を表し、例(2)

では「痛々しい」は「見るから痛そうな様子、また、心に苦痛を覚えて正視できない様子」を表す(下線部は筆者)。このように、反復形容詞の意味について、飛田・浅田(1991)も湯(2012)も同じ記述をしていると考えられる。

さらに、湯(2012)は「XXしい」という反復形容詞は一般に重複による強調の意を表すと述べている。また、飛田・浅田(1991)も次の例を取り上げ、反復形容詞は「非常に…」の意味を表すとしている。

(3) あんな軽薄な奴にだまされるなんていまましいったらありやしない。

(飛田・浅田 1991:65-66)

(4) 飼育係はなまなましい嘔み傷を見せてくれた。(飛田・浅田 1991:410)

例えば、例(3)と例(4)における反復形容詞は「非常に怒りを感じる様子」と「非常に新しい」という意味であるとしている。(下線部は筆者)

このように、反復形容詞の意味について先行研究では「いかにも…である/見るからに…そうな様子」という意味を表し、強調の意味を持つと指摘されている。

例(5)が示すように、「痛々しい」は「痛い」という同じ語基を持つ形容詞と同じ文脈で言い換えられ、類義関係にあると考えられる。

(5) a. 左足首が腫れて痛々しいです。

b. 左足首が腫れて痛いです。

また、例(6)のように、「痛々しい」は「痛ましい」という同じ語基を持つ形容詞と同じ文脈で言い換えられ、類義関係にあると見られる。

(6) a. 顔面の挫傷が痛々しく感じられた。

b. 顔面の挫傷が痛ましく感じられた。

しかし、例(7)の「痛々しい」を「痛い」に置き換えると不自然な文になる。

(7) 父親をいたわる痛々しい姿を眺め、後悔してたずねた。

痛々しい姿→\*痛い姿

澤田ふじ子(1998)『女狐の罨』

また、例(8)の「痛々しい」を「痛ましい」に置き換えると不自然な文になる。

(8) 晴々したところが消し飛んで、見るも痛々しい様子。

痛々しい→\*痛ましい

加賀乙彦(2002)『雲の都』(下線は筆者)

以上の説明から、反復形容詞「XXしい」は同じ語基「X」を持つ「Xい」や「Xましい」などと意

味が類似している部分があれば、異なる部分もあることが分かる。しかし、先行研究ではそれについて指摘していない。

本研究は反復形容詞「XXしい」と同じ語基「X」を持つ「Xい」や「Xましい」などの語と比較することによって反復形容詞の意味用法を明らかにする。おな、反復形容詞と副詞「XXと」の意味用法を明確にする。

## 2. 先行研究とその問題点

反復形容詞においては、すでにさまざまな研究や議論が行われている。一体、それらはどういう論点から記述されたのか、以下は「反復形容詞の語構造を中心にみる研究」と「反復形容詞の意味を中心にみる研究」を大別にし、いくつかの先行研究から反復形容詞をめぐる考察を見ていく。(省略)

## 3. 研究対象と研究方法

先行研究(頼 2001:106-107 と荒川 2006:75-76)や『現代形容詞用法辞典』などを参考し、「XXしい」と「XXしい」と同じ語基を持つ「Xい」や「Xましい」などをまとめる。合計 18 数の反復形容詞を研究対象とする。そして、「XXしい」の語は構造面から分類してみると、A (XXしい-Xい)、B (XXしい-Xい-Xましい)、C (XXしい-Xい-Xたらしい) 三つのタイプに再分類することができる。(省略)

研究方法是国広(1995)が用いた服部(1968:62)の提案した二つの作業原則に基づき類義語を分析する。BCCWJ(中納言アプリケーション)を利用して用例を収集し、分析を行う。

本研究は、これらの反復形容詞「XXしい」と同じ語基「X」を持つ「Xい」や「Xましい」などの語と比較することによって反復形容詞の意味用法を明らかにする。(省略)

## 4. 参考文献

(省略)

## 日本のアニメーションは海外でどのように日本語学習に用いられてきたのか —元学習者へのインタビューからみる1980年代、1990年代の アニメーションを用いた日本語学習の実態—

臼井直也

東京外国語大学大学院博士後期課程

近年、海外での日本のアニメーション人気が様々に報じられている。日本語教育においても国際交流基金がアニメーションへのニーズに対応した教育の必要性を挙げ、アニメーションやマンガの表現が学べるEラーニングサイトを作成するなど、積極的な動きが広がり、特に2000年以降、作品分析、実践報告、学習動機に果たす役割など様々な研究が行われている。アニメーションは本来日本語学習を意図して発信されたものではなく、学習者が自主的に学習に活用したものであるが、先行研究では、日本側でその人気を認識する以前にアニメーションがどのように学習に用いられていたかは十分明らかになっていない。本発表では、海外における日本のアニメーション受容史を概観した後、元学習者のインタビューデータおよび文献資料を用い、学習への活用が本格化した1980年代から90年代の学習実態を中心とした日本語学習とアニメーションの史的関係について論じる。

### 1. はじめに

近年、日本語教育の中でアニメーションやマンガなどのポップカルチャーに関する研究、実践が盛んになっている。海外でのアニメーションやマンガの人気が日本で報じられるようになったのは2000年以降と言われているが、日本語教育でも徐々にその活用の動きが現れ、その一例としては国際交流基金作成の独習用Eラーニングサイト「アニメ・マンガの日本語」があげられる。研究分野においてもここ数年、作品分析や実践報告、学習動機に関する研究が多数行われているが、日本でその人気認知された2000年以前から学習者はアニメーションやマンガを日本語学習に取り入れていたことが報告されている(川崎 2011 など)。本発表では、日本のアニメーションが海外で受容された流れを踏まえつつ、文献資

料に加え 1980、90 年代に日本のアニメーション作品を見て育った元学習者のインタビューデータから、アニメーションと日本語学習との関連を論じる。

## 2. 日本のアニメーションの海外発信史

日本のアニメーションが海外に発信された歴史は古く、日本初のアニメーションが作られた 1917 年にさかのぼることができる。作品の発信が本格化した戦後では、大藤信郎、久里洋二、川本喜八郎といったアニメーション作家が海外へ作品を発信している。一方、1960 年代からはテレビ作品の発信も始まり、アメリカでは『鉄腕アトム』（虫プロダクション）の放送を皮切りに数多くのテレビ作品が放送され、欧州でも 1970 年代後半に東映動画作品や日本アニメーション作品がイタリア、フランスに大量に流れ込み、ヨーロッパ各国へと受容が広がっていく。その後、日本のアニメーションの認知は徐々に高まり、90 年代に入ると『AKIRA』（監督・大友克洋）や『攻殻機動隊』（監督・押井守）などの作品、その後は『ポケットモンスター』やスタジオジブリ作品の人気をきっかけに日本のアニメーションの人気は高まり、今日に至っている。

## 3. 研究方法

1910 年代から発信が始まった日本のアニメーションだが、言語学習への活用という観点から見ると、個人で繰り返し作品を視聴できるテレビ作品の発信以降に本格化したと考えられる。本研究では、上述のテレビ作品発信期に焦点を当て、当時の海外での視聴体験を持つ元学習者にアニメーションと日本語学習の関わりについてのインタビューを行った。

インタビューは 70 年代後半からテレビ作品が多数流入したイタリア、フランスで生まれ、70 年代以降の作品を幼少期から青年期に視聴した日本のアニメーション第一世代の二名である。半構造化インタビューを行い、当時のアニメーション視聴体験や日本語学習との関わりについての聞き取りを行ったのち、文字起こししたデータの分析を行った。

## 4. インタビューの語りから見るアニメーションと日本語学習の関わり

現在マンガ翻訳を中心に活躍しているイタリア出身のインタビューは、イタリアで東映動画作品の放送が始まった 1970 年代後半から作品を視聴していた日本アニメーション第一世代である。幼少期から日本の作品を視聴しており、日本のアニメーションへの関心から日本語に興味を持った。高校入学前後、日本のマンガが特集された雑誌に載っていた片仮名の五十音図で日本語の学習を始めたそうである。その後、高校在学時に地元の大学で開講されていた 2 年間の日本語コースに参加し、本格的な日本語学習を開始した。当時、日本にいる同年代の人と文通を行っており、そこでアニメーションやマンガについて日本語で書くことがあったそうである。このようなアニメーション、マンガに関連した日本語使用のほかに、当時読んだと語ったマンガ関連書籍を確認したところ、漢字や擬態語、擬音語の説明があり、言語知識も学んでいた可能性がある。高校卒業後、知人の紹介でマンガ翻訳を始めるが、「知らない言葉や表現が多く毎日が勉強だった」と語っている。

以上のように、翻訳の仕事をするまではアニメーション、マンガを媒介とした他者とのやり取りにおける日本語使用が、翻訳を行うようになってからはより意識的な日本語学習との関連が語られた。

次に、フランス出身のインタビューの語りについて論じる。現在、アニメーション比較史の研究者であり、日仏の大学でアニメーション関連の講義を担当しているインタビューは、フランスのアニメ

ーション第一世代に属する。幼少期から日本のテレビアニメーションを視聴し関心を持っていたが、それが日本の作品であることは認識していなかったそうである。高校入学時に第三外国語として日本語が選択できるようになったことがきっかけで日本語の学習を始めたが、日本語学習は「偶然だった」と語っている。アニメーションが日本語学習と結びつくのは大学時代、スタジオジブリ作品を家族や友人に紹介するために、フランス語字幕を作成した経験である。また、大学での試験や卒業論文執筆のために日本から入手した高畑勲監督の著書を読んでおり、関連書籍を用いた日本語学習例も挙げられた。

以上のように、大学入学後にアニメーションと日本語の学習が部分的に結びつき、台詞の日仏翻訳という関わりのほか、大学での試験や卒業論文というアカデミック場面での関わりが語られた。

## 5. まとめと今後の課題

本研究では、これまで報告がなされていない1980、90年代のアニメーションと日本語学習の関わりの実態を分析した。今後も両インタビューへの追加調査を行うとともに、同じく80年代以降テレビ作品が流入した東南アジアなど、異なる地域でのアニメーションと日本語学習の関わりについて、また世代間での関わり方の違いについて調査していきたい。

### <参考文献>

川崎タルつぶら (2011) 「アニメファンから日本語学習者へ—トリニダード・トバゴの学習者の事例研究」『日本語教育方法研究誌』18 (1), 32-33, 日本語教育方法研究会



## 聴解ストラテジーに対する意識調査 —台湾人日本語学習者を対象として—

王睿琪

東京外国語大学大学院博士後期課程

言語学習において「書く」「読む」「話す」「聞く」の4技能を均等に習得することは理想である。しかし、「聞く」という言語活動は瞬時に消えてしまう言語情報を、その都度掴まえて理解したり、深めたりする一連の受動・能動的な活動が要求される。他の3技能の言語活動とは異なり、自分のペースで反復、中断することが困難である。さらに、様々な日本語能力試験の採点結果から分析すると、特に聴解の正解率は最も低い。このことから聴解力の向上は容易ではないと考えられる。それ故に聴解活動は聞き取った情報を深めたり、聞き取れなかった箇所を補ったりするために、聴解ストラテジーを上手に使いこなすことが重要である。にもかかわらず、目下の聴解指導は試験に如何に得点を獲得することに集中しがちである上に、聴解ストラテジーに関する実践的なデータが不十分といえる。聴解学習の指導のためには、前段階として、学習者の聴解ストラテジーに対する意識を把握する必要がある。本研究は聴解ストラテジーに対しての学習者の意識を考察することにある。

### 1. はじめに

言語学習において4技能（読む・書く・聞く・話す）のうち、「聞く」という言語活動は他の3技能の言語活動とは異なり、自分のペースで活動を進めたり中断したり反復することが困難である。提示された瞬時に消えてしまう言語情報を、即座に認識し理解を深める一連の受動・能動的な活動が要求される。聴解能力の養成は最も困難であると指摘されている。故に聴解活動で聞き取った情報の理解を深めたり、聞き取れなかった箇所を前後から補ったりするために、聴解ストラテジーを上手に使いこなすことが重要である。聴解学習の指導のためには、その前段階として、学習者の聴解ストラテジーに対する意識を把握する必要がある。本研究は非対面聴解を中心に聴解ストラテジーに対しての学習者の意識を考察す

る。

## 2. 先行研究

Vandergrift (2003) によると、聴解活動にはメタ認知ストラテジーが最も使われている。また、熟達者は理解モニターと精緻化などのような深層的なストラテジーを多用している一方、未熟者は翻訳などのような表層的なストラテジーを多用していると述べている。Do (2010) では、学習者は「目標を立てる」「聞き取れた内容をメモする」がよく使われている。また、学年が上がるにつれ、「メモを取る」の使用頻度が高くなると報告している。これは聴解指導法による影響であると指摘されている(尹 2001)。学年の使用状況については、低学年では「単語の意味を母語に訳しながら聞く」「たくさんの語彙や文法を覚える」がよく使われているが、高学年では「キーワードなどを探す」「得た情報を基にしてテーマについて推測する」がよく使われている (Do2010)。尹 (2005) では、「語彙に頼る推測」「語から文への構築の推測」のパターンの使用は多く観察されたが、成功への導きは少なかったと報告している。

## 3. 調査概要と結果

### 3.1 調査の目的と調査対象者

本調査は主に学習環境と習熟度により、聴解ストラテジーに対する意識は異なるのか、もし異なるならどこが異なるかを調査することを目的とする。調査の対象者は中国語を母語とする台湾人日本語学習者であり、計 224 名である。その構成は JFL<sup>1</sup>106 名、JSL<sup>2</sup>118 名、また、男性 75 名、女性 149 名で、習熟度の内訳は、初級 91 名、中級 56 名、上級 77 名である<sup>3</sup>。

### 3.2 聴解ストラテジーの定義と調査方法

本研究では、聴解ストラテジーを「聴解活動では言語情報を理解したり、不完全なインプットによって生じた問題箇所を修復したり、言語情報の意味を構築したり、感情の制御をしたりするために意識的に用いる方策」と定義する。調査は質問紙を用い、2010 年 8 月～11 月の間、台湾の台北と日本の東京で実施した。質問紙の設問は、尹松 (2001)、山下 (2000) を参考にしながら、30 項目を作成した。それらを再び Vandergrift (1996、1997) の分類方法を基にして、細分類した。その結果、メタ認知ストラテジー (以下はメタ認知) は 10 問、認知ストラテジー (以下は認知) 19 問、ストラテジー連鎖 1 問<sup>4</sup>から成っている (別紙を参照)。質問項目の評価方法は意味微分法で、t 検定と分散分析で検討した。

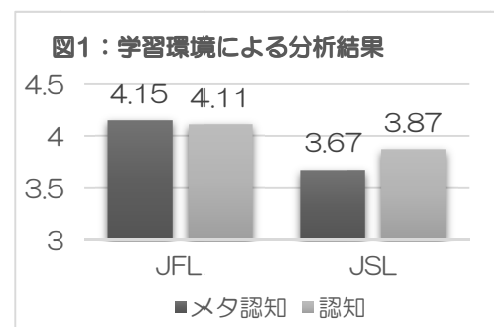
### 3.3 調査結果

#### 3.3.1 学習者全員の分析結果

学習者全員のデータを分析した結果、メタ認知の平均値は 3.90 で、認知は 3.99 である。メタ認知は「MS1: 計画を立てる」の平均値が最も高い。次は「MS2: 確認モニター」「MS3: 自己評価」の順である。認知は「NS6: メモを取る」の平均値が最も高い。次は「NS4: 情報探し」「NS2: 精緻化」「NS9: 保留」の順である。一方、「NS8: 聞き流し」は最下位である。

#### 3.3.2 学習環境による分析結果

JSL と JFL のメタ認知と認知の使用頻度を分析したところ、両グループでは頻度が異なることが明らかになった。JFL はメタ認知の使用は認知より高かったが、JSL は認知のほうが高か



<sup>1</sup> JFL は海外で外国語として勉強している日本語学習者である。

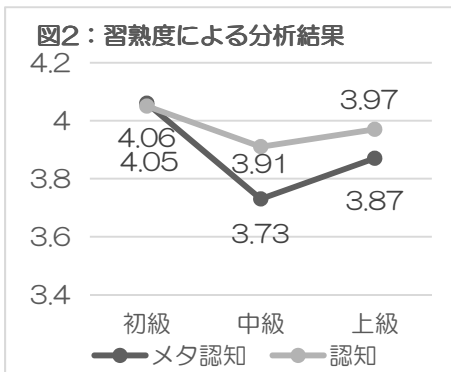
<sup>2</sup> JSL は日本で第二言語として勉強している日本語学習者である。

<sup>3</sup> 初級は N4 と N5 に相当、中級は N2 と N3 に相当、上級は N1 に相当する。

<sup>4</sup> ストラテジーの連鎖は今回分析しない。

った。各ストラテジーの使用頻度を比較すると、全般的に JFL のほうが JSL より高い。しかし、メタ認知の「NS8：聞き流し」のみ、JSL のほうは JFL より高い。さらに、t 検定を行ったところ、メタ認知の「MS1①：聞く目的を確認する」「MS1②：細部まで聞く」「MS1③：焦点を絞る」「MS2①：目標達成度の確認」「MS2②：予測・推測の確認」「MS2③：理解度のチェック」「MS2④：振り返って確認する」「MS3：自己評価」と、認知の「NS3：要約」「NS6：メモを取る」「NS8：聞き流し」「NS9：保留」、計 12 の項目は有意差が見られた。

### 3.3.3 習熟度による分析結果



習熟度による使用頻度を比較すると、全般的に中級に上がるとストラテジーの使用は一時的に下がったが、上級に上がると再び上昇する。しかし、そのうちに「MS1：聞く目的を確認する」「NS4：情報探し」「NS8：聞き流し」の3つは徐々に上昇する一方、「NS3：自己評価」「NS1④：音声知識からの推測」の2つは徐々に下がる。さらに、分散分析を行ったところ、「MS2⑤：聞き取れた内容の確認（初級>上級）」「NS6：メモ（初級>上級）」「NS8：聞き流し（上級>初級）」の3つは有意差が見られた。

## 4. 考察

本調査では、台湾人日本語学習者が聴解ストラテジーの使用についての意識を検討した。学習環境により学習者はメタ認知と認知の使用頻度が異なり、JFL はメタ認知のほうが高い一方、JSL は認知のほうが高いことが分かった。特に JFL は JSL よりメタ認知の使用が高く、細部まで聞き取ろうという傾向が見られた。習熟度が上がるにつれ、ストラテジー毎に個別にみると、それぞれ多くなったり、少なくなったりする変動があったが、全般的には中級に上がると一時に下がるものの上級に上がると再び上昇する。また、初級はメタ認知と認知を使用する最も高い意識を持っていることが分かった。

学習者の多くは正確に聞き取ろうという傾向があり、特に教室外では自然な日本語に接する機会が少ない JFL と習熟度が低い初級の学習者ほど注意深く聞き取ろうとするために、メモを取ったり、保留をしたり、あらゆる手がかりを探ったりする。特に「メモを取る」意識が高く、メタ認知のカテゴリーの中に最も使われているストラテジーである。しかし、メモすることに意識が向き後続の情報を聞き漏らす可能性がある。そのため、ノートテイキングのスキル、つまり簡略化したメモを取るスキルの養成は差し迫った課題である。そして、推測のカテゴリーの中に「母語語彙知識からの推測」の使用頻度は極端に高い。単に母語の語彙知識からの推測は内容と異なった方向に推測する恐れがある。従って、単独のストラテジーを使うのではなく、ほかのストラテジーと併せ同じ箇所に複数のストラテジーを併用するよう推奨する。

## 日本語の「が」と中国語の「一個」における空間認知と事態把握 ——中国語の誤用コーパスからみた日本語の特質——

張学博

東京外国語大学大学院博士前期課程

国際日本研究センター国際日本語教育部門では、「オンライン英作文学習者コーパス・誤用辞典」試用版をHP上に公開している。この誤用辞典では、日本語母語話者には、on/at を使うべきところへの「in」の過剰使用が顕著である。これは、日本語ではINという「曖昧な空間」「ウチとソト」といったイメージスキーマ化が卓越し、ON/ATのイメージスキーマ化が顕著ではないことに起因する可能性を提示する。この日本語の特質は、日本語母語話者上級中国語学習者コーパス「TUFUS 満月コーパス」の誤用にもみられる。例えば、「場所名詞+上」の「上」の欠如は、ON概念の欠如によるもの、「一个/一种/一件」等の「ひとまとまり性」を表わす数量詞の欠如は、日本語におけるAT概念の欠如によるものと考えられる。

### 0.はじめに

まず、コーパスから抽出した誤用例を挙げる。

例:①a.那时发生了(一件)不幸的事。(現象文:出現、新情報)

(先週、悲しいこと**が**発生した。)

b.这天,我们村死了(一个)老太太。(現象文:消失、新情報)

(この日、うちの村ではあるお婆さん**が**死んだ。)

②最近在车站附近开了(一家)中餐馆。(現象文:出現、新情報)

(最近、駅の近くで新しい中華レストラン**が**開店した。)

③东大和有(一个)很大的公园…东大和南公园,附近也有(一条)小河。

(存在文:中立叙述)

(東大和には、とても広い公園**が**ある。東大和南公園の近くにも川**が**ある。)

④去年、网络的(一篇)文章“中国女性和日本女性的一生”引人注目。

(主語文:新情報)

(去年、ネット上で「中国人女性と日本人女性的一生」という文章が注目された。)

## 1.問題提起

上の誤用例によると、中国語の名詞は、数量詞(「一個」など)に修飾される必要があると見られる。また、日本語を母語とする中国語学習者は、「一個」の欠如が非常に多いことが分かった。しかし、このような例文は意味上数量詞が必要ではないかもしれないが、文法上数量詞が欠如していると非文となる。

そこで、これらの数量詞はもはや単なる計数や類別という意味を表しているのではないことがわかった。そもそもこのような特殊な用法はいかに生じたのであろうか、あるいは、名詞がどのようなときに数量詞に修飾されるのか、また日本語のどのような特性が反映しているのであろうか。

本論では、認知的なアプローチの視点から出発し、中国語における数量詞の「個体化」機能が発生する認知的な要因を探りながら、日本語の格助詞「が」との対照を試みたいと思う。更に、日本語の特性を明らかにしたい。

## 2.数量詞の機能

2.1 古川(1997)は、数量詞の用法には次の三機能があることを述べている。

a 計数機能 b 類別機能 c 個体化機能<sup>5</sup>

2.2 数量詞の a 計数機能と b 類別機能は、中国語学習者にとって、習得しやすいが、とりわけ習得と理解が難しいのは、c の個別化機能の用法(大河内(1985))である。上に挙げられた数量詞に関する誤用の種類はすべて c 種類に属している。

## 3.現象文

3.1 古川(1997)は、「外界を認知するとき人間の知覚が特に敏感に反応するのは、「無」に生じた「有」、そして、逆に「有」に「無」になること、という事態変化であらう」と述べている。

上の理論によると、言語表現としては、前者はある事物の「出現」を表す描写文に対して、後者はある事物の「消失」を表す描写文として実現する。しかしどちらにしても、聞き手に対しては、「新情報」の一種として見られている。すなわち、現象文はその典型的なタイプである。

3.2 久野暉(1973)は「情報の新旧」という観点から「は」と「が」の使い分けを検討している。久野は「は」を旧情報を表わすもの、「が」を新情報を表わすものとしている。更に、認知的な観点から見れば、やはり「が」は事物の「出現」を表わせる。

3.3 そこで、中国語の現象文における「一個」と日本語の「が」はある対応関係がある可能性が出てくる(例①②)。

## 4.存在文と主語文

---

<sup>5</sup> 大河内(1985)が述べているように、数量詞には「類名である裸の名詞に「一個」がついて、個別物の表示に収斂していく」という機能を認めることができる。この場合には「一個人・個人/人」という二種類の有標形式と一つの無標形式が対立していると考えられる。

4.1 「存在するもの」にも数量詞が付きやすいということである(例③)。それに、いわゆる「不定のもの」の主語文をもその具体的な事例として挙げることができる(例④)。

4.2 日本語の「が」もよく存在文と不定名詞の主語文に現れる。つまり、このような場合には、「存在するもの」と「不定のもの」はどちらにしても認知的に目立っているものとして、新しい「新情報」(或いは「出現」するもの)と似ている。

4.3 それで、中国語の現象文における「一個」と日本語の「が」は存在文と主語文においてもある対応関係がある。

## 5.残される問題点

中国語において、「個体化」機能の「一個」を使っている別の種類の文も存在している(移動表現、与奪表現など)。これらに関しては、更に検討する必要がある。

## 6.まとめ

中国語の存現文と主語文における「個体化」機能の「一個」と日本語の「が」の間に、認知的には「新情報」としてある程度の対応関係が存在している。しかし、「個体化」機能の「一個」が使われている文はすべて存現文と主語文に存在するとは限らない。それゆえ、学習者にとって「一個」を把握することが困難である。せめて「情報の新旧」(「出現」するものか否か)の観点から考えると、一つの示唆を与えることができると思う。

結論として、やはり日本語には中国語のような「個体化」意識が薄いと見られる。

## 参考文献:

- 庵功 雄(2012)『新しい日本語学入門』(第2版) スリーエーネットワーク出版  
大河内康憲(1985)「量詞の個体化機能」『中国語学』232  
久野 暉(1973)『日本文法研究』 大修館書店出版  
古川 裕(1997)「数量詞限定名詞句の認知文法」『中国語学論文集』 東方書店出版  
益岡隆志編(2004)『シリーズ言語対照第5巻 主題の対照』 くろしお出版  
丹羽哲也(2006)『日本語の題目文』 和泉書院出版  
呂 滇文(2004)「日本留学生汉语偏误分析之(三): 语篇中的非实指数量结构」『语言学的理论与应用』 北京市语言学会編 商務印書館出版  
徐烈炯, 刘丹青(1998)『话题的结构与功能』 上海教育出版社出版  
袁 毓林(1996)「话题化及相关的语法过程」『中国语文』第4期

## タイ人日本語学習者における接続表現としての「て形」の理解と運用能力

ナンティポーン チャンチャルーン  
タマサート大学大学院博士前期課程

本研究はタイ人日本語学習者の「て形」に関する理解力と運用能力を明らかにすることを目的とした実践研究である。調査対象者は、約 200 時間程度、または『あきこと友だち 6』の第 27 課まで学習した初級日本語学習者 100 名である。調査方法は 3 つ。1) 「て形」の導入。これは「て形とテカラ」、「て形とナガラ」、「て形とカラ／ノデ」、「て形」と類意表現の違いを知ることを目指した 3 つの文法の授業である。『あきこと友だち CAN DO』という手引きの授業の進め方やタスク活動の概念を応用して計画したものである。2) 理解力テスト。これは 3 つの「て形」と類意表現の違いに関する理解を調査するために、授業前後に行うテストである。3) 運用能力テスト。この段階では、学習者の「て形」に関する運用能力を調査するために、授業後に、絵を見せて内容を説明させる。

調査の結果は、タイ人初級日本語学習者は「て形」に関する理解力と運用力ほどの程度にあるか、「て形」と類意表現はどのくらい使い分けられるか、明らかになるであろう。そして、本研究で行った「て形」の授業は学習者の理解と運用能力にどのくらい影響を与えるか分かるだろう。

### 1. はじめに

論理的に自分の意見や経験を述べるためには、適切な接続表現を使う必要がある。初級前半で導入されている重要な接続表現の一つは「て形」である。「て形」は「継起」「付帯状況」「因果関係」などいろいろな用法があるため、外国人日本語学習者にとって運用は難しいかもしれない。外国人日本語学習者の「て形」の運用状況に関する研究は多いが、タイ人日本語学習者を対象にした研究はまだ少ない。それで、本研究はタイ人に限定して、「て形」の理解と運用について調査をすることにした。

### 2. 先行研究

これまでの研究では、中国人や韓国人やドイツ人などの日本語学習者の場合、接続表現で「て形」を

多く使用することが分かった。しかも、その使用の中に誤用も多かった。誤用の原因は他の接続表現との混同や母語の干渉である。タイ人日本語学習者にも「テ形」を多用する傾向があると Somkiat (2004) は述べている。その上、市川 (2005) では、「寒くて、ヒーターをつけよう。」というタイ人学習者の誤用が見られた。その誤用の原因は、他の国の学習者と同じように、他の接続表現との混同である。初級で学習しても、「テ形」の用法や他の接続表現との違いがまだ深く理解できていない。だから、本研究では、「テ形」に関する授業を行い、タイ人日本語学習者の「テ形」の理解と運用について分析を行った。

### 3. 調査の概念

#### 3.1 対象者

本稿では、約 200 時間程度で学習した、又は国際交流基金バンコク日本文化センターが作成した『あきこと友だち』の第 27 課までで学習したタイ人初級日本語学習者 100 名を対象にした。全員が高等学校で日本語を専攻とする 3 年生であり、文法の授業で、「て形」の 3 つの機能（継起、付帯状況、原因理由）を学習済みであった。

#### 3.2 調査資料

調査の資料は、1) 「テ形」の導入 3 つ、「テ形」の理解力テスト 3 つ、「テ形」の運用力テスト 1 つである。

##### 3.2.1 「テ形」の導入

これは「テ形とテカラ」、「テ形とナガラ」、「テ形とカラ／ノデ」、「テ形」と類意表現の違いを知ることを目指した 3 つの文法の授業である。『あきこと友だち CAN DO』という手引きの授業の進め方やタスク活動の概念を応用して計画したものである。

##### 3.2.2 「テ形」の理解力テスト

これは 3 つの「テ形」と類意表現の違いに関する理解を調査するために、授業前後に行う選択式の筆記テストである。全 3 つ各 15 問

##### 3.2.3 「テ形」の運用能力テスト

この段階では、「て形」の運出を調査するために、自作漫画を用いた。タイ人日本語学習者に漫画を見せ、その中の登場人物が自分だと思わせて、そのストーリーについて日本語で説明文を書かせた。時間や文の長さは制限されていない。

### 4. 結果と考察

#### 4.1 「テ形」の理解テストの結果

**4.1.1** 授業前の点数と授業後の点数を比較した結果、全体として、授業後の理解テストの点数は授業前の点数より高かったことが明らかになった。本研究で行った授業は有効であることが示された。



**4.1.2** 3つの理解テストの点数を比較すると、「テ形とナガラ」の点数は最も高かったことが分かった。次に高かったのは「テ形とテカラ」と「テ形とカラ／ノデ」である。「テ形」と「ナガラ」との違いは「テ形」と「カラ／ノデ」との違いより分かりやすいと考えられる。

## 4.2 「テ形」の運用力テストの結果

### 4.2.1 「テ形」の用法と文の長さ

「テ形」の機能別の使用数から見ると、〈継起〉の「テ形」の使用数は一番多かった。時間的に説明する時、学習者は「テ形」か「テカラ」を使う。「テ形」による接続が一文中に連続 2-4 回用られている。この回数は、鹿島(2003)と山田敏弘・小林一貴・田口宏・宮川浩司・横山真一 (2003)は適切な長さだと指摘している。

### 4.2.2 「テ形」と類意表現の使い分け

理解力テストの点数が最も高かった「テ形とナガラ」は運用力テストでもよく使い分けられることが分かった。しかし、下の学習者が書いた文で見られるように、主節の位置や前後文の意味的な関係の不適切など、まだ誤用がある。

- (1) \* 「新聞を読みながら、立っています。」
- (2) \* 「仕事が忙しいから、じょうしは しかったです。」

## 5. 参考文献

市川保子(2005)『日本語誤用辞典外国人学習者の誤用から学ぶ日本語の意味用法と指導のポイント』スリーエーネットワーク

鹿島恵(2003)「初級日本語学習者による道案内表現の問題点」『三重大学留学生センター紀要』. 2003, 5, p. 39-54.

近藤邦子(2004)「香港の大学における日本語学習者によるストーリーテリングの接続表現の問題点」

山田敏弘・小林一貴・田口宏・宮川浩司・横山真一 (2003)「文法意識を持たせる授業の試み」岐阜大学教育学部研究報告 教育実践研究 第5巻.2003, p. 1-18.

Somkiat Chawengkijwanich(2004) "Sentence linkage in Japanese essays of Thai students studying Japanese." Journal of Liberal Art, Faculty of Liberal Arts, Thammasat University. 4- 1, pp. 48 – 67

## 日本語学習者のスピーチレベルに関する考察 - スピーチレベル設定に資する効果的な教材の作成に向けて -

齊藤奈菜子

東京外国語大学大学院博士前期課程

日本語では会話者間で、相手の年齢や職業、その場の状況といったさまざまな要素が考慮され、スピーチレベルが設定される。

今回、国立国語研究所の「日本語教育データベースの構築」によるデータを利用し、母語話者と学習者の実際の会話場面を記録したデータを分析したところ、適切なスピーチレベルを設定することができていない学習者が目立った。

そこで、多くの教育現場で使用されている初級日本語教材を複数冊、適切なスピーチレベルを設定するための学習という観点から分析を行ったところ、多くの問題点が見つかった。たとえば登場人物の年齢や職業、社会的立場がほとんど示されていないといった点や、年齢や場面に関する情報が詳細に記述されないまま、同じ人物同士が課によって異なるスピーチレベルで会話をしているといった点である。

これを踏まえ、今後は教材の中の登場人物に関する情報はより詳細に明記していかなければならないと考える。また、同じ人物同士でさまざまなスピーチレベルを設定する際には、その人物達の職業や社会的立場だけでなく年齢や会話の場所も示すなど、より詳細に情報を提示していく必要があると言える。

### 1. はじめに

日本語では会話者間で、相手の年齢や職業、その場の状況といったさまざまな要素が考慮され、スピーチレベルが設定される。たとえば敬語に関しては、実際の社会生活で常に必要であると思われるが、場合によっては使わないほうが相手に良い印象を与える場面もある。そのため会話者間で一度設定されたスピーチレベルは、会話を続けていく中で必要に応じて他のレベルへとシフトする。このように、会話の相手や場の状況を適切にとらえてスピーチレベルを設定し、場合によっては自分の話したいレベ

ルへと自在にシフトできるようにすることは、日本語学習者にとっても重要なことである。しかし、学習者の実際の会話データを用いて分析したところ、スピーチレベルを適切に設定することができていないと思われる学習者が、複数見られた。本研究ではこのような問題を解決するため、まず多くの教育現場で使用されている主要な初級日本語教材を数冊取り上げ、適切なスピーチレベルを設定するための学習という観点から分析を行い、その問題点を明らかにした。

また、現在は、母語話者の初対面二者間会話におけるスピーチレベルシフトを、音声の面から考察し、その特徴を探っている。母語話者の実際の会話を詳細に分析することによって、学習者のスピーチレベルシフト習得に資する効果的な教材を作成するための研究としたいと考えている。

## 2. 学習者コーパスの分析

独立行政法人国立国語研究所のプロジェクト「日本語教育データベースの構築」において作成された、日本語学習者会話ストラテジーデータを用いて、スピーチレベルの習得という観点から学習者の発話を分析した。その結果、初対面の人物や目上の人物に対して、常体の発話を多く使用してしまっている学習者がいることがわかった。たとえば初対面の店員や駅員との依頼談話において、「忘れた」「同じじゃない」「こっちな」「おぼえてる」などと常体を多く用いたり、母語の影響から「そう」という、あまり丁寧ではないあいづちを多用したりしていた。また、職場や職業訓練校で目上の人物と会話をしている際、指示や質問に対して、「そう」「そうなの」「うん」「大丈夫」「大丈夫よ」などといった、丁寧ではない表現を使用して答えている学習者も見られた。上記のような学習者は、スピーチレベルを常体に設定しているような印象を相手に持たせてしまうと考えられるが、初対面や目上の人物との会話において常体を設定してしまうことは、適切とは言えない。

## 3. 初級日本語教材の分析

本研究では、コーパスの分析を通して明らかになった問題の解決に役立てるための研究として、初級の日本語教材を分析することとした。今回取り上げた教材は、『みんなの日本語初級』『新文化初級』『はじめよう日本語初級』である。これらの教材を、学習者がスピーチレベルを適切に設定するための学習という観点から分析したところ、以下のような問題点が見られた。

- ① 年齢・職業・社会的立場といった、登場人物に関する情報が十分に提示されているとは言えず、人物同士の人間関係を具体的に想定することが難しくなっていた。
- ② 同じ人物同士や同じ人間関係の人物が、ある課では敬語を使用して敬体で話し、別の課では敬語を使用せずに常体で話すなど、課によって異なるスピーチレベルが設定されていた。
- ③ 提示されている会話文において、会話がなされている場所やその場の状況に関する説明が十分に示されていないものが少なくないため、登場人物の職業や立場のみによってスピーチレベルが設定されている会話文が多かった。

このように、適切なスピーチレベルを設定する際に必要となる重要な情報に関する記述が少ないことは、スピーチレベルの学習に役立てるといえる点に関しては問題があると言える。初級日本語教材では、相手の年齢や社会的立場、会話が行われている場所によって、適切なスピーチレベルを設定できるよう指導する必要がある。そのためには、教材の中に登場する人物や場面に関する情報について、より詳細に明記したほうがよいと考えられる。

#### 4. おわりに

以上本研究では、学習者の実際の会話データと現行の初級日本語教材を、適切なスピーチレベルの設定という観点から分析を行い、学習者がスピーチレベルを学習する際に問題となる点を検討した。

現在は、中級以上の学習者に必要となると思われる、スピーチレベルを適切にシフトさせるための教材作成に向けた研究として、母語話者同士の初対面二者間会話におけるスピーチレベルシフトを、音声の面から分析している。現段階では複数の母語話者から、以下のような特徴が見られている。

① 敬体から常体へとダウンシフトする際の発話で、小声になる傾向があった。

② 敬体から常体へとダウンシフトする際の発話は、笑いを伴うことが少なくなかった。

多くの母語話者がどのような会話の流れでどのような効果を期待して、どのようにスピーチレベルをシフトさせているのかを調べることによって、学習者はどのような場面で、どのようにスピーチレベルをシフトさせたら良いのか、より体系的に学ぶことができるようになると考えられる。

今後は、初級から中・上級にかけての、スピーチレベルシフトに関する指導の有機的な連携に関しても、具体的に探っていきたい。

## 韓国人日本語学習者における無声破擦音「つ」の発音に関する一考察

金智善

韓国外国語大学大学院博士前期課程

韓国語には無声破擦音[ts]が存在しないため、日本語を学習する韓国語母語話者は「つ」を発音するのに非常に困難を感じるという。したがって「つ」を「ちゅ」や「す」で発音してしまう傾向がよく見られると言われているが、本当にそうであるかを音声実験を通じて明らかにすることを目的とする。

「つ」と「ちゅ」の対照比較は、破擦区間の持続時間と、閉鎖区間の持続時間を測定する方法で行った。

また、「つ」を「す」と発音する、すなわち、摩擦音化については、スペクトグラムと音波を観察し、被験者の間の差を確認した。

結果的には、韓国人日本語学習者にとって、「つ」より「ちゅ」の方が発音する際、困難を感じないということと、様々な原因によって「つ」を摩擦音化してしまうことが分かった。

### 1. 研究の目的

韓国人日本語学習者<sup>6</sup>がよく間違える発音については既に多数の研究がされている。そのような間違った発音は、意味上の問題を起こしたり、相手に混乱を生じさせたりする。その中でも、最も指摘されている発音の一つとして無声破擦音があげられる。本発表では、無声破擦音の中でも「つ」に絞って考察する。

本研究の目的は以下のとおりである。

第一に、韓国人日本語学習者は「つ」の発音を「ちゅ」と発音する傾向があると報告されているが、「つ」の音を発する際と「ちゅ」の音を発する際の発音が、日本語母語話者の発音とどのように異なっている

<sup>6</sup> 本発表では、韓国語を母語とする日本語学習者を韓国人日本語学習者と呼ぶ

かについて音声実験を通して明らかにする。

第二に、韓国人日本語学習者が「つ」の音を発音する際「ちゅ」の発音になる場合が多いと指摘されているが、それ以外にも多数のバリエーションが存在すると考えられるため、どのようなバリエーションが現れているかを確認する。

以上を明らかにするために、音声実験と評価調査を通じて検証を行う。

## 2. 音声実験及び評価調査の方法

本発表の研究では、まず「つ」が含まれている単語と「ちゅ」が含まれている単語を選定し、位置別に分類した後、それらを韓国人日本語学習者と日本語母語話者に5回ずつ発音してもらい、録音した。録音した音声資料をもとにスペクトグラムと波形を確認し、持続時間を測定した。測定した結果を対照し、両被験者の差を確認した。

次に、「つ」の発音のバリエーションを観察するため、韓国人日本語学習者の音声を日本語母語話者に聞かせ、とても自然・自然・とても不自然のどちらかに評価してもらい、とても不自然と評価した場合は詳細を記入するように指示した。その日本語母語話者の評価を中心に「つ」の発音にどのようなバリエーションが見られるかを確認した。

## 3. 研究の結果

本発表の考察結果をまとめると以下のとおりである。

(1) 「つ」の破擦区間[tɕ]の持続時間を測定し、語頭音節・語中音節・末尾音節別に持続時間の長さの違いがあるかを分析した結果、日本語母語話者は語頭音節>末尾音節>語中音節の順に長かったが、韓国人日本語学習者は個人差が見られた。しかし、同じ方法で「ちゅ」の破擦区間[tɕ]の持続時間を測定すると、被験者全員が語頭音節>末尾音節>語中音節の順で一致していた。

韓国人日本語学習者は「ちゅ」の音を比較的容易に発音し、日本語母語話者に近い発音をしていると言える。しかし「つ」の発音には非常に困難を感じ、実際「ちゅ」の音と混同して発音したり、摩擦音化が起こったりすることが確認できた。

(2) 「つ」と「ちゅ」が置かれている語中音節と末尾音節の閉鎖区間の持続時間をそれぞれ測定したところ、韓国人日本語学習者の特徴として目立った点は閉鎖区間の長さが日本語母語話者のそれに比べ非常に長いことであった。しかし、韓国人日本語学習者と日本語母語話者の間で「ちゅ」の閉鎖区間長の差が10ms前後にとどまる程度であったのに反し、「つ」の閉鎖区間長の差は2倍以上であった。このことから、「ちゅ」を発音する際より、「つ」を発音する際に、困難を感じたり、または、緊張したり、意識しすぎる現象が生じると考えられる。閉鎖区間の持続時間が2倍以上長かった、韓国人日本語学習者の数値から見られる結果は(1)の結果と類似していると言える。

(3)日本語母語話者の評価を通じて、実際に韓国人日本語学習者の「つ」の発音がどのように聞こえるかを確認したところ、多様なバリエーションが現れた。被験者によってその評価の結果が異なっているが、「つ」はおおよそ「ちゅ」>‘ㄷ’または‘ㄷ’<sup>7</sup>「す」>「ち」のような順で認識されていた。また、「つ」音を正確に発音することが出来ず、「ちゅ」、「ㄷ」または‘ㄷ’、「す」、「ち」のように不正確な発音をする現象は、発音上の困難さによるところが大きいことが確認できた。このような問題を排除するため、韓国語と日本語の調音位置や調音法の違いを正しく指導するなど様々な工夫が必要であろう。

以上、音声実験の結果をもとに分析を行い、上記のように三つの項目にまとめた。

今回の音声実験では母音の無声化など、実験に影響を及ぼす可能性がある要因を除外して実験語を選定することができなかったという限界があり、今後は無意味語を実験語に選定するなど様々な工夫が必要であろう。また、「つ」を「ち」と発音する場合に関する先行研究はそれほどされていないが、いくつかの発音について「ち」に聞こえると評価したケースが確認できたため、それについても研究をする価値がある。これらについては今後の課題とする。

---

<sup>7</sup> NF2の場合「つ」が「ちゅ」、または、非円唇の「ちゅ」に聞こえるという意見が多く記述されていたが、ここで非円唇の「ちゅ」が韓国語の‘ㄷ’に近いと述べ、NF3の場合「つ」が強いという評価を記述する際、その意味が‘ㄷ’と‘ㄷ’の中間ぐらいだと述べている。このことから、韓国語の影響を無視することができないと考えられる。

## 現代日本社会における若者の性意識とジェンダー規範 — 避妊行動にみる男女間の非対称性 —

イザベル ファスベンダー  
東京外国語大学大学院博士後期課程

現代日本社会が孕む、女性の「性の商品化」と性教育における若者の「性のタブー化」という矛盾を、「性に関する権利」という概念に着目しながら考察する。こうした矛盾の中で構築されたジェンダー規範の下で、若者の性意識がいかに形成され、管理されているのか明らかにすることを試みる。一つの例として焦点をあてるのは、ジェンダー規範に束縛され、非常に不十分な情報提供のもとで行われている、若者たちの「避妊行動」である。「性に関する権利」が保証されていない状況で行われる避妊行動は、例えば人口妊娠中絶に至るケースが少なくないが、その場合、妊婦には、非常に大きな精神的そして身体的な痛苦が伴う。避妊失敗の責任を負うのは常に女性の側である。若者の性に関する言説をタブー化された状態から解放し、女性も主体的に性を営む能力を手に入れることが非常に重要な課題となっているということが、本発表における最も重要なメッセージである。

### 現代日本社会に見る性の矛盾

- 「性の商品化」「性の氾濫」  
対
- 「性のタブー化」

### 性教育バッシング

例：「ラブ&ボディーブック」事件（2002年）、「過激な性教育・ジェンダーフリー教育に関する実態調査プロジェクトチーム」の成立（2005年）...

### ☆ 文部科学省のスタンス

「(中略)学校における性教育については、子どもたちは社会的責任を十分にはとれない存在であり、



また、性感染症等を防ぐという観点からも、子どもたちの性行為については適切ではないという基本的スタンスに立って、指導内容を検討していくべきであるということでおおむね意見の一致を見た。また、性教育を行う場合に、人間関係についての理解やコミュニケーション能力を前提とすべきであり、その理解の上に性教育が行われるべきものであって、**安易に具体的な避妊方法の指導等に走るべきではない**ということについておおむね意見の一致を見た。(中略)

2005年7月27日「健やかな体を育む教育の在り方に関する専門部会」  
(文部科学省 「中央教育審議会 初等中等教育分科会」)

→性教育における問題点：性の危険性の強調、避妊などに関する不十分な情報提供、性における男女役割、ダブル・スタンダードを批判的に考える機会の欠如、若者の「社会的に無責任」な存在としての位置づけ・・・

→性における権利という視点

- ・「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」(生殖に関する健康は人間の基本的な権利であり、保証すべき(1994年、カイロの第3回人口・開発会議))
- ・「セクシュアル・ヘルス/ライツ」(生殖に限らず、人間の「性」に関する権利を包括的にとらえるべき(1995年、北京の第4回女性会議))

「性の矛盾」の状況下におかれている若者の「性」に対する意識の変化

- ・ 「性」に関する消極化
- ・ 「性」についての否定的イメージという傾向
- ・ 知識の減退
- ・ コミュニケーションの貧困化
- ・ 固着された男女関係・性に関するジェンダー意識

**問題：**

若者の性のタブー化(性教育、家での「性」に関する話の欠如)によって、社会的に発信される情報における男女の不平等な権力関係、「恥のエロス化」、「支配の性」を相対化する機会が欠如している

→ 正しい知識を獲得する困難、性意識の形成はポルノ、インターネット任せになりがち


⇒ **若者の「性の権利」の侵害**

若者の避妊行動

→若者の避妊行動を見ることに通じて、女性の「生殖」の負担、男性の性におけるリーダーシップがひきおこす「避妊の責任」という矛盾が現れる

- ・ 「中絶か結婚」という「二者択一」
- ・ 若い頃の未婚出産のスティグマ化  
(高校生、大学生の妊娠?)  
→男性にとって婚外なら責任を取らない選択肢あり
- ・ 経済制度における「男は外、女は家」イデオロギーが根強い、男性は育児にほとんど参加していない

- 福祉制度の不十分さ、婚外子に関する曖昧な決まり、手当システムの欠如
- 母子家庭の貧困問題→風俗産業が「生活支援」に  
（「クローズアップ現代」NHK ドキュメンタリー） → 「社会保障の敗北」

 **二つの矛盾：**

- 「若者の性の管理/タブー化」対「(女性の) 性の商品化」
- 「避妊における男性の責任」対「避妊失敗における女性の責任」

## Representations of Japanese Company Green Communication

ノルマリス アムザ

シンガポール国立大学日本研究学科博士課程

This paper will highlight the result of the content analysis of random Japanese companies green advertisements namely print advertisements and television commercials from 2008 until 2013. The content analysis includes thematic analysis, image analysis and linguistics analysis. Then, this paper will develop hypothesis based on the narrative of Japanese companies encounter with environmental issues since postwar until now and discuss the findings based on the hypothesis.

Japan's withdrawal from the Kyoto Protocol triggered by the March 11 Triple Disasters eventually marks a new phase in the narrative of Japanese companies encounter with environmental issues. The narrative of Japanese companies encounter with environmental issues since the post war until now consists of five phases. The phases are divided chronologically based on the events that occurred that consequently influenced the sets of expectation and behavior during those periods and companies' reactions towards those behaviors (Hattori, 2007; Nakamaru, 2010; Toyozumi, 2010). The phases are labeled as *1) industrial pollution and economic growth, 2) oil shock and energy efficiency, 3) global environmental problems and international contribution, 4) Kyoto Protocol and environmental protection, 5) Triple Disaster and Energy Policy.*

The narrative leads to the argument "Japanese companies are striving to lead public green

awareness and consciousness through the proliferation of green communication with the objective to mold public environmental consciousness into a superficial consciousness that will eventually benefit the company in term of profit maximization.” Obviously, the proliferation of companies’ green communication are overwhelming and triggered the need for some investigation or research that could reveal a new paradigm of understanding the latent content underlying those exquisite and glossy representations of corporate greenness. Hence, the purpose of this study is to explore and analyze the content of companies’ green communication most accessible to the public.

The objective is formulized into the primary question of “How do Japanese companies communicate their environmental concern to the public and what are the socio-political factors underlying those efforts?” The research question then can be fragmented into sub questions as below:

1. What are the marketing communication strategies the companies use in communicating their environmental concern to the public?
2. What does being ‘green’ or ‘environmental friendly’ means to those companies?
3. How do companies position themselves in communicating their environmental concern to the public
4. What are the socio-political factors that influence the answers in questions 1, 2 and 3?

This study consists of two approaches; various companies approach and case study approach. The various companies approach will collect data from various Japanese companies while case study analysis will collect data from selected companies. The objective of the first approach is to test the ground and explore the content of Japanese company green communication in general. Data are extracted from two mediums namely print advertisement and television commercials of various companies. On the other hand, the case study approach is conducted with an aim to go in-depth into the discussion. The in-depth discussion not only looks at the context of socio-political issues involved in Japanese companies encounter with environmental issues but expands the discussion into the influence of institutional context as well.

The analysis method applied for these mediums consists of three analysis methods namely

thematic analysis, genre analysis and linguistics analysis to answer the first three research questions. The three analysis methods comprise both quantitative and qualitative aspects. Then, this study develops hypothesis concerning Japanese companies encounter with environmental issues. The hypothesis will be linked with the findings of the first three analysis and relate the empirical data with wider Japanese socio-political discussion.

## References

Hattori, T. (2007). The Rise of Japanese Climate Change Policy : Balancing the Norms of Economic Growth, Energy Efficiency, International Contribution and Environmental Protection. In M. E. Pettenger (Ed.), *The Social Construction of Climate Change: Power Knowledge, Norms, Discourses*. Hampshire: Ashgate.

Nakamaru, H. (2010). Trends and future issues of environmental management in Japan. *Asian Business & Management*, 9, 189-207.

Toyozumi, T. (2010). Environmental management strategy for small and medium-sized enterprises: Why do SMBs practice environmental management? *Asian Business & Management*, 9, 265-280.

## 海外映画タイトルの韓・日比較-タイトルの構成を中心に-

鄭盛旭

韓国中央大学校大学院博士後期課程

言語は時代の変化と文化によってその姿が変わってくると言われている。ここでは映画のタイトルに焦点を合わせて言語の変化をみる。1910年代から2004年までに製作された海外映画の中で300本を選び、原題から韓国語と日本語に換えられたタイトルについて分析を行った。タイトルを公開年度、製作国家、主題、表記別に分けて、外国語、韓国語、日本語がどのように使用されているのかを調べた。

最も大きな特徴としては、外国語を自国で読みやすくしたり分かりやすくして形だけを変えている場合が多く、各映画の特色を生かしたタイトルが少ないことである。また、少数のタイトルに限っては、自国の言語の特徴を生かしてタイトルを変えた事例もあった。

映画のタイトルには観客を呼び込む力が必要である。観客の興味をひいたり印象に残るようにするためには語彙の選定にも力を入れなければならない。このような要因がタイトルの構成に変化を生じさせたと思われる。

### 1. はじめに

我々が生きている周辺には時代の流れの変化を知らせてくれる媒体がいろいろある。その中で本稿では、映画のタイトルを付ける時、それぞれの文字がどのような形で組み合わせられ、使用されているかについて外国、韓国、日本と比較しながら年代別、構成別にその変化の推移を考察することにする。このように映画タイトルを通じて表記の変化を観察することは、現在も速いスピードで変化している表記の一断面を鑑みる良い資料になるであろう。

### 2. 研究方法

分析に用いた資料は、名作映画といわれる300編の外国映画で、黒川裕一(2005)の『見ずには死ねない！名

映画300選『外国編』<sup>8</sup>から抽出したものである。そして、分類または整理方法は、日向(1991)<sup>9</sup>と許晃会(1998)の方法<sup>10</sup>を援用した。

さらに、研究対象と関連資料は、NaverとWikipedia、韓国と日本の検索サイト(Yahoo, Infoseek, Daum, Googleなど)を利用した。具体的な資料が必要な場合には各映画会社のホームページを利用して調べた。なお、分析は10年毎に分けて分類を行った。

### 3. 映画のタイトル

#### 3.1. 製作年代別

まず、〈表1〉から製作映画の数を年代別に大きく分けて見ると、2000年代を除いて製作の編数が徐々に増加していることがわかる。

〈表1〉 製作映画の数(年代別)

単位：編(%)

年代	1910	1920	1930	1940	1950	1960	1970	1980	1990	2000	計
編数	1 (0.3)	6 (2.0)	7 (2.3)	10 (3.3)	14 (4.7)	23 (7.7)	36 (12.0)	58 (19.3)	114 (38.0)	31 (10.3)	300 (100)

\*2000年代は2004年までのデータである。

#### 3.2. 製作国家別

次に、300編の映画の製作に参加した国は33カ国である。最も多く製作した国はアメリカで、全体の67%(201編)<sup>11</sup>を占めている。次いでフランスが11%(33編)<sup>12</sup>、イギリスが9.3%(28編)<sup>13</sup>の順である。2ヶ国以上が共同製作した映画は39編である。

最も多くの国が参加して製作した映画は〈No Man's Land (노맨스 랜드) (ノー・マンズ・ランド) (2001) [仏・伊・ベルギー・英・スロヴェニア]〉<sup>14</sup>で、五つの国が参加している。複数の国が共同製作した映画は、普通2ヶ国または3ヶ国が多く、1990年代に入ってから急増する傾向が見られる<sup>15</sup>。

\* 韓国中央大学校大学院日語日文学科日本語学専攻博士課程

<sup>8</sup> 黒川裕一(2005)『見ずには死ねない! 名映画300選(外国編)』中経出版

<sup>9</sup> 日向茂男(1991)は、日本の歌謡の曲名の表記分類基準を「漢字語」、「ひらがな」、「カタカナ」、「ローマ字」に分けている。

日向茂男(1991)「歌謡ポップス日本語(2)」『日本語学』10(12)明治書院 p.57

<sup>10</sup> 許晃会(1998)は、時代別、主題別、表記別または形態別、原作別に分けている。

<sup>11</sup> 〈Gone With The Wind (바람과 함께 사라지다) (風と共に去りぬ) (1939) [米]〉, 〈As Good As It Gets (이보다 더 좋을 순 없다) (恋愛小説家) (1997) [米]〉, 〈Big Fish (빅 피쉬) (ビック・フィッシュ) (2003年) [米]〉などを例としてあげられる。

<sup>12</sup> 〈Un Chien Andalou (안달루시아의 개) (アンダルシアの犬) (1928) [フランス]〉, 〈37° 2C Le Matin (베티블루 37° 2) (ベティ・ブルー/愛と激情の日々) (1986) [フランス]〉, 〈Nikita (니키타) (ニキータ) (1990) [フランス]〉などがある。

<sup>13</sup> 〈Lawrence of Arabia (아라비아의 로렌스) (アラビアのロレンス) (1962) [英]〉, 〈Gandhi (간디) (ガンジー) (1982) [英]〉, 〈Billy Elliot (빌리 엘리어트) (リトルダンサー) (2000) [英]〉などがある。

<sup>14</sup> 映画タイトルは〈 〉記号の中に映画の原作名・韓国語・日本語の順で表記して、( )のなかの数字は映画の公開年度を、[ ]は映画を製作した国名を表記することにする。

<sup>15</sup> 1990年代は、映画産業に大企業が入り込んだり、ビデオ関連市場が急成長したり、ケーブル放送も始まり、新しいメディアの発展によって映像産業の概念が変わる時期である。http://100.empas.com/dicsearch/pentry.html?s=k&i=297924&v=42

〈表2〉 協同製作映画の数

単位：編(%)

年代	1910	1920	1930	1940	1950	1960	1970	1980	1990	2000	計
編数	-	-	-	-	-	2 (5.1)	3 (7.7)	7 (17.9)	18 (46.2)	9 (23.1)	39 (100)

#### 4. 映画タイトルの類型

外国の映画で、韓国で上映されたタイトルを類型別に分類してみると、「簡単明瞭型(2、3単語以下、覚えやすい簡潔性)」、「直接伝達型(タイトルと映画の内容の性格一致)」、「もやもや型(観客の気がかりを誘発する効果)」、「文章語句型(文章の叙述型)」、「外国語型(異国的な色彩の効果、英語式タイトル使用)」、「スラングモード型(スラング、悪口、流行り言葉など使用)」、「漢字型(漢字を使用した形)」、「動植物名使用型(象徴的イメージとキャラクター性を与える)」などがある。

以下では、この類型の分類に従って、外国、韓国、日本の映画タイトルの類型について分析することにする。

##### 4.1. 外国のタイトル

外国のタイトルを分類してみると、最も多かったのは「直接伝達型」で19.7%(59編)<sup>16</sup>を占めている。二番目は「簡単明瞭型」で19.3%(58編)、続いて「文章語句型」の19.0%(57編)の順である。

##### 4.2. 韓国のタイトル

韓国のタイトルは「外国語型」が最も多く33.7%(101編)<sup>17</sup>を占めている。次いで「簡単明瞭型」+「外国語型」が16.0%(48編)、「漢字語型」が8.3%(25編)で三番目である。

##### 4.3. 日本のタイトル

日本のタイトルも韓国のタイトルと同じく「外国語型」が最も多く37.3%(112編)<sup>18</sup>である。二番目は「外国語型」+「漢字語型」で12.7%(38編)、続いて「簡単明瞭型」+「外国語型」が10.0%(30編)で三番目にランクされている。

\*これ以降

(5. 映画タイトルの表記、6. 映画タイトルの表記構成、7. 結論)は、別紙参照のこと。

<sup>16</sup> <Pickpocket (소매치기)(スリ) (1960) [仏]>, <The Last Emperor (마지막 황제)(ラストエンペラー) (1987) [伊・英・中]>, <The Boxer (더 복서)(ボクサー) (1997) [米]>などを例としてあげられる。

<sup>17</sup> <Casablanca (카사블랑카)(カサブランカ) (1942) [米]>, <West Side Story (웨스트 사이드 스토리)(ウエスト・サイド物語) (1961) [米]>, <Good will Hunting (굿 윌 헌팅)(グッド・ウィル・ハンティング/旅立ち) (1997) [米]>などが例である。

<sup>18</sup> <King Kong (킹콩)(キング・コング) (1933) [米]>, <Psycho (사이코)(サイコ) (1960) [米]>, <The School Of Rock (스쿨 오브 락)(スクール・オブ・ロック) (2003) [米・獨]>などがその例である。



## 「積極的平和主義」を正当化させるための言語的ストラテジーに関する一考察 ——2014年安倍内閣施政方針演説の批判的談話分析を通じて

秦石美

北京外国語大学日本語研究センター博士前期課程

ことばは政治家の武器である。政治家はことばを通して、自分の政治観を述べ、政治信念を伝え、人々を動かしている。日本首相の就任後初めての施政方針演説または所信表明演説を、言語、社会、政治、経済、文化、歴史等の学際的な視点を取り入れながら詳細に分析することにより、そこに隠されている、その政府の内政外交の政策やイデオロギー、社会認識などを明らかにすることは非常に有益なことであろう。本研究では、CDAという枠組みで、コーパス言語学研究における統計学的なアプローチを利用して日本首相の国会演説を質的・量的分析をしようとしている。首相の国会演説に「国民を説得する」「国民を動かす」「国民の信頼を得る」「国の進むべき道を指導する」などの主な社会的機能が見られる。これらの機能を発揮するためにどんな言語的手段を用い、その言語運用の背後にどんなイデオロギーが見られるかについて研究したいと思う。

### 1. はじめに

「批判的談話分析」(CDA)、言語あるいは言語使用のなかに隠された社会的な不平等や差別などの側面に注目して言語を社会的に分析するアプローチである。政治ディスコースといった研究は、日本の中では主に「ことば」の問題の究明に焦点をあてようとするアプローチによるものである。「社会的問題」の一つとしてとらえるCDAの研究はまだ不十分していると言ってもよからう。

安倍の施政方針演説に度々「積極的平和主義」が用いられている。そのあり方やなされ方に対する説明や弁明の正当性を、どのように述べられているか、についてCDAによって明らかにする必要があると考えられる。したがって、本稿では「積極的平和主義」を正当化させるための言語的ストラテジーについて考察しようとしている。

## 2. 分析手法

Fairclough (2003:156) の「正当化」のストラテジーに参照しながら考察を行う。

<権威化><合理化><倫理的評価><神話作成>

## 3. データ

2014年1月24日、第186回国会安倍内閣総理大臣による施政方針演説が行われた。その中、「積極的平和主義」に関する論述を取り上げ、考察を進めたいと考えている。

## 4. 分析

### 4.1 倫理的評価

「積極的平和主義」という積極的評価を表す表現に、安倍の強い態度の表し、聞き手からの承認を求めるといふ希求、聞き手への行動の誘い、なども含まれている。「積極的」、「平和主義」、どちらも望ましい評価を表す語彙である。このプラスのニュアンスの「積極的平和主義」を自分の政治活動に借用するのは安倍の戦略的行為であろう。直接「集団的自衛権を求めると」、「憲法を変更する」ことは、抵抗感があり、「積極的平和主義」のような売れる物にはならないから、「平和」、しかも、従来の「平和」からもう一步進んだ「積極的平和」という名前を借りたのである。これも一種の「広告効果」と言ってもよからう。

### 4.2 権威化

#### 4.2.1 首相としての「権威」

国の代表者として国会で施政方針演説すること自身、首相としての「権威性」を表している。その「権威性」は演説のモダリティからよく示されている。

「事実」と「予想」を「仮定」によって結び付けられている。地方経済の疲弊、世代間・世帯間の経済的格差など、多くの問題に苦しんでいる日本国民を励まそうとしている。「上位者」を「下位者」への「励まし」は「権威」の示す方法の一つとされている。

同時に、「予想」の陳述によって、首相としての権威を示している。「予想」する力は権力者が持っているからである。政府はこれから何をするか、何をしないか、などの命令或いは要求を「予想」の陳述によって正当化されている。

大半の<陳述>は<言明>あるいは<否定>である。「予想」の陳述も<言明>の形を取っているのが多い。陳述の真理性に対して強い心的態度を示しているからであろう。言い換えれば、これも政府これからの政策（「積極的平和主義」）への確信、或いは、一種の「決心」といってもよいだろう。モダリティ化の例は五つある。

#### 4.2.2 日本の「パートナー」

演説に ASEAN（東南アジア諸国連合）から「積極的平和主義」への支持を得たという記述がある。

アメリカとは「積極的平和主義」のもとに行動するように述べられている。「権威」の国アメリカの承認を得るため、アメリカとの「協調」のもとに「積極的平和主義」を実行し、その「無害性」を示し、さらにアメリカを「積極的平和主義」の枠に引き込み、その「有益性」を共有する、という安倍の姿勢

はすこし卑怯ではなからう。

### 4.3 合理化

「積極的平和主義」という本題に入る前、自衛隊の活発についていろいろ論じている。その行為の「有用性」がしばしば字面から読み取ることができる。

そして、安倍は自衛隊の活動を「こうした活動の全てが、世界の平和と安定に貢献します。これが積極的平和主義です」という「前方照応」によって、「積極的平和主義」に結び付けている。「世界の平和と安定」という目的の達成に、手段としての「自衛隊の活動」が有用であると判断してもよいだろう。それによって「積極的平和主義」の正当性が認められる。

### 4.4 必要化

演説にもう一種の「正当化」ストラテジーが含まれていると考える。それは反面的に「積極的平和主義」の必要性を述べるというのである。いわゆる「中国脅威論」「北朝鮮脅威論」。これらの国への脅威に対して、「積極的平和主義」で対応すべきだ、というのは安倍の説得術であろう。

## 5. おわりに (略)

### 参考文献 (略)

## 多文化共生主義と昨今の排外主義の台頭考察 ーヘイトスピーチを中心にー

廣瀬龍

東京学芸大学大学院博士前期課程

国際化政策・グローバル化が唱えられてから30年近くになるが、国際社会における新自由主義経済の弊害として社会格差が広まり、進む競争主義とともにグローバル

人材を育成する動きとともに多文化共生社会が展開されるようになった。目まぐるしく変化する社会の中で閉塞感を感じたり、競争主義実力社会に対する生活不満者らがインターネットを通して繋がり、昨今の歴史・政治問題になっている在日コリアンや社会の弱小層らに対するあてつけなどの憂さ晴らしを行っている。それらのヘイトスピーチ行為は次第に全国的組織と化し、現代社会の現象として台頭し始めた。即ち、排外主義の動きの先頭に立っている「在日特権を許さない市民の会」（通称「在特会」）の全国各地での動きに注目してみる。また、一部のメディアや SNS では韓国や在日コリアンの政治や文化を揶揄しつつ、強い自民族優越主義を促している。国境がますます低くなりつつあるグローバル社会における今後のあり方を、昨今のヘイトスピーチの事例から考えてみる。

### 1. はじめに（社会背景）

日本政府が国際化政策・グローバル化を唱えてから30年近くになるが、国際社会における新自由主義経済の弊害として社会格差が広まり、進む競争主義とともにグローバル人材を重んじる多文化共生社会が展開された。日本には2007年以降、200万人を超える外国出身の移住者が住んでおり、日本の多文化共生社会への動きは活発になっている。また2020年の東京オリンピックの開催が決定し、日本人留学生倍増計画を代表するように政府もグローバル人材の育成に力を入れ、日本はさらに多文化共生社会を目指すと考えられる。

しかし、90年代のバブル崩壊後の経済的・社会的不安や失業者の増加、雇用縮小への不安、国際化時代における激しい競争主義の助長といった理由から社会の閉塞感や社会からの疎外感を感じ、不満を

もった人々がインターネットを通して繋がり、排外的差別表現を街宣し、憂さ晴らしをするヘイトスピーチが台頭し始めた。このような排外主義運動への動きが拡大している現状も存在する。

## 2. ヘイト・スピーチの台頭

ヘイトスピーチという用語は、1980年代にアメリカで作られ、一般化した用語である。日本では「憎悪表現」と直訳されることもあるが、人種主義的ヘイトスピーチを規制する国際人権条約である自由権規約 20条19と人種差別撤廃条約 4条20で共通して使用される「差別煽動」という意識が最近では通説である。ヘイトスピーチを定義的に表すと「人種、民族、国籍、宗教、性別、性的指向など、個人では変更困難な属性に基づいて侮辱や中傷、煽動、脅迫などを行うこと」である。最近になり「ヘイトスピーチ」という言葉はよく耳にするようになったが、歴史を振り返ると様々な国でヘイトスピーチは行われてきた。

これらのヘイトスピーチに対して、ヨーロッパでは多くの国で法的規制がある。EU（欧州連合）に加入する条件として人種差別を法的に規制することが盛り込まれていることも特徴である。ドイツを例に挙げると戦後、人種差別撤廃条約の制定を進めると同時に、国内法として1960年にヘイトスピーチを規制する民衆煽動罪を刑法 130条に規定した。当初は、一定の属性を有する集団に対する侮辱的・差別的表現が処罰の対象であったが、2011年の改正時に個人に対するヘイトスピーチも対象になり、適用範囲が広がられた。

またフランスの法においても「出自あるいはエスニック集団、ネーション、人種、宗教の所属に対して、個人ないし集団に対して、中傷や名誉毀損、差別や憎悪、暴力を煽ることを禁止」している。これらのようにヘイトスピーチを規制かつ処罰することは民主主義国家の常識であるが、日本ではまだ法的整備が用意されていないのが現状である。

## 3. 日本におけるヘイトスピーチの現状

日本における代表的な排外主義団体として挙げられるのは、「在日特権を許さない市民の会（通称：在特会）」である。在特会は2007年に桜井誠により設立された。中心的な活動家としては「右翼活動家」の姿も目立つがデモ行進には多くの若者が参加している。不況や失業、疎外感、特権への反感などを理由とした鬱積をマイノリティに対して八つ当たりすることで晴らそうとしている。また、インターネットを駆使した活動であり、攻撃目標や集合時間、場所などをネット上に公開して、街宣活動を行うスタイルが特徴である。そして、その活動を撮影しネットに公開することでさらなるヘイトスピーチを行っている。

2013年に入ってからにはさらに活動は活発化し東京の新大久保や大阪の鶴橋などで頻繁にヘイトスピーチを行い、現在でも週末になると日本全国の地域ごとに「行動する保守運動」の名の下でデモ活動を実

---

19 市民的及び政治的権利に関する国際規約第 20 条 2 項は「差別、敵意又は暴力の煽動となる国民的、人種的又は宗教的憎悪の唱道は、法律で禁止する」としている。

20 ヘイトスピーチの禁止を定め、①人的優越又は憎悪に基づく思想のあらゆる流布、人種差別の煽動、差別に基づく暴力行為又はその行為の煽動を犯罪にする。②人種差別を助長煽動する団体を禁止し、団体参加を犯罪とする。③公の当局が人種差別を助長し又は煽動することを認めない。このうちの①②について日本政府は条約批准の際に留保した。

施している。罵詈雑言に加え、一部では暴徒化し、カウンター集団とぶつかり合い逮捕者も出るほどである。

特に注目された事件は、京都市の朝鮮学校で街宣活動<sup>21</sup>の「ヘイトスピーチ」を行った「在特会」と元メンバーらを相手に、学校側が学校周辺での街宣活動禁止や損害賠償を求めた訴訟の判決で、京都地裁は2013年10月7日、人種差別撤廃条約が禁止する「人種差別」であると認め、在特会側に1226万円の支払いと街宣活動の禁止を命じた。(2014年7月8日の大阪高裁の判決でも一審の判決を支持した。)在日コリアンへのヘイトスピーチを人種差別と認定した初めての司法判断であり、ヘイトスピーチを抑止する観点では重要な意義を有している。しかし、人種差別が民法上の不法行為としての認定ではなく、被害主体が具体的な団体(=朝鮮学校)であり、学校という立場から教育を受ける権利が侵害されたとし刑法上、民法上の名誉毀損や侮辱罪と認定された。

#### 参考文献

- 金尚均(2014)「ヘイトスピーチから考える日本の人権状況」『部落解放』解放出版社 pp.181-186
- 前田朗(2014)「ヘイトスピーチといかに闘うかー表現の自由を守るために憎悪犯罪を処罰する」『月刊社会教育』国土社 pp.13-21
- 前田朗(2010)『ヘイトクライムー憎悪犯罪が日本を壊すー』三一書房労働組合
- 師岡康子(2013)『ヘイト・スピーチとは何か』岩波書店
- エリックブライシュ(2014)『ヘイトスピーチ表現の自由はどこまで認められるか』明石書店
- (2014)「ロー・フォーラム 裁判と争点 ヘイトスピーチに違法判断：京都地裁「人種差別」と在特会に賠償命令」『法学セミナー』日本評論社 pp.132
- 深田政彦(2014)「「反差別」という差別が暴走する：日本」『Newsweek 29』阪急コミュニケーションズ pp.32-35
- ウィリアムアンダーヒル(2014)「世界で増殖する差別と憎悪：社会」『Newsweek 29』阪急コミュニケーションズ pp.28-31

---

<sup>21</sup> 2009年12月～2010年3月に3回にわたり京都第一初級学校に押しかけ、拡声器を使い、「朝鮮学校を日本からたたき出せ」「朝鮮学校、こんなものはぶっ壊せ」「ここは北朝鮮のスパイ養成機関」「朝鮮やくざ」「犯罪者に教育された子ども」などと怒号を浴びせた。さらに撮影した動画をインターネットに公開した。

## 徳富蘇峰と中江兆民における自由民権論 —『将来之日本』と『三酔人経綸問答』を中心に—

劉品宜

台湾大学日本語文學研究所

蘇峰と兆民は自由民権論を中心して、自らの政治思想を發展していた。ただし、この二人の思想は根本的な分け目があり、後期蘇峰は大日本膨張主義を持ち、軍国主義になったと広く知られている。

結果論から見ると、明治以後の政府は、兆民のような自由民権論を受けず、従って蘇峰の思考の筋立てを追いかけるとも言えよう。そして、後期蘇峰の思想は日本敗戦後、批判された運命に迎えた。

どうして最初は同じ自由民権論を持つ二人が甚だしい道になるのは筆者が検討したいテーマである。

本論は、前期蘇峰と兆民における最も関連性が強い著作『将来之日本』(1886)と『三酔人経綸問答』(1887)を比較し、両作品から二人の思想の異同を比べると同時に、二人の政治思想に向ける自由民権論を探求したいと思う。

### 一、明治時代における自由民権運動

明治維新の始期：

天保期の1830～40年代

ペリ一来航後の嘉永六年(1853)

緩慢な移転過程から急速な体制変換

明治七年(1874)民撰議院設立建白

板垣退助、江藤新平、大井憲太郎、植木枝盛

士族民権家から豪農階級へ移す

「天皇陛下の尊栄福祉を益し」

「人民と天皇」の考え方

## 二、『将来之日本』と『三酔人経綸問答』

- 徳富蘇峰『将来之日本』（明治十九年・1886）

- i. 緒論：日本の将来は如何になさるべきかを問おう。
- ii. 總論：生活を維持するため、国家は生命の一位と視すべき。
- iii. 本論：「腕力世界」に属する国家、「平和世界」に属する国家。
  - 平和世界は自由貿易によって富裕国家になる。
  - 平民主義の運動
  - 日本：天然の商業国
- iv. 結論：日本は生産国となすべきだ。

- 中江兆民の『三酔人経綸問答』（明治二十年・1887）

自由民権運動の思想の投影

洋学紳士（紳士君）、豪傑君、南海先生

問答から構成した物語

洋学紳士：民主家、自由平等博愛、非武装平和論

豪傑君：侵伐家、恋旧元素（保守反動家）は一国の癌種

南海先生：漸進的自由主義者

## 三、蘇峰と兆民における民権思想

- 『将来之日本』

生産機関と武備機関の二元性

生産＝平民、武備＝貴族

- 『三酔人経綸問答』

国体と政体

恩賜的民権と恢復的民権

## 四、結論

蘇峰と兆民の民権態度

蘇峰の平民主義

兆民の人間主義

「人」と「人」

「人」と「群体」

## 参考文献

- ◆ 植手通有編『明治文学全集 34 徳富蘇峰集』筑摩書房、1974
- ◆ 桑原武夫、島田虔次訳・校注『中江兆民 三酔人経綸問答』岩波書店、1965



- ◆ 田畑忍『キリスト教社会問題研究』(14-15)「徳富蘇峰初期の政治思想：明治20年前後の論著、とくに『将来之日本』に見られる其の平民主義・平和主義について」同志社大学人文科学研究所キリスト教社会問題研究会、1969-03-15
- ◆ 米原謙『兆民とその時代』昭和堂、1991
- ◆ 和田守『近代日本と徳富蘇峰』御茶の水書房、1990

## 『古今集遠鏡』と宣長の歌論

藤井嘉章

東京外国語大学大学院博士前期課程

江戸時代中期の学者、本居宣長による『古今和歌集』の俗語訳の書である『古今集遠鏡』を、宣長の注釈学において位置づける作業の一環として、その宣長の歌論との関係を論じる。明治期における宣長の再発見と研究の復活を告げた村岡典嗣以来、現在の田中康二らの研究に至るまで、宣長研究の第一の主題は宣長の実証的な学問と信仰的な思想をいかに把握するかにあった。本発表も広い視野においては、その主題への解答を目指している。そのための研究方法として、宣長の歌論という形で提出されている理論が、俗語訳及び注釈という実践の場において貫徹されているのか否かを、悉皆的なデータ分析に基づいて検証するという態度を取る。さらにその結果として得られた結論を、単なる現象記述のままに差し置くのではなく、宣長の注釈学全体に位置づけることを試みる。

## 問題提起

本居宣長の歌論、ひいては彼の思想において重要な用語である「物のあはれ」は、日野龍夫の見解によれば、宝暦十三年(一七六三)に相次いで成立したと考えられる『紫文要領』『石上私淑言』で中心的に論じられて以来、ほとんど用いられることがなくなった理由を、当時既に広く用いられていた「物のあはれ」を宣長がたまたま使ったのであり、その後忘れてしまったためだと考えた<sup>22</sup>。

日野の眼目は、「物のあはれ」がそれほどありふれたものであったことを示そうとすることではあるが、本発表は「物のあはれ」あるいは「あはれ」が、宣長にとって終生重要な概念であったことを、『古今集遠鏡』<sup>23</sup>(以下、『遠鏡』)から示す。

また本発表のさらに重要な目的は、宣長の注釈、すなわち古典解釈が合理的であり過ぎるという通念<sup>24</sup>に

<sup>22</sup> 日野龍夫校注『本居宣長集』(新潮社・一九八三年)解説参照

<sup>23</sup> 本発表では、稿本版本の校異を通覧できる利便性を考え、今西祐一郎校注『古今集遠鏡』(平凡社・二〇〇八年)を用いる。

<sup>24</sup> 例えば、田中康二「俗語訳の理論と技法——『古今集遠鏡』の俗語訳」(『本居宣長の思考法』ぺりかん社・

疑義を提出することである。それは、『石上私淑言』「物のあはれを知る」の項目における「あはれ」を含む『古今和歌集』（以下、『古今集』）中歌への言及のあり方と、『遠鏡』の俗語訳の対象を通じて行われる。

## 一 「物のあはれ」「あはれ」

『石上私淑言』<sup>25</sup>「物のあはれを知る」

阿波礼はもと嘆息の辞にて。何事にも心に深く思ふ事をいひて。上にも下にも歎ずる詞也。

『遠鏡』「はしがき」

- |                   |                            |
|-------------------|----------------------------|
| (一) 導入            | (十四) らし                    |
| (二) うひまなひなどのために   | (十五) かな                    |
| (三) 京わたりの詞        | (十六) つつ                    |
| (四) うちとけたる詞       | (十七) けり                    |
| (五) いきはひを訳す       | (十八) なり                    |
| (六) 訳語の異なること      | (十九) ぬ・つ・たり・き              |
| (七) つらねてうつす       | (二十) あはれ                   |
| (八) 意をえて訳す        | (二十一) あなた・こなた              |
| (九) 詞をかてうつす       | (二十二) ふし・縁の詞               |
| (十) 詞のところをおきかてうつす | (二十三) 枕詞・序                 |
| (十一) ぞ・こそ・も・や     | (二十四) 凡例                   |
| (十二) ん            | (二十五) ひらがなして書る             |
| (十三) らん           | (二十六) 訳のあらため <sup>26</sup> |

○あはれを、アノハレと訳せる所多し、たとへば「あれにけりあはれいくよのやどなれやを、何年ニナル家チヤヅヤ、アノハレキツウ荒タワイと訳せる類也、かくうつす故は、あはれはもと歎息<sup>ナガメ</sup>声にて、すなはち今世の人の歎息<sup>ナガメ</sup>で、アノヨイ月チヤ、アノツライコトチヤ、又ハレ見事チ花チヤ、ハレヨイ子チヤなどいふ、このアノとハレとを、つらねていふ辞なれば也、アはれてふことをあまたにやらしとや云々は、花を見る人の、アノハレ見事すといふ其詞を、あまたの桜へやらしと也、アはれてふことこそうたて世の中を云々は、アノハレオイトシヤト、人ノ云テクレル詞コソ云々也、大かたこれらにて心得べし、さてそれより転りては、何事にまれ、アノハレと歎息<sup>ナガメ</sup>かるゝ事の名ともなりて、あはれなりとも、あはれをしるしらぬなども、さまぐひろくつかふ、そのたぐひのあはれは、アノハレと思はるゝ事をさしていへるなれば、俗言には、たらにアノハレとはいはず、そは又その思へるすぢにしたがひて、別に訳言<sup>ワカコト</sup>ある也、

## 二 解釈における合理性過多への疑義

『古今集』中「あはれ」を含むものは全部で二十三箇所見出せるが、そのうち三箇所が仮名序、また三箇所が長歌である。本発表では、『遠鏡』の和歌の俗語訳を扱うため対象歌数は全部で一七首となる。以下に新編国歌大観に則り、「あはれ」を含む『古今集』中歌の歌番号を示すと、三三・三七・一三六・二四四・

二〇〇五年)及び鈴木健一『『古今集遠鏡』の注釈方法』(長島弘明編『本居宣長の世界——和歌・注釈・思想』森話社・二〇〇五年)

<sup>25</sup> 筑摩版全集第二巻を使用

<sup>26</sup> 「はしがき」の記述から発表者が作成

四七四・五〇二・六〇二・八〇五・八五七・八六七・八七三・八九七・九〇四・九三九・九四〇・九四三・九八九である。以上の一七首の『古今集』中歌を『石上私淑言』「物のあはれを知る」における記述と『遠鏡』における俗語訳から分類すると左のようになる。

『石上私淑言』「物のあはれを知る」項目における分類

嘆息の詞

あはれ : 九八四・八九七

心に深く感じてあはれくと歎ずる言

あはれてふこと : 一三六・五〇二・九三九・九四〇

心に感じてあはれくと歎ずる

あはれといふ : 九四三

あはれと見る : 三七・八六七

あはれとおもふ : 三三・二四四・四七四・八〇五・九〇四

言及なし : 五〇二・六〇二・八五七・八七三

『遠鏡』俗語訳

アノハレく : 五〇二・九四〇

アノハレ+ α : 三三・三七・一三六・四七四・六〇二  
・八七三・八九七・九三九・九八四

アノ+ α : 二四四

アハレ : 八〇五・八五七・八六七・九四三

意訳 : 九〇四

## 雨夜の品定の予言的機能-高麗人予言との比較を中心に-

李玟喜

韓国外国語大学大学院博士前期課程

『源氏物語』は光源氏という主人公の宿命的な恋愛と栄華を描いた作品である。物語の前半部に登場する夢や予言、談話は単純なストーリー展開ではなく、物語全般にわたって必然的にその影響を及ぼしている。桐壺巻の高麗人の予言が第一部にわたって光源氏の栄華を先取りしているとしたら、帚木巻で取り上げられる雨夜の品定では源氏の女性観が長編的テーマを物語っているといえよう。

この研究発表では桐壺巻の高麗人の予言と帚木巻の雨夜の品定めの機能について比較分析したい。特に「紫の上系列」は光源氏の「帝王像」という予言を起点に展開し、「玉鬘系列」は帚木巻の雨夜の品定を起点に展開される様相を比較対照し、雨夜の品定の持つ予言的機能を究明してみたいと思う。特に帚木巻の雨夜の品定の談話形式によって展開される物語の論理を分析したい。

『源氏物語』は11世紀の初め、紫式部という女流作家によって書かれた平安時代の長編小説として世界最古で、日本文学最高の傑作と評価されている作品である。桐壺、朱雀、冷泉、今上の4代天皇にわたる70年余りの話が54巻で構成され、3部に分けることができる。

三部構成を提案したのは、池田龜鑑や武田宗俊、阿部秋生などである。武田宗俊は「源氏物語の最初の形態」の冒頭に、「源氏物語の構成は従来主人公によって光源氏を中心とする部分を、薫大将を中心とする部分との二に分け、これを正篇・続篇または前篇・後篇と呼んでいるが、これは最近池田龜鑑博士も論じておられるように、前篇を便に二つに分け、合わせて三部として、第一部・第二部・第三部とよんだ方がよい」といった。第一部は桐壺巻から藤裏葉巻までの33巻で主人公光源氏の39歳までの話が盛り込まれている。武田宗俊の紫の上系列と玉鬘系列に区分すると、第一部では紫の上系列は桐壺巻を起点に若紫巻、紅葉賀巻、花宴巻、葵巻、賢木巻、花散里巻、須磨巻、明石巻、濤標巻、絵会巻、松風巻、薄雲巻、朝顔巻、乙女巻、梅枝巻、藤裏葉巻を含み、玉鬘系列は帚木巻から空蟬巻、夕顔巻、末摘花巻、

蓬生巻、閑屋巻、玉鬘巻、初音巻、胡蝶巻、蛩巻、常夏巻、篝火巻、野分巻、行幸巻、藤袴巻、真木柱巻までである。

本稿では武田宗俊の「紫の上系列」「玉鬘系列」の区分により、「紫の上系列」を第1部の桐壺巻で高麗人の光源氏の「帝王像」という予言を起点にその予言の展開過程と「玉鬘系列」の冒頭の巻である帚木巻の雨夜の品定を起点に談話が源氏の女性論にどのような影響を与えているかを比較対照してみたい。特に予言や夢の技術形態とは違う他の談話形態である雨夜の品定が冒頭で取り上げられた理由、つまり事実上の複線または予言的機能をしていることを調べてみたい。

まず、紫の上系列で高麗人の予言の展開過程を見ると、『源氏物語』桐壺巻で高麗人が光源氏の運命を予言することになる。高麗人は渤海国から国使に派遣された観相家で、桐壺天皇は源氏が皇子の身分とすることを隠して右大弁の子供と偽って占ってもらふことになる。高麗人の予言は光源氏の栄華と王権の可能性を予言したものだ、桐壺巻で観相家の予言の後、紫の上系列の流れをみると、若紫巻で藤壺との密通は後に冷泉天皇となる東宮を出産することになり、さらに、須磨巻で源氏の須磨への退去は自分の政治的目的意識を明確に位置づけるもので、藤壺と密通によって生まれた東宮の安危を守るための政治的な計算から始まったことと窺える。そういう目的で退去した須磨で源氏は後に后を生むことになる明石の入道の娘明石の君に出会うことになる。

絵合巻で源氏は梅壺女御と弘徽殿女御との絵合せで梅壺女御が勝つように助けて彼女が天皇の寵愛を受けるようにして政治的立場をさらに強くすることになる。また、東宮妃で入内させるため明石の君の娘を紫の上に養育させ、政治的立場を強固にするための準備に拍車をかけることになる。1部最終巻である藤裏葉巻では源氏は願っていた明石の姫君を東宮妃として入内させ、源氏が実の父という事実を気付いた冷泉天皇によって前例になかった准太上天皇という地位に上がることになる。このような流れで高麗人の予言は物語の複線であると言えよう。

これは武田宗俊が指摘した通り、紫の上系列で第1帖の桐壺巻の予言を起点に最後の藤裏葉巻に至るまで源氏は栄華と王権の獲得するために一貫して推進している。もちろん観相家の予言は具体的でなく、源氏が政治的な姿をみせるのも須磨巻で初めてうかがうことができる。

紫の上系列は「帝王の像」という高麗人の予言を起点に源氏がだんだん政治的な人物に変貌してゆく姿を見せたことで、抽象的であった予言を各巻にわたって徐々に具体化させてゆく。玉鬘系列の場合、雨夜の品定の論点は二つに分けることができる。最初は完璧な女性を探すのは難しいということと、女性を上、中、下に分け、そのうち中流階級の女性のうちに意外といい女性がいるということだ。雨夜の品定では三階級論が提示されて中流階級女性たちに対するそれぞれの体験談が披露される。

そのあと、中流階級に対する好奇心を持つようになった源氏に空蟬との出会いは中流階級女性との最初の出会いになる。空蟬に出会った後、源氏は左馬頭の言葉を想起し、中流階級にいい女性がいるという言葉に同調することになる。

また夕顔巻で出会う夕顔は頭中将の女性体験談に登場する意志のない女性で、前の巻の空蟬とは明確に対照される性格で源氏は安らぎを感じるようになる。源氏は寸毫も揺るがない冷静な態度で一貫する空蟬を見て、中流階級女性を軽く見ていたこれまでの自分の意識を変えるようになったのである。あまりにも対照的な夕顔の態度に源氏は深い愛を感じるようになる。同じ中流階級女性でも空蟬と夕顔はその行動や人柄が非常に違う。同じ中流階級の中でも異色の女性たちの姿は注目に値する。また、源氏と末摘花との関係が挙げられる。身分高く生まれても経済的に豊かではなければ、上流と言にくいと

いう雨夜の品定での基準に照らしてみると末摘花も中流階級の女性といえることができる。

夕顔と末摘花そして空蝉は、環境や性格に類似点はないけれど、雨夜の品定以来興味を持つようになった中流階級女性という共通点がある。玉鬘系列の話の展開は出家した空蝉と末摘花の後日談である。源氏は空蝉を二条院に入って留まるようにして後見することになる。これは空蝉との初出会いから14年の歳月が経った時点である。また夕顔の娘である玉鬘を源氏が養女に迎えて養育する話もある。源氏が内大臣(雨夜の品定の時の頭中将)に、玉鬘を夕顔の娘であることを明らかにして正式に成人式を行うことによって玉鬘系列の話が終わることになる。雨夜の品定の談話が空蝉、夕顔、末摘花に会えたきっかけとなるのは確かな事実である。しかし、玉鬘系列であっても、夕顔巻までと玉鬘10帖はかなりかけ離れた別の構成に感じられる。これは武田の玉鬘系列が紫の上系列を補うため、作者が後期挿入したという説の限界をみせるもので、この二つに区分されるのは確だが、それをどのように解釈すればいいかという点ではこれからさらに議論が必要な部分である。しかし、雨夜の品定が玉鬘系列の冒頭に登場することで、物語の中に中流階級を引き寄せるための布石の役割を果たしたことは間違いない事実である。

## 竹内好の翻訳理論についての考察

余祇延

東京外国語大学特別聴講生（中国厦門大学外文学院博士前期課程）

日本における魯迅研究の巨匠である竹内好の魯迅翻訳について考察する。

テキストの分析の視点から竹内の翻訳を見ると、原文の魯迅と異なる魯迅のイメージで訳されることが分かる。

なぜ、そのようになったか。一番主な理由は竹内好の独特な翻訳理論にあると考える。竹内は「創造的な翻訳」という理論を提出し、それによって訳者としての竹内は作者である魯迅以上の存在を訳出した。

竹内好の翻訳理論は大きな意義がある。それによって訳者の主体意識が樹立された。しかし、「訳者を中心とする」翻訳になった。現在においては、アメリカからの「読者を中心とする」翻訳理論が主流である。いかにして竹内流の翻訳の良さを生かしながら、「読者を中心とする」魯迅翻訳を生み出すことができるかを論じてみたい。

本研究は日本における魯迅研究の巨匠である竹内好の魯迅翻訳について考察する。

### 一、翻訳の考察

テキストの分析の視点から竹内の翻訳を見ると、原文の魯迅と異なる魯迅のイメージで訳されることが分かる。

日本の学者である藤井省三が『阿Q正伝』と『祝福』の訳文を考察した後、「竹内好による翻訳は、土着化の最たるものであった」と指摘した。（藤井省三，2011：175）。「土着化」は最初、アメリカの翻訳理論の専門家であるヴェヌティ（Venuti）により提出され、訳者が自己民族文化の伝統的な言語をしっかりと守り、本物の表現方式に戻らせることである。（方梦之，2004：3）。

中国人の立場に立って、竹内好の魯迅翻訳の「土着化」が導いた結果は「中国人の魯迅」（回心の魯迅像）から「日本人の魯迅」（転向の魯迅像）への魯迅イメージの「ずれ」である。つまり、「魯迅」は「日本人」になった。（吳光輝、余祇延，2013：7）



例1：我交出所抄的讲义去，他收下了，第二三天便还我，并且说，此后每一星期要送给他看一回。我拿来打开看时，很吃了一惊，同时也感到一种不安和感激。

竹内好：私は筆記したノートをさし出した。かれは受けとって、一兩日して返してくれた。そして、今後は毎週もってきて見せるようにと言った。持ち帰って開いてみて、私はびっくりした。同時にある種の困惑と感激に襲われた。

小田岳夫、田中清一郎：私は講義のノートをわたした。かれは受け取って、二、三日たつとすぐ返し、今後毎週一回見せるようにと言った。私は持ち帰って、開いて見て、非常にびっくりし、同時に一種の不安と感激を覚えた。

駒田信二：わたしが講義のノートを差し出すと、彼は受け取ったが、二、三日すると返してくれた。そして、これからは毎週持ってきて見せるようにといった。持ち帰って開いて見たとき、わたしはあっとおどろき、同時に一種の不安と感激とを覚えた。

この翻訳を見ると、藤井省三が『故郷』の翻訳評価において指摘した通り、『藤野先生』には竹内好の翻訳は数倍の句点で魯迅の「饒舌体」が変えられるという現象も見られる。(藤井省三, 2011: 177) このような翻訳は「構造的な変貌」である。(竹内好, 2013: 361) このような問題は藤井省三の話によると、「このような明快な日本語に変換し」、「伝統と近代のはざままで苦しんでいた魯迅の屈折した文体を、竹内好は戦後の民主化を経て高度経済成長を歩む日本人の好みに合うように、土着化・日本化させているのではないだろうか」ということである。(藤井省三, 2011: 180) そのようにすると、日本風の翻訳で外来文化としての「魯迅」と日本文化の間の限界ははっきりとしなくなった。魯迅と日本人の間にある「差異」が次第に減りつつある同時、日本人が魯迅のイメージへの親近感も次第に増えていく。しかし、中国人としての魯迅の主体性は弱くなる。

## 二、竹内好の翻訳理論

なぜ、そのようになったか。一番主な理由は竹内好の独特な翻訳理論にあると考える。竹内は「創造的な翻訳」という理論を提出し、それによって訳者としての竹内は作者である魯迅以上の存在を訳出した。

「幸福の幻想をふりはらって、自分たちの不幸について考えるために、自分の生き方を変えるために、今日、私たちは魯迅をよもう。」

### 『魯迅入門』

「この本は『世界文学はんどぶっく』の一篇として一九四八年に世界評論社から刊行されたものに、手を加えてなった。」

翻訳には「林紓の古文の臭気は抜け出ているが、文字および文章法とも、先秦の古義をもとめる章炳麟の学問の影響をうけて、非常に難解なものになっている。俗語や新語を取りいれて、文章を通俗化せよ、という梁啓超の主張とは反対の方向である。」

「彼はそうせずに『失敗』の道を選んだ。」

『失敗』の冒険が必要だ。彼が『民族精神を振興』しようとしたことは疑いないが、その『振興』のために文学を利用することは『無用の用』を自覚した人にできる業ではまい。」

#### 『魯迅雑記Ⅰ』

「自分の経験をふまえて、原詩に隠れている意味を引き出す創造的な鑑賞が可能になったのです。それは受け身の鑑賞ではなく、積極的な対決の態度であります。」

#### 『魯迅雑記Ⅱ』

「私の不満の点を強いてあげれば、作者は素朴すぎやしないか、文章を信じ過ぎやしないか、ということである。文章という、表現という二次的な世界に頼りきって、その仮象を現実と思い込んでいるのではないか、とうことである。」

#### 『魯迅雑記Ⅲ』

「強烈な新訳を出すという意識がないように、この例文から私は思うのです。」

「佐藤さんの訳文というのはかなり和文調で、長たらしい。情緒的な文体ですね。」「けれども、そうでない文体があり得ると思うのです。」

「私は漢文教育反対であるばかりでなくて、漢文の存在そのものに反対です。漢文が存在する限り日本文化は自立し得ないというのが私の持論です。」

「この中国語のションホーと日本語のセイカツとは字は同じですが、意味が同じかどうかということですね。」

「日本語にすると原文の字数の一倍半になる程度がいいんです。」

「ですから訳者は作者のなかに踏み込んで、作者の意識する以上のものを訳として出すのがほんとうでしょうね。」

「我在走我的路で自分流にやるよりしょうがない。」

### 三、評価

竹内好の翻訳理論は大きな意義がある。それによって訳者の主体意識が樹立された。しかし、「訳者を中心とする」翻訳になった。現在においては、アメリカからの「読者を中心とする」翻訳理論が主流である。いかにして竹内流の翻訳の良さを生かしながら、「読者を中心とする」魯迅翻訳を生み出すことができるかを論じてみたい。

## レフ・トルストイと日本の文学者

ナザランカ カチャリーナ  
東京外国語大学大学院博士前期課程

レフ・トルストイは作家、思想家であり、日本を含めて全世界中のリアリズムの文学発展へ深い影響を与えた。日本で初めてトルストイの作品が翻訳された1886年から現在まで文学者に深い影響を与え続けた。徳富 蘆花、武者小路 実篤、有島武郎をはじめとして、20世紀初頭の文学者にトルストイの哲学的・宗教的・文学的な影響、トルストイとの個人的な関わりについて語り、日本の知識人へのトルストイの偉大な影響の理由についても考えたい。

### 1. 日本でトルストイの受容

欧米で1850年から導入、その出版を通して日本での紹介

初めての日本語の翻訳は1886年、東京外国語学校の学生森体による『戦争と平和』の最初の23章の訳で、『泣花怨柳 北欧血戦余塵』と名付け、人気を得なかった

最初、私小説から思想家として、次に『アンナ・カレーニナ』等の作品の著者としての受容は欧米と異なる

その理由はトルストイ自身の意思と彼を訪れた日本人（徳富蘇峰の雑誌『国民之友』に版戦的等の記事）

トルストイの好評的な受容の考えられる理由：

- ① 時代の日本社会の変容や道德の危機
- ② 作品のほとんどの翻訳者が洗練された文体を持った作家であった（二葉亭四迷、森鷗外）

知識人の場合、ロシア文学が「人間はいかに生きるべきか」と真剣に考えさせる「人生論の教科書」→レフトルストイへの尊敬

## 2. トルストイと日露戦争

勃発の日（1904年1月27日）日記に戦争についての記述：「世界が戦争によっていかに変わるのかの推論の他、わたし自身が戦争をいかに扱うべきか、という推論しなければいけい。しかし、誰もその推論をしない。戦争をいかに扱うべきかの答えが明らかである、つまり、戦わない、他人に戦うのを手伝わない」

ロシアか日本かという見方ではなく、戦争に巻き込まれた民衆に等しく同情

日露戦争反対の論文「悔い改めよ」はロシアでは発禁、初めて掲載されたのはロンドンの『タイムス』日本で幸徳秋水と堺利彦の翻訳で『平民新聞』に掲載、与謝野晶子の『君死にたまふことなかれ』執筆の契機

1904年、『平民新聞』編集者安部磯雄は、『悔い改めよ』の日本語訳とトルストイについての記事が掲載されている『平民新聞』版2冊を添付しトルストイに手紙送信、それにトルストイが大喜び

## 3. トルストイと日本の文学者

### **徳富 蘆花**、本名徳富 健次郎（1868～1927）

トルストイを研究し、1890年、トルストイについての記事を『国民之友』誌上の発表

1897年に作家についての本を兄の徳富 蘇峰の出版社での発行

道徳的・哲学的な思想だけでなく、著作の写実的な信条を抱くようになり、代表作である『不如帰』（1898）にもその影響

『思い出の記』にはトルストイの『幼年時代』『青春時代』『青年』の影響

1906年、ヤースナヤ・ポリャーナ訪問（『順礼紀行』）→より熱心なトルストイアンとなり、農業に従事  
トルストイからの手紙のコピーが 熊本市にある徳富記念園の記念館に展示されている

### **武者小路 実篤**（1885～1976）

「自分が今日あるのはトルストイのおかげだと思っている、自分にとってトルストイは最大の恩師であった」

トルストイの例に従って法律学部でなく、東京大学の社会学部入学

『クロイツェル・ソナタ』を読んだ衝撃が特に強く、自身の片思いの悪夢から救ってくれたと語った

『その妹』でトルストイの反戦記事の影響

1910年、反戦・シンプルライフ等の思想に感化された志賀直哉、有島武郎、有島生馬らと文学雑誌『白樺』の創刊

1918年、農業に基礎づく理想的に調和した社会というユートピアを目指した「新しき村」の建設

### **有島武郎**（1878～1923）

キリスト教信者でトルストイになじみやすいと考えられる

1903-1905年、アメリカの滞在中、シカゴで『復活』劇を見たのはトルストイのと出会ったきっかけ

「光への人間の道を照らしてくれているのは、トルストイだけ」（1904年の日記）

アメリカから日本までの汽船で『アンナ・カレーニナ』長編を読んだのが自分の著書に大きな意味を持ったと日記で記述

白樺派の中心人物の一人として小説や評論で活躍

1922年に受け継いだ北海道狩太村の有島農場を農民に開放

### 『或る女』

佐々城信子をモデルにされたと言われ、「日本の『アンナ・カレーニナ』」と呼ばれている

『白樺』の創刊とともに「或る女のグリンプス」の題で1911年から1913年までに連載されたが、人気を得なかった理由で終了させない決意

だが、1919年に刊行され大好評な受容

### 参考文献

- 八島雅彦「日本におけるトルストイの現象」柳富子『ロシア文化の森へー比較文化の総合研究』、ナダ出版センター、2001年、488－504頁
- 柳富子『トルストイと日本』早稲田大学出版部、1998年
- Шифман А. Лев Толстой и Восток, 1971
- Басинский П. Лев Толстой: Бегство из рая, М., 2010. С. 636
- Полнер Т. Лев Толстой и его жена. История одной любви  
[[http://az.lib.ru/p/polner\\_t\\_i/text\\_1928\\_lev\\_tostoy\\_i\\_ego\\_zhena.shtml](http://az.lib.ru/p/polner_t_i/text_1928_lev_tostoy_i_ego_zhena.shtml)](2014年6月29日閲覧).

## 近世日本の読本と中国の白話小説 — 『椿説弓張月』における《楊家将演義》受容の可能性—

平原真紀

東京外国語大学大学院博士後期課程

近世日本において初めて翻案され、様々な読本執筆の好資料となった中国白話小説と言えば、《三國志通俗演義》の翻案小説として元禄二年に出版された『三國志』が挙げられる。このような翻案小説は、粉本となる中国講史小説が文語ではなく当時の俗語を交えた白話で書かれており、元禄前後の漢学者達も概してこれを読み下せないとされ、当時の日本には僅かしか伝わらなかったとされてきた。しかし、江戸時代には多くの講史小説が翻案され、繰人形浄瑠璃や歌舞伎の台本作家や読本などの作家達が、そのほとんどに目を通していた可能性がある。

中でも、江戸時代の読本作家の一人である曲亭（滝沢）馬琴は、非常に多くの中国白話小説に目を通していたことで知られている。また、馬琴の代表作のひとつ『椿説弓張月』では、この《三國史通俗演義》や《水滸伝》などがその執筆の好資料になっていることが、すでに多くの先行研究によって周知の通りである。本発表では、この『椿説弓張月』において、従来、日本にその邦訳は存在しないとされ、その影響についてもほとんど注目されてこなかった中国明代の白話小説《楊家将演義》受容の可能性と大きな関係性について、改めて光をあててみたい。

### 1. 近世日本の読本と近世中国の白話小説

1. 1 近世日本における読本
  - ・白話小説の国有化としての読本。/・中国講史小説に精通していた作家達。
1. 2 近世日本の支那軍談書
  - ・読本の母体としての通俗軍談・近世軍記。/・『和漢軍談紀略考大成』。
1. 3 近世中国における白話小説
  - ・印刷技術の発達。/・空前の出版ブーム。/・江南出身の禅僧が日本へ。
1. 4 近世中国の演義小説とその受容

- ・演義小説から支那軍談書へ。/・骨子は正史、演義小説は脚色参考のみ。

## 2. 『椿説弓張月』

2. 1 『椿説弓張月』概要
  - ・滝沢（曲亭）馬琴。/・5編28巻29冊。/・中国演義小説の体裁。
2. 2 『椿説弓張月』における中国白話小説の受容
  - ・《水滸伝》/・《三國志通俗演義》/・「批為朝外伝弓張月」
2. 3 『椿説弓張月』の「為朝外伝弓張月題詞」
  - ・中国明代刊行の二系統の《楊家将演義》小説の一つ《北宋志傳》との関連。

## 3. 《楊家将演義》

3. 1 《楊家将演義》概要
  - ・二系統の異なる《楊家将演義》。/・熊大木と紀振倫、二人の編者。
3. 2 《南宋志傳》・《北宋志傳》と《楊家府傳》
  - ・《楊家将演義》と称されたベストセラーと、売れずに消えた嘆きの文人小説。
3. 3 二系統の異なる《楊家将演義》の挿入詩
  - ・《南宋志傳》《北宋志傳》挿入詩と《楊家府傳》挿入詩の関連性。

## 4. 「為朝外伝弓張月題詞」と《楊家将演義》挿入詩

4. 1 題詞と挿入詩の関係とその受容
  - ・題詞全15種にみる挿入詩の受容。
4. 2 滝沢（曲亭）馬琴と《南宋志傳》・《北宋志傳》
  - ・文化三年刊行『新編水滸画伝』と《南宋志傳》・《北宋志傳》。

## 5. 今後の研究課題と展望

5. 1 滝沢（曲亭）馬琴と《楊家府傳》。
5. 2 『椿説弓張月』本編プロットにおける《楊家将演義》受容。
5. 3 他の読本や、繰人形浄瑠璃・歌舞伎台本との関わり。
5. 4 京都・鎌倉の禅僧と《楊家将演義》の関連性。

**\*詳細な本発表内容、及び参考資料、参考文献を記載した別冊のハンドアウトを、発表当日に配布を予定しております。**

### 【主要な板本・テキスト】

- ・国立国会図書館所蔵・経国堂 『玉茗堂批點繡像南北宋志傳』
- ・北大学所蔵・維経堂 『玉茗堂主人按鑑批點南北宋志傳』
- ・上海古籍出版社 『楊家府世代忠勇演義志傳』 1980年
- ・国立国会図書館所蔵 『鐫出像楊家府世代忠勇演義志傳』

- ・『通俗軍談二十一史』 早稲田大学出版会 明治 44 年
- ・国立国会図書館所蔵・春江堂 『椿説弓張月』 1911 年
- ・日本古典文学大系『椿説弓張月』 岩波書店 1962 年



## 『好色一代女』における嫉妬について —構成と特性を中心に—

王薇婷

台湾大学日本語文学科博士前期課程

『好色一代女』は井原西鶴の代表作であり、女が好色生活に耽溺することを描いた作品である。江戸時代の享樂的な文化の中で、人々は固定的な男女関係を求めず、一瞬の快樂のみを追求する。『好色一代女』もその享樂的な風潮に従い、主人公一代女の相手は編ごとに変わっている。しかし、「町人腰元」に相手の奥さんを呪い殺そうとした一代女のように、相手に執着し嫉妬深い女性に関する篇章がいくつも見られる。女性の好色と「嫉妬」の主題とは強くつながりがあるように描かれている。

これまでの『好色一代女』についての研究は出典・典拠研究や成立論が主であるが、本発表では『好色一代女』における嫉妬に関わる場面を中心に分析し、中に現れた嫉妬の多様性、人物の心理変化や作者の用いた趣向などを考察する。この考察を通して、嫉妬という主題は女性の好色に如何なる意味を持つかを解明したい。

### 1. 始めに

一代女の性格：一瞬の快樂を追求する

嫉妬：相手への執着からの感情

両者との矛盾？

### 2. 『好色一代女』における嫉妬物語の構成

<嫉妬に関わる章段>

巻一の二「舞曲遊興」、巻二の三「世間寺大黒」、巻三の一「町人腰元」、巻三の二「妖孽寛闊女」、

巻三の四「金紙七髻結」

<嫉妬の定義>

- ① 弱者が強者に対して抱く劣等感や、そこから起因する憎悪や非難といった感情である。
- ② 自分が愛情を抱いている相手が他人に心ある状態を嫌う心の動きである。

<嫉妬物語の構造>

→主に②のように、人の愛情が他人に向けられるのを憎くんでいるのではないかと考える。

<『好色一代女』の場合>

巻二の三「世間寺大黒」

巻三の一「町人腰元」                   ➡      男を盗む→嫉妬する→一代女の追放

巻三の二「妖孽寛闊女」

巻一の二「舞曲遊興」

>色事→嫉妬する一代女→男を盗む→一代女が追い出される

巻三の四「金紙七髻結」

>髪→嫉妬する奥方→奥方が追い出される→一代女が男を盗む

➡   嫉妬する→男を盗む→追放

- 男女関係からの嫉妬・嫉妬からの男女関係

### 3. 『好色一代女』における「嫉妬」の特性

- 『俳諧類船集』(1676)の見出し語からの「嫉妬」の連想  
「老女房、橋姫、丑時参り、貴船を祈る、あふひの上」
- 『俳諧類船集』(1676)の見出し語からの「悋気」の連想  
「丑時参り、摺粉木、後生心、六条御息所、扈從傍輩、眉目悪」

→共通点：①橋姫・六条御息所のイメージから嫉妬深い女性の攻撃性

②丑時参り・貴船を祈るの行為からの変身

- 『好色一代女』の場合  
→「攻撃性」  
>古典では「嫉妬する女」だけの性格だと考えられる  
>『好色一代女』では「嫉妬される」女でも持っている性格

→「擬装」

>禁じられた世界に出入りする方法

>服装と心見の擬装を暴露

### 4. おわりに

- 「嫉妬」に内包した二種類の感情構造
- 攻撃性：したたかな女性像
- 擬装：暴露の役割／職業遍歴の不可欠な要素
- 今後の課題：周辺の人物の嫉妬を把握すること

5. 参考文献

1. 浮橋康彦 「『好色一代女』構造上の諸問題」『新潟大学教育学部紀要』13 昭和47年3月
2. 江本裕 「『好色一代女』試論」(『近世文芸論叢』 中央公論社 昭和53年)
3. 近世文学研究会 編 『俳諧類船集(全七集)』 京都大学近世文学研究会 昭和30年3月
4. 小学館『大辞泉』編集部 編 『大辞泉 第二版』2012年12月
5. 谷脇理史 「『好色一代女』試論—そのしたたかな生と性—」(『浮世の認識者井原西鶴』 新典社 昭和62年)
6. 暉峻康隆・東明雅『井原西鶴集①』 小学館 1996年4月
7. 広嶋進 「『好色一代女』の悲哀と滑稽—暉峻康隆氏説の矛盾を巡って—」 『清心語文』4 2004年8月
8. 森耕一 「『好色一代女』巻三・四の意味—女奉公人の役割—」 (『園田国文』15 P45-55 1994年3月)
9. 森山重雄 「『好色一代女』研究」(『西鶴の研究』 新読書社 1981年1月)
10. 矢野公和 著 「『好色一代女』の創作方法について」『近世文芸』VOL. 56 平成六年一月
11. 林進 「蕭白『柳下鬼女図』『美人図』—嫉妬の図像学」(日本近世絵画の図像学—趣向と深意) 八木書店 平成12年12月

## 日本語とビルマ語の主語を表す助詞について

トゥザ ライン

東京外国語大学大学院博士後期課程

ビルマ語の基本語順は日本語と同じく SOV 型であり、主要文法範疇は自立語である動詞と名詞、付属語である助詞がある。ビルマ語の主格を表す助詞の現れ方も日本語と似通っていることから、ビルマ語と日本語の助詞に関する対照研究もなされてきた。これまでの先行研究ではビルマ語と日本語の主語を表す助詞について広く挙げられている。ただし、用例を観察したところ、幾つかの疑問が感じられた。本発表は、先行研究での主張を再検討し、新たな言語事実を引き出し、それらの類似点と相違点を明らかにすることを重視する。

### 1. 目的

ビルマ語の基本語順は SOV 型であり、名詞類の文法関係などが後置詞によって標示されるなど日本語によく似ている。そのため、日本語とビルマ語の主語を表す助詞についての対照研究もなされている。本発表は、加藤(1997)の主張について再検討し、日本語とビルマ語の主語を表す助詞の類似点と相違点を日本語による「は」と「が」の使い分けの5つの原理（野田(1996)を参照）から考察を行う。

### 2. ビルマ語の助詞

ビルマ語は、主として、発話に用いられる口語体と書記に用いられる文語体とがある。澤田(2012: 1)は「ビルマ語の特徴の一つとして、特に文法機能を担う機能語（各種小辞や指示表現など）において口語体と文語体の差異が大きいことがあげられる」と述べている。ビルマ語には主語を表す助詞として *ṭi*、*hà*、*kâ* という形式がある。*ṭi* は文語体、*hà* は口語体と、*kâ* は文語体と口語体ともに現れる。文体により、無標の場合もある。なお、本発表での音韻表記は全て岡野(2009)に統一してある。

(1) (文語) *k<sup>h</sup>wé=ṭi/kâ*    *caùn=kò*    *kai?=ʔi*    〈犬が猫を噛む。〉 Mg Khin Min (2011)

犬=*ṭi/kâ*    猫=[対格]    噛む=[確定]

(口語) *k<sup>h</sup>wé=kâ*    *caùn=kò*    *kai?=tè*    〈犬が猫を噛む。〉 Mg Khin Min (2011)

### 3. 先行研究

大野(1983: 166-167)はビルマ語の hà は「日本語の<~は>に相当する」、ビルマ語の kâ は「日本語の<は>または<が>に相当する」と出張するが、加藤(1997: 91)は「hà と「は」の用法には類似点だけでなく多くの相違点が存在する」としている。また、「kâ が主語につく標識のうち hà とともに最もよく現れるもので、かつ具体的音形を持つものだから」として、比較の対象にしている。本発表では、日本語の「は」はビルマ語の hà というより寧ろ kâ の方に近く、日本語の「が」の性質とも似ていることを主張する。

### 4. 考察

ビルマ語において岡野(2007: 165)は「副助詞 hà は実質的な会話などの純粋な口語体で使われることはほとんどなく、講演やテレビ放送など、伝える側から受け取る側への一方的な情報伝達の場面でのみ用いられるようである」、「反論の余地を与えないニュアンスを出す場合にも使われることがある」と述べている。この点について、加藤(1997: 102)も「hà が多用されるのは、口語体で書かれた文章や、演説、学校の講義、テレビドラマの台詞などの、比較的かしまった場面においてであり、日常会話で hà を多用すると奇異な印象を与える」と指摘している。ただ、加藤(1997)は hà を日本語の「は」と似たような分析をしている。しかし、日本語とは異なり、ビルマ語は主題を表す場合も主語を表す場合も kâ を用いるのが一般的である。

#### 4.1. 現象文と判断文の原理

日本語の場合、現象文には「が」、判断文には「は」が用いられる(野田 1996)。日本語の「は」とビルマ語「hà」が類似していると考えられるのは、判断文の場合に限られる。hà が判断文以外で現れる場合は単なる「見かけの口語」(澤田英夫:PC)と解釈すべきである。この場合 hà は「~というのは」の意味を持つ s<sup>h</sup>òt<sup>a</sup> に交代できる。ビルマ語では現象文の場合、無標で表すのが最も自然である。ただ、岡野(2007: 29)で指摘しているように、「主語を特別に強調する理由がある場合に主格 (nominative) 助詞 kâ を用いることがある。このとき「他ではなく~が」「~こそが」といったニュアンスを持った表現となる。」という 4.3. に述べる排他的な意味が生じる。

#### 4.2. 文と節の原理

日本語では、文末までかかるときは「は」、節の中は「が」を用いる(野田 1996)。加藤(1997: 98)は「ビルマ語の hà と kâ は、従属節の内部に現れる可能性において異なる性質を持つ」として、日本語と同様の分析をしている。しかし例として挙げられているビルマ語の文は文脈が与えられないと、自然とは言えず、例文を含め、再検討する必要がある。

#### 4.3. 対比と排他の原理

日本語のときは、対比のときは「は」、排他のときは「が」が使われる(野田 1996)。これに対しビルマ語ではいずれの場合も kâ が使われる。

#### 4.4. 新情報と旧情報の原理および措定と指定の原理

日本語のときは、新情報には「が」、旧情報には「は」が使用され、措定には「は」、指定には「は」か「が」が使用される(野田 1996)。これに対しビルマ語はそのような区別がなく、いずれの場合も kâ が用いられる。

## 5. まとめ

考察結果を以下の表1にまとめる。

表1 日本語とビルマ語の主語を表す助詞の現れ方と類似・相違

原理	判断	現象	対比	排他	文	節	旧情報	新情報	措定	指定
日本語	は	が	は	が	は	が	は	が	は	は/が
ビルマ語	hà	無標	kâ	kâ	-	-	(kâ)	(kâ)	(kâ)	(kâ)
類似/相違	類似	相違	相違	類似	該当なし		区別なし			

### 参考文献

大野徹(1983)『現代ビルマ語入門』、泰流社／岡野賢二(2007)『現代ビルマ(ミャンマー)語文法』、国際語学社／岡野賢二(2009)「ビルマ語の格標示」、澤田英夫編『チベット=ビルマ系言語の文法現象 1:格とその周辺』pp.239-268、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所／加藤昌彦(1996)「ビルマ語の助詞-ha\_の特徴について」、『東京大学言語学論集』15号 pp.167-201／加藤昌彦(1997)「ビルマ語の-hàと日本語の「は」についての覚え書き」、『No.76 民博通信』pp.90-105／澤田英夫(2012)『文語ビルマ語文法[改訂版]』、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所／野田尚史(1996)『「は」と「が」』、くろしお出版／藪司郎(1992)「ビルマ語」、亀井・他(編)『言語学大辞典』第3巻(下-1)pp.586-590、三省堂／Mg Khin Min (2011) “Stylistics” pp.117-121, Seit Kuu Cho Cho publishing, Myanmar

## 「NP1のNP2」の用法： ‘NP2 of NP1’の誤用と英語名詞句との対照的視点から

川村駿

東京外国語大学大学院博士前期課程

国際日本研究センターHPで公開されている「英作文学習者コーパス・誤用辞典」に165件と顕著にみられる‘NP2 of NP1’の誤用を通し、「NP1のNP2」の多様な用法を考察する。以下の誤用は、「NP1のNP2」からの母語干渉によると思われる。

- (1) A Turning Point of (→in) My Life (私の人生の転機)
- (2) teams of (→from) other schools (他の学校のチーム)
- (3) an interpreter of (→for) a lot of movie film stars (多くの映画スターの通訳)
- (4) a course of (→about) diet and nutrition (食事療法や栄養学の授業)

「NP1のNP2」が「関連性の法則」が適用される場合には成立するのに対して、英語では、NP1とNP2間の意味関係が細かく区別され、所有関係の場合のみ、ofが用いられることを示す。

### はじめに

国際日本語研究センターHPにて、日本人上級英語学習者による英作文課題における誤用に着目した「オンライン英作文学習者コーパス・誤用辞典」(以下「誤用コーパス」)が公開されているが、その中で特に前置詞の誤用に着目すると、“of”に関する誤用が165件表示され特にその数が多い(2014/07/14アクセス)。

- the examination of(→for) a private school
- trains of(→in) Japan
- a foundation of(→for) your future

## ● safety of(→on) Japanese trains

本発表ではこの点に着目し、日本語の「NP1 の NP2」と英語の‘NP2 of NP1’の用法の違いから“of”の誤用についての考察を行う。

### 調査結果

先に挙げた誤用例はそれぞれ「私立大学の試験」「日本の電車」「未来の基盤」「日本の電車の安全性」と「の」を用いて表現することが出来るが、米英語の正用コーパスである“Corpus of Contemporary American English”（以下‘COCA’）で検索すると‘the examination of～」などといった‘of’を用いた表現はここで誤用として挙げられている名詞句それぞれに存在しており、一概に‘of’を用いることが出来ないという訳ではない事が分かる。

そこで‘COCA’を用いてそれぞれの名詞に‘of’を用いた場合と、誤用コーパスで修正された前置詞を用いた場合で、‘of’ないしその他の前置詞の後にどのような名詞（句）が共起されているかを分析すると、‘of’と共に起る語は“examination of the abdomen/school children” “sale of the painting/diesel vehicles” といった語が続き、その他の前置詞の場合は“examination for graduation/ the early detection of oral cancer” “sale for 70 percent off/ three days” といった語が共起されていた。

これらの例から‘of’を用いた場合、‘NP2 of NP1’の NP1 には NP2 が持つ特徴や機能といった「名詞句が持つ意味を完成させるために必要となる要素」が多く共起されるのに対し、それ以外の前置詞の場合は NP2 の意味の限定やある状況における情報の追加といった「副次的な要素」として作用していると考えられる。この「名詞句が持つ意味を完成させるために必要となる要素」や「副次的な要素」という関係は、西山(2003)にある「飽和名詞」と「非飽和名詞」の区分に似ているように思われる。西山(2003)は「NP1 の NP2」という構造を、次の5種類に分類し、調査している。

タイプ [A] : NP1 と関係 R を有する NP2

「洋子の首飾り」「北海道の俳優」

タイプ [B] : NP1 デアル NP2

「コレラ患者の大学生」「北海道出身の俳優」

タイプ [C] : 時間領域 NP1 における、NP2 の指示対象の断片の固定

「着物を着た時の洋子」「大正末期の東京」

タイプ [D] : 非飽和名詞 NP2 とパラメータの値 NP1

「この芝居の主演」「太郎の上司」

タイプ [E] : 行為名詞句 NP2 と項 NP1

「物理学の研究」「洋子の到着」

(pp.16-43 より要約)

この分類の内タイプ [A] とタイプ [D] に着目すると、「NP1 の NP2」がその名詞句だけで外延を決定できない「非飽和名詞」NP2 の外延を指定する NP1 という関係であればタイプ [D] となり、それだけで外延を決定できる「飽和名詞」NP2 の外延を、<関係 R>という関係性を以ってさらに限定する NP1 という関係になればタイプ [A] に分類される（西山 2003）。日本語では飽和名詞の外延限定も、非飽和名詞の外延決定もどちらも「の」を用いるが、英語では飽和名詞・非飽和名詞という区分ではないものの、NP1 が「名詞句が持つ意味を完成させるために必要となる要素」か「副次的な要素」かによって使用する



前置詞を変化させる必要がある。しかし日本人英語学習者の多くは「of=の」と認識してしまい、それが化石化した結果、本来は他の前置詞を用いなければならない場面においても‘of’を多用してしまうのではないかと考えられる。

### おわりに

本発表では誤用コーパスにも多くの例が挙げられている‘of’の誤用について、‘of’の前項と後項の関連性という観点から考察した。一般的に「of=の」と認識されやすいが、日本語の「の」は英語の‘of’より広い関係性を表現することができる助詞であり、英語教育の場面においても、‘of’の用法のみではなく、その前後にどのような語句が用いられるのかという「前後の関係性」や、日本語の「の」と‘of’の機能の違いについて、より細かい分析と指導が望まれる。

### 引用文献

西山佑司(1990) 「「カキ料理は広島が本場だ」構文について ―飽和名詞句と非飽和名詞句―」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』第 22 号 169-188

## 「のに」の言いさし文について

徐園園

北京大学外国語学院博士後期課程

現代日本語の「ケド」と「ノニ」は逆接の接続助詞として扱われ、その文中用法についての研究がしばしば見られる。実際、日常会話において、「ケド」と「ノニ」は文中用法を持っているだけでなく、それによって言い終わる文末用法の例も少なくない。本発表ではシナリオから用例を収集し、話し言葉における「ケド」と「ノニ」の文末用法に絞って考察する。文中用法との関連性も探りながら、「ケド」と「ノニ」の文末使用はそれぞれどのような機能を持っているのかを語用論の角度から分析し、両者の相違点を明らかにする。また、これらの表現を中国語の訳文と対照し、日中両言語における逆接表現の使用に対する一考察を試みる。

### 1. 研究の目的

現代日本語の「のに」は逆接の接続助詞として扱われることが多い。しかし、実際の談話において、次のように「のに」節のみで終結した「言いさし文」<sup>27</sup>もしばしば見られる。

- (1) 「葉子姉さんはまだこの家にいたっていいのにねえ」

長子がいうと、

「ニューヨークで知り合ったデザイナーの設計事務所手伝ってるでしょう、一級建築士の資格と勉強もしなきゃならないし、ひとり暮らしのほうが時間自由に使えるの」

と、葉子が応える。

(『渡る世間は鬼ばかり』)

- (2) タイルを洗っている明子。

季代「(ちょっとはなれて立っていて) お母さん」

<sup>27</sup> いわゆる「言いさし文」とは、従属節のみで終結した文を指す。

明子「うん？（と洗っている）」  
 季代「日曜日に、そんなことしなくたっていいのに」  
 明子「散歩でも行こうか？（洗っている）」  
 季代「いいの。気を使ってくれなくていいんだけど」

（『時にはいっしょに』）

(3) ——もうじき学年末の試験でしょう、あたし英語を教えていただきたいの。  
 ——何だ、そんなことか。英語なら藤木に教わればいいのに。

（『草の花』 前田（2009）の用例）

この三文の発話意図はそれぞれ何であろうか。

白川（2009）は「ケド節、カラ節、タラ節、レバ節、シ節、テ形節」による言いさし文に関し、統語的には「文末満」であるはずの表現が具体的な発話場面においては終止形などによる「言い切り」の文と同等の内容と完結性を備えた発話として機能していることを論じた。また熊野（1999）にも、言いさしの「のに」は、完全文における接続助詞としての「のに」よりも独立文に近い特徴を示しているとの指摘があった。しかし、「のに」について、日本語学習者は接続助詞としての用法を教えられたことが多く、終助詞としての用法を提示されても、予想に反した意外な気持ちや期待外れの不満というような不意な説明が多いため、「のに」節による言いさし文の多様な用法について、解釈や使用が困難なところが少なくない。本発表では、「のに」節による言いさし文の多様な用法を記述し、それは具体的にどのような発話意図を表せるのか、その意味特徴をどうまとめればいいのかを明らかにしたい。

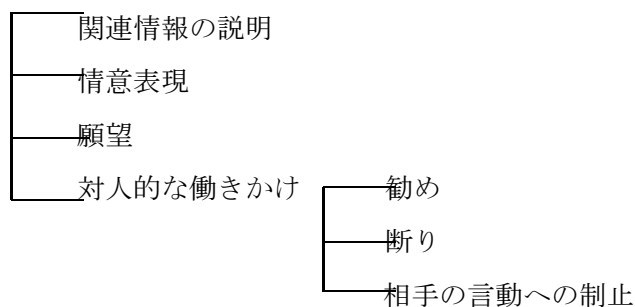
## 2. 用例の考察

小説やシナリオから「のに」の言いさし文の実例を177例（『ノルウェイの森』から28例、『渡る世間は鬼ばかり』から75例、『ふぞろいの林檎たちIV』から34例、『時にはいっしょに』から40例）収集して分析した。

## 3. 分析の結果

用例を分析した結果、「のに」による「言いさし文」の用法は以下のように整理できる。

「のに」による「言いさし文」の用法



## 4. 今後の課題

本発表は「のに」節による言いさし文の多様な用法とその発話意図を中心に述べた。しかし、その言いさし文の用法は接続助詞としての用法とどのような関連性があるのかについて言及していない。これは今後の課題として残したい。

---

#### 参考文献

- 国立国語研究所 現代語の助詞・助動詞一用法と実例一 1951 国立国語研究所報告 3 秀英出版
- 白川博之 「言いさし文」の研究 2009 くろしお
- 前田直子 日本語の複文——条件文と原因・理由文の記述的研究 2009 くろしお
- 熊野七絵 「のに」で言いさす文 広島大学留学生センター紀要 1999 (9)  
日本語教育 109号
-

## 日本語と英語の時制： 学習者の誤用に見られる時制・アスペクトスキーマ

荒川和仁

東京外国語大学大学院博士前期課程

本発表では、日本語と英語の時制スキーマの相違について、国際日本研究センター国際日本語教育部門で開発している「オンライン日本語誤用辞典」「オンライン英語誤用辞典」を活用し分析する。

日本語母語話者英語誤用について、約 800 の英作文から収集された時制に関する誤用を、数量的に処理したところ、次のような単純現在時制、単純過去時制の誤用が約 8 割を占め、日本語の母語干渉がみられる。

(1) When I encountered(→encounter) good thing, I naturally smile as most people do.

良いことに会ったとき、私は他の人同様、自然と笑顔になる。

(2) Since then, I came(→have come) to be more positive to everything.

それから、私はすべてに対してよりポジティブになった。

一方、完了相の誤用は稀で、「事態の完了・未完了のみを表す日本語」対「発話者の事態把握を表現する英語」の相違が、完了相の非用の原因と推測される。

### 1. はじめに

本研究では、東京外国語大学の授業において収集された英語エッセイデータ（2011 年度分、338 ファイル、121,999 語、執筆者 70 名）<sup>28)</sup>を活用し、日本語を母語とする上級英語学習者の持つ英語の時制スキーマについて分析した。これらのエッセイには、スペリングや統語上のエラーが少なく、多くは母語と目標言語における事態の捉え方の違いからの誤用と思われる。誤用のカテゴリー分類とその分析から、

<sup>28)</sup> 科学研究費基盤研究 (B) : 英日中国語ウェブ誤用コーパス構築と母語をふまえた英語・日本語・中国語教授法開発の研究成果である。

英語教育への示唆を得ることが本研究の目的である。

## 2. データ

### 2. 1. 学習者及びエッセイ

2011年度に本学学部の1年生を対象としたアカデミックライティングの授業で収集された英語エッセイをデータとして使用した。全てのエッセイはMS Word形式で提出され、添削後はファイル名を変更し別ファイルとしてまとめた。一部の添削は手書きで行われたが、全て電子化されている。本研究では、誤用抽出のためにファイルをテキスト形式に変更した後、処理をおこなった。

### 2. 2. 研究対象の表現と誤用の抽出方法

Celce-Murcia et al. (1983) の時制分類に従い、本研究では3つの時制（現在、過去、未来）と4つのアスペクト（単純、完了、進行、完了進行）の組み合わせ（計12種類）を対象とし、それぞれが使用されている誤用を抽出した。

誤用の抽出は以下の手順で行った。

- ・ 前述の通り処理されたテキスト形式のファイルを、添削前、添削後のものを対応させてまとめ比較した。
- ・ ファイルの比較にはDiffツールの*P4Merge*を使用した。これは、2つのテキストファイルを比較し、記述の異なる部分をハイライトするソフトである。本研究では、このハイライトされた箇所（添削箇所）を誤用として扱った。
- ・ 時制に関する表現が使用された添削箇所について、添削前の文と添削後の文をそれぞれ抽出し、MS Excelファイルにまとめた。

### 2. 3. カテゴリー分類

抽出した誤用（計295箇所）に、添削される前及び後の時制・アスペクトの組み合わせでカテゴリーを作成した。時制・アスペクトの組み合わせ（カテゴリー）は計算上132であるが、すべての誤用は22のカテゴリーのいずれかに分類された。

## 3. 誤用の分析

### 3. 1. 誤用の顕著なカテゴリー

指導の観点から重要と思われるカテゴリーを決定するため、誤用総数の7割を水準とし、各カテゴリーに属する誤用数を多い順に累積したところ、5つのカテゴリーでその水準を超えた。誤用の多い順に、単純現在-単純過去（約21%）、単純過去-単純現在（約17%）、単純過去-現在完了（約13%）、単純現在-現在完了（約13%）、単純現在-未来（約9%）の各カテゴリーである。ここから、時制に関する表現では単純現在・過去の誤用が顕著だと分かる。ただし、単純現在及び単純過去は使用頻度そのものが多いため、誤用数の多さのみから示唆されることはあまりない。対照的に、完了相に関する誤用はあまり見られなかった（全体の約1割）。この原因としては、学習者が完了相の使用を避けたこと（非用）、教育の焦点化によって誤用しにくいことなどが考えられる。

### 3. 2. 日英語時制表現の対照

誤用の要因として、日本語と英語における時制表現を対照し検証した。日本語での過去表現（動詞のタ形）は、過去の出来事の結果状態が今に維持されていることを表すことができる。そのため日本語母語話者は、以下の例に見られるように英語の単純過去を使い、その行為・出来事の結果状態が現在も残っていることを表そうとする。

- (1) They were (→are) also deprived of their habitats.
- (2) Since then, I came (→have come) to be more positive to everything.

(1)は、熱帯雨林における環境問題を論じたエッセイにおける誤用である。作者は、この前後の文で単純現在を使用し、熱帯雨林の現状を述べている。文脈上はここでも単純現在を使用することが適切だが、過去に起きた環境破壊の影響が今に続いていることを示そうとして単純過去を使用したと考えられる。

(2)は、過去から現在までを含んだ事態を表すときにも過去を使用してしまう典型的な誤用である。上級学習者にとっても、英語の単純過去と現在完了との区別は難しいことが分かる。

同一文内で2つ以上の動詞が使用されている場合の誤用も顕著に見られた。(3)及び(4)は、2つの動詞が表す行為・出来事の相対的な時間の差に注意できず、同一の時制を使用したことによる誤りである。

- (3) Some creators hope that more people get (→will get) to know their works, so they provide trial versions on the Internet.
- (4) They decide what they play (→are going to play), get the script or translate it, direct, and practice acting.

英語では、主節動詞の時制を基準とし、従属する動詞の時制をそれとの相対的な関係性の中で決定する。(3)及び(4)では、主動詞の単純現在との関係から、従属する動詞はどちらも未来表現とすることが適切である。ところが、日本語にはそのような時制を決定する規則はなく、現在も未来も同じ表現（動詞のル形）を用いて表せるため、このような誤用が起きたと考えられる。

### 4. まとめ

本研究の結果から、日本語を母語とする上級英語学習者の誤用傾向と特徴的な要因が分かった。これを基に得られる教育的示唆として、違いを認識すべき文法項目のペアを基にした指導と、日英語の時制スキーマの違いへの注意が挙げられる。具体的には、誤用の大半を占める5つのカテゴリーに留意した教材・教授法の開発、基礎的な文法項目として扱われた単純現在及び過去に対する指導の充実が考えられる。

### 5. 引用文献

Celce-Murcia, M., Larsen-Freeman, D., & Williams, H. A. (1983). *The grammar book: An*

## ウズベク語の愛称形成について —日本語との対照的観点から—

ハルナザロフ マムルジョン  
東京外国語大学大学院博士後期課程

本発表では、友人などに対する呼び方としての愛称の形成法について、日本語とウズベク語の類似点と相違点を検討する。今回はウズベク語の愛称形成法の実態調査とその結果の検討が中心であり、日本語については安富雄平氏らの調査結果から得た例の検討に留まる。

調査は、ウズベク語母語話者 14 名を対象に、ウズベク人の名前 492 例を示し、それに対して回答者が知っている愛称形を回答してもらうという形で実施したものである。調査によって収集した愛称形の実例をもとに構成法を分析した。調査の結果、ウズベク語の愛称は、大きく省略によるものと、接辞添加によるものの 2 種類に分かれることが分かった。また、ウズベク語の愛称を形成する接辞としては、従来指摘されていない 3 つの接辞が認められた。

日本語の愛称形成法と対照すると、共通に認められるのは省略と接辞添加による愛称形成である。また、日本語の愛称は姓・名両方から作られるが、ウズベク語の愛称は名からのみ作られ、姓からは作られない。

### 1. はじめに

本稿では、友人などに対する呼び方としての愛称の形成法について、日本語とウズベク語の類似点と相違点を検討する。

ウズベク語では、「愛称」は名前から作られるのが殆どであるが、普通名詞の中にも一定の接辞を付けることで「愛称」として用いられるものがある。本稿では、人名愛称を中心に分析を行い、普通名詞の愛称については今後の課題とし、本稿では扱わない。

### 2. 先行研究



今回はウズベク語の愛称形成法の実態調査とその結果の検討が中心であり、日本語については安富雄平氏らの調査結果から得た例の検討に留まる。

ウズベク語の愛称に関する先行研究として、Zokir Ma'ruf. (1941) と Rahmatullayev, Sh. (2006) では、愛称形成接辞について簡単に触れているだけであり、省略による愛称形成については言及されていない。

なお、ウズベク語と日本語の愛称形成法の対照に関する先行研究は、管見では見当たらない。

### 3. 調査方法

調査は、タシケント市とタシケント州出身のウズベク語母語話者 14 名を対象に、ウズベク人の名前 492 例を示し、それに対して回答者が知っている愛称形を回答してもらうという形で実施したものである。調査で扱った名前は、すべて Sohیب Kamol. (1993) から取ったものである。調査によって収集した愛称形の実例をもとにウズベク語の愛称形成法を分析した。

### 4. ウズベク語の愛称形成法

アンケート調査の結果を観察すると、ウズベク語の愛称形の作り方は、大きく名前の構成要素の省略によるものと、名前への接辞添加によるものの 2 種類に分けることができる。

名前の構成要素の省略によって形成される愛称形には、前部省略や中部省略、後部省略、また、「前部+後部省略」など様々なパターンの省略が見られた。

接辞添加によって形成される愛称形で一番多く観察できたのは、従来指摘されていない -š と -i と -a という接辞である。また、ロシア語由来の愛称形成接辞 -ka や -ik、-ya などを用いた例も少し見られた。

表 1 と表 2 は、人名愛称に関する調査結果を、用例数が多い順に表示したものである。

接辞 -š と -i と -a の使用頻度が高いことの一理由の一つとしては、男性の名前の愛称形と女性の名前の愛称形に区別なく使われうることがあげられる。

表 1. 省略による愛称形の実用例数

省略	用例数
後部省略	431 例
前部省略	99 例
中部省略	20 例
前部+後部省略	11 例
中部+後部省略	2 例
合計	563 例

表 2. 接辞添加による愛称形の実用例数

接辞	用例数
-i	80 例
-š	62 例
-a	30 例
-ik	14 例
-ka	5 例
-ya	5 例
-boy	5 例
-jon	4 例
-xon	2 例
合計	207 例

### 5. 両言語の愛称形成法の対照

ウズベク語と日本語の愛称形成を比較してみると、共通に認められたのは省略と接辞による愛称形成である。

日本語では「たん」「ちん」「ぺ」「すけ」などの接辞が用いられるのに対し、ウズベク語では -i、-š、-a、-boy などの接辞やロシア語由来の愛称形成接辞 -ka、-ik、-ya などが用いられている。なお、ウズベク語

の愛称形成接辞の中には、男性の名前にだけ付けられるものと、女性の名前にだけ付けられるものがあるようである。

省略による愛称形成はウズベク語にも日本語にも例が多い。ウズベク語では、省略による愛称形成は、大きく前部省略と中部省略と後部省略に分けられるが、同じようなことが日本語についても言える。

また、日本語には「安田→やすやす」「けんじ→けんけん」のように、構成要素の反復による愛称形成法があるが、ウズベク語にも「Bobur→Boboš」「Dilafruz→Didiš」のような例が若干見られる。

相違点としては、日本語の愛称は姓・名両方から作られるが、ウズベク語の愛称は名からのみ作られる、姓からは作られない。

また、日本語には、「鈴木→すーさん」「佐々木→さー様」のように、名字や名前の頭文字を取ったもの、「てづか・みなこ→てづかみ」「くらた・まゆみ→くらたま」のように、セグメンテーションの変更によるもの、「みやもり→もりや」「おおが→がおお」のように、倒置によるものなど、様々な愛称形成法が見られるが、ウズベク語にはこのような愛称形は見られない。

#### 主要参考文献

森岡健二・山口仲美 (1985)『命名の言語学——ネーミングの諸相』東京：東海大学出版会

安富雄平 (2005)「日本語とスペイン語の人名愛称——愛称形成の日西対照——」(拓殖大学紀要、Vol.110)

Gulom A., Kamol F. ed. 1941. *SSSR Fanlar Akademiyasi O'zbekiston Filialining Asarlari, II, Filologiya, 2 kitob.*

*O'zbek Tilining Ilmiy Grammatikasi Uchun Materiallar.* Toshkent: O'zFAN

Rahmatullayev, Sh. 2006. *Hozirgi adabiy o'zbek tili.* Toshkent: Universitet

Sohib Kamol. 1993. *O'zbek Ismlari.* Toshkent.

Zokir Ma'ruf. 1941. O'zbek Adabiy Tilida Ot Yasovchi Suffikslar. in: Gulom A. and Kamol F. ed. 1941.

## 三者間の共同作業における言語行動 —親疎関係による課題達成および対人関係調整の相互行為—

ツォイ エカテリーナ

東京外国語大学大学院博士後期課程

本発表は、三者間の共同作業の自然会話データを分析したものである。

これまでは、会話データを扱う談話分析では二者間会話のデータが多かったが、三者間会話を扱う大場(2013)では、会話参加者の役割の分化が指摘された。また熊谷・木谷(2010)は、三者面接において話者の親疎関係により活動目的の達成への指向性が異なることを指摘した。

本研究の目的は、共同作業の場面における協力のための相互行為の親疎関係及び性別による配慮の相違を明らかにすることである。そのため、友人関係の話者2名と初対面の話者1名、3者間会話のデータを用いる。

まず、友人間の発話と初対面に対する発話の量及び発話のオーバーラップを量的に分析した。次に、Anderson(1939)、塚田(1973)を参考に、共同作業の場面において行われる言語行動を明らかにした上で、作業を進めるにあたって友人と初対面に対して行われる配慮行動の異同を質的に分析した。

結果として、女性会話では友人同士の話者が友人より初対面の話者に発話を向けることが多く見られたのに対し、男性会話ではその差は見られなかった。また共同作業を行うことに関しては、女性会話では活動内容の検討や互いへ共感を示す言語行動が多く見られたが、男性会話では活動の推進に関する言語行動が最も多く見られた。

### 1. 研究背景

人間は社会的存在であり、日常生活で他の社会成員と接する中で共同の作業に取り組むことが多い。社会心理学や教育心理学では共同作業における行動の研究(Anderson 1939, 塚田 1973, 中山 1985)がなされている。また、言語使用を扱う語用論では依頼、断り、誘い、謝罪の場面を扱う研究が多く見られ

るが、共同作業の研究は少ない。Fujii (2005)はターン及びフロアテーク、発話内容の日英比較により二者間の共同作業における日本語話者の「相互行為为中心的(interaction-centered)」行動パターンと、英語話者の「論理中心的(logic-centered)」行動パターンを見出す。

共同で作業を行う際には、直接課題達成に関する相互行為の他に対人関係に関する相互行為もある。Fujii (2005)では後者については言及されていないが、熊谷・木谷(2010)は、三者面接調査における友人同士の回答者間の相互行為に活動目的の達成への指向性が認められたが、初対面の回答者間の相互行為が関係構築を指向している場合が多かったと述べている。

本発表では、先行研究で示唆されたことを踏まえ、友人同士と初対面という不平等な関係が存在する三者間会話データを用い、共同作業における言語行動や参加者の親疎関係の差による相互作用について述べる。

## 2. 分析データ

分析データとして2013年6月~2014年7月に東京外国語大学にて収集された、20代の日本語母語話者の三者間会話を用いた。グループ構成員は同性であり、3人のうち2人は友人同士、3人目の話者は初対面である。

共同作業の内容は、12枚の絵カードを、ストーリーができるよう並べることである。

作業の様子は録音及び録画され、収集された会話数は7会話(男性4会話、女性3会話)ある。データの総時間は78' 15" (一会話当たり平均10' 57")である。

## 3. 分析方法

本研究では、量的分析及び質的分析、また会話全体の流れを扱う談話レベルの分析及び文レベルの分析を併用した。

文レベルの分析では、「共同作業の言語行動」(分類基準及び例については別紙を参照)及び「発話の相手」、2つの観点から全ての発話文を分類した。談話レベルの分析として、全てのデータに共通する共同作業の談話展開パターンを特定した。

量的分析では、文レベルで分類した発話文を集計し、最も多く見られた言語行動を、談話展開パターンの枠で質的に分析した。質的分析では、分類した言語行動を手掛かりに会話参加者の親疎関係による課題達成および対人関係調整の相互行為を検討した。

## 4. 分析結果

全データの発話文を集計した結果、3人の話者の発話文数に差が見られず、初対面は31.48%、友人Aは35.67%、友人Bは32.86%であった。発話の相手に関しては、友人Aに対する発話が最も多く(24.07%)、話者別に発話の相手の比率を検定した結果、「友人Aに対する発話」との差は有意であった(初対面： $\chi^2=18.36, p<.001$ 、友人B： $\chi^2=16.18, p<.001$ )。このことから、友人の1人が活動の中心となっていたと考えられる。

分類した言語行動で最も多く見られたのは「相槌」(19.26%)、「推進」(15.52%)、「同意」(14.29%)「提案」(13.35%)である。話者別に見ると、初対面の話者は「相槌」(20.93%)、同意(16.86%)、推進(15.36%)、提案(11.75%)、友人Aは「相槌」(17.59%)、「推進」(17.59%)、「提案」(16.40%)、友人Bは「相槌」(19.48%)、「同意」(17.03%)、「推進」(13.42%)、「提案」(11.54%)、「検討」(10.39%)が最も多かった。

本データで共通して見られた談話展開パターンは「課題確認」—「課題達成方法の確定」—「ストーリー作成」—「ストーリー確定」という流れである。

「課題確認」の談話では、主に「推進」の言語行動が行われた。発話内容としては課題の確認が行われていたが、観察された相互行為では、初対面の参加者と接触を試みる対人関係の調整が行われていた。また、友人間のみでの対人調整の相互行為として、課題について「コメント」を述べ合うことが見られた。

共同作業の談話の主要部分となる「ストーリー作成」では、先行の提案と関連して新しい提案を提示する「引き継ぎ作成」、新しい提案を提示せずに先行の提案を発展させる「補助作成」、一人の話者が次々に出す提案に他の話者が同意する「単独作成」、という3パターンの課題達成の相互行為が見られた。「ストーリー作成」では「提案」の言語行動は、作業に入るための手段となっていた。一方、「検討」は、友人同士の対人調整の相互行為にも多く見られた。いったん初対面の話者と距離を置き、友人間で疑問を述べ合うことになってしまい、作業が滞ってしまう場合がある。

「課題達成方法の確定」と「ストーリー確定」の部分では、友人間の対人調整の相互行為が顕著に表れる。どのように課題を達成するか、最終的にどのようなストーリーにするかを決める際に友人同士の話者が互いにサポートを得ながら活動を推進していた。活動を推進する際に、友人のサポートがあるかないかで談話の流れが大きく左右されるので、「友人同士のサポート」という対人調整の相互行為が共同作業において重要となる。

## 5. 結論

本発表では、言語行動を手掛かりに共同作業における課題達成および対人調整の相互行為を分析した。

量的と質的分析の結果から親の関係にある話者が活動の中心となり、互いにサポートするという対人調整の相互行為により作業を進めることが分かった。また、親の関係において特徴的に生じる対人調整の相互行為として検討やコメントを述べ合うことが見られた。一方、初対面の話者は課題達成の相互行為において提案および推進の言語行動により共同作業への参加を試みていた。

## 参考文献

- Anderson, H. H., 1939. Domination and social integration in the behavior of kindergarten children and teachers. *Genetic Psychology Monographs*, 21, 287-385
- Fujii, Y. 2005. How Japanese and American pairs co-construct stories: An overview of two different types of collaboration. *日本女子大学英米文学研究*, 40, 日本女子大学英語英文学会, 69-84
- 熊谷智子・木谷直之 (2010) 『三者面接調査におけるコミュニケーション—相互行為と参加の枠組み—』, くろしお出版
- 塚田紘一(1973)「Category Systemによる幼児の共同作業場面に於ける言語行動に関する研究(1)」明星大学研究紀要, 人文学部, 9, 95-111
- 中山勘次(1985)「共同課題解決事態における相互作用分析のためのカテゴリーシステムの検討」, 上越教育大学研究紀要, 4, 21-34

## 日本語とビルマ語の言いさし文に関する対照研究 —「から」と“lo.”で終わる文を中心に—

大西秀幸

東京外国語大学大学院博士後期課程

規範的には適格に終止しない形式で文を終止させる表現である「言いさし文」は日本語において頻繁にみられる（「お願いがあるんですが。」「悪いんだけど。」「大丈夫ですから。」）。一方で、ビルマ（ミャンマー）語にも「言いさし文」にあたるものもあるが、聞き手に判断をゆだねる形をとることで、押しつけがましくない働きかけを行なう日本語の言いさし文に対して、ビルマ語の言いさし文は相手への働きかけよりも自分の感情を強く表明するような文脈で用いられることもある。またビルマ語の言いさし文が疑問文でも現れえることも日本語との違いといえる。本発表では日本語とビルマ語の「言いさし文」にフォーカスを当て、意味や分布の異同を探る。

### 1. 本発表のねらい

原因・理由を表す従属節を導きながら、文末にも現れうるという点で、「から」と lo は類似している。本発表では、両者が文末に現れた場合に表される意味にも、一定の類似性があるのではないかという仮説を立て、実際の使用パターンから、「から/lo. 終わりの文」の用例を収集し、両者の異同を観察する。

### 2. ビルマ語についての基本情報

- 系統・・・チベット=ビルマ語派、ロロ=ビルマ語群
- 使用地域・・・ミャンマー連邦共和国
- 母語話者・・・ビルマ族(3,500万人～)、(第二習得言語として国内に住む少数民族1,000万人)(cf. ミャンマー国内の総人口6,367万人(2012年, IMF 推定値))

### 3. 言いさし文とは

- 接続助詞で終結した文(白川2009)。

(1) おやつ、アイスクリームが冷蔵庫に入ってるからな。 (2) あの...三鷹さん私...アパートに電話したいんですけど。

### 4. 「から」終わりの文

- 「ので」との対比から

言語学研究会・構文論グループ(1985: 27)、永野(1952: 36)

から	主観的	私の論理	話し手が設定した原因・結果の関係
ので	客観的	対象の論理	話し手の意識の外で進行する出来事間の原因・結果の関係

(3)もう遅いから早く帰りなさい。 (4)雨だったので、運動会は中止になった

- 「から」終わりの文

話者から聞き手への何らかの情報の告知(典型的には話者の意志の告知)、話し手の意志的行為の実行や新情報の伝達が、聞き手にとって何らかの影響を与える(前田(2009: 143))

### 5. ビルマ語の言いさし文(「lo.終わりの文」)

(5) zəbin p'ju lo. s'e:s'o: ja. da  
 髪 白い lo. 染色する [不可避] -NC

「髪が白くなったので、染めなければいけない。」(Okell and Allot2001: 210)

(6) ein də:ma lu təjau<sup>2</sup> ʃi ne ɖəlo k'anza: ja. lo.  
 家 ~の中に 人 一人 いる [継続] ~のように 感じる [不可避] lo.

「家の中に誰がいるように感じたので。」

### 6. 主観的な因果関係のもたせ

- 日本語と共通する機能

(客観的には因果関係の見い出せない)二つの事柄に対して、話し手が主観的に因果関係を持たせようとする。

(7) これから箱根に行きなさい。 すぐに車を呼ぶから。(午後の恋人)

(8) dabe:no məlawin: tʃəno. mə tʃwa:zəja ʃi lo.  
 それでは [人名] 1[男] [於] 用事 ある lo.

「それでは、マフラウィンさん。私は仕事がありますから。」

## 7. 話し手の打ち明け

- 「lo 終わりの文」に独特の機能。

(9) dabemε. tʃəma. sei<sup>?</sup> tε:ma məp̄:mətan. p̄ji<sup>?</sup> ne lo.  
しかし 1[女] 心 ~の中 不快になる. [継続] lo.  
「でも私はいやだよ。」

話し手が積極的に因果関係を成り立たせようという文脈ではない。

「彼女のことが心配だ。」という話し手自身の気持ちを、聞き手に打ち明ける。

## 8. 結論

- 日本語と共通する点

話し手の主観によって因果関係を主張し、聞き手や話し手自身を納得させる。

- ビルマ語に特有の点

話し手の純粋な主張を表現するということがあげられる。因果関係を想定できない。

## 参考文献

言語学研究会・構文論グループ(1985)「条件づけを表現するつきそい・あわせ文(2)ーその2・原因的なつきそい・あわせ文ー」『教育国語』82./永野賢(1952)「「から」と「ので」とはどう違うか」『国語と国文学』29:2./岡野賢二(2007)『現代ビルマ語文法』国際語学社./Okell, John and Allott, Anna(2001) *Burmese/Myanmar dictionary of grammatical forms*. Curzon Press./白川博之(1995)「理由を表さない「カラ」」仁田義雄編『複文の研究(上)』くろしお出版./前田直子(2009)『日本語の複文ー条件文と原因・理由文の記述的研究ー』くろしお出



## 発話行為理論から見た文末の接続表現の用法 —カラ・ケド・シを中心に—

孫思琦

筑波大学大学院博士前期課程

本研究は、接続助詞で言い終わる表現は学習者にとって習得が難しいという問題意識から出発し、発話行為理論の観点から、文末の接続助詞として最も頻繁に使われるカラ・ケド・シを検討した結果、文末の接続助詞はその本来的用法を持ち続ける一方で、新しい派生的用法をも持ち、強弱に関わらず文中より働きかけ性が高い結果を得た。

文末の接続助詞に関して多くの研究がなされてきたが、文末の接続助詞の使い方、また文中の接続助詞との相違についてまだ十分に説明されていない。そのため、筆者はドラマシナリオ（計12話）をデータとし、発話行為理論の枠組みのもとで、文中のカラ・ケド・シが持つ本来的用法を見直しながら、派生した文末の用法を検討し、両者における相違点を明らかにした上で、さらにこれらの用法上の変化は接続助詞の文法化の一例としても位置付けられることを主張する。

### 1. はじめに

従来の日本語研究において、カラなどの接続助詞は主節と従属節の間に使用される表現とされ、文末に現れる接続助詞について未だに十分な説明はなされていない。一方、実際の日本語会話において、文末の接続助詞が頻繁に現れ、特に近年「若者ことば」として用いられる傾向があると指摘されている（栗原 2009）。文末の接続助詞にはどのような特徴があるかを明らかにするために、本研究は文末のカラ・ケド・シを取り上げ、文中用法との相違を指摘しながら文末の用法を検討する。

## 2. 先行研究の整理

まずは文中のカラである。先行研究（国立国語研究所 1951、田中 1995 など）では、接続助詞のカラを「原因・理由・根拠を表す」という前後文の論理的関係を示すカラと、「原因・理由・根拠を表さない」という後件を促進させる情報を提示するカラに分けられると主張している。一方白川（2009）は文末に現れるカラに注目し、従属節の内容と関わるべき事態が文脈にあるかを基準に「言い尽くし」のカラと「関係付け」のカラがあると主張しているが、文末のカラにしか見られない話し手の不満表明の解釈などはなされていない。

ケドに関する代表的な研究は国立国語研究所（1951）がある。国立国語研究所（1951）は事態間の繋がりの強さや性質によってケドの用法を「ならべあげ」、「持ち出し」、「逆接」、「挿入的用法」と4つ分けている。それに対して文末のケドを対象とする研究（白川 2009、朴 2008 など）は、対人的な視点から文末のケドを捉え、「情報の追加・補完」、「発話を和らげる」、「聞き手へ働きかけ」と3つの用法があると主張しているが、これらの解釈と従来文中のケドの用法との繋がりを明らかにしていない。

シの中心的な用法は「事態を並べ立てる」ことである（森田 1984、山田 1981）。文中のシと区別して文末のシに「独話性」があると栗原（2009）、近藤（2012）が指摘したが、この「独話性」を持つ文末のシに話者のどのような心的態度が含まれているかについて言及していない。

以上、文末及び文中のカラ・ケド・シに関する先行研究を概観してきた。文末の接続助詞を対象とする研究は多くなされているが、文中用法との繋がりが見えなかったり、文末用法の分析は不十分であったりする研究が少なくない。これを受け、本研究は比較的なアプローチを用い、従来にある文中の用法と比べることによって、文末のカラ・ケド・シでしか持たない用法を明らかにする。

## 3. 研究方法と理論的枠組み

分析の手がかりとして、本研究はサール（1979）とリーチ（1987）の発話行為理論を用い、テレビドラマ11話から抽出したカラ・ケド・シの用例を文末と文中に分けて考察を行う。

サール（1979）は「発話行為の目的」、「ことばと世界の対応関係の方向」、「話し手の心理的立場」などを基準によって発話内行為を「断定型」、「行為指示型」、「行為拘束型」、「宣言型」、「表出型」と5つ分類したが、中に「宣言型」は「儀式的行事の言語的部分」であるため、リーチ（1987）によって発話内行為から除外され、代わりに「質問型」という新たなカテゴリーを加えられた。本研究はリーチ（1987）の発話内行為分類を基準とし、収集した用例が対応している発話内行為のタイプを分析することによって文末のカラ・ケド・シの用法を考える。

## 4. 結果と分析

接続助詞の「カラ」の用例として、合計 134 例が収集された。「断定型+断定型」「断定型+行為指示型」「行為拘束型+行為指示型」のパターンにおいて、「A カラ B。」の「A」も、「A カラ。」の「A」も、「原因・理由・根拠」を表わすことができ、後接する「カラ」は関連事態との論理関係を示すことによって繋がりを合理化する機能を持つと考えられる。「A カラ。」でしか現れない「断定型+Ø」の「カラ」は、何らかの情報と関係づけると考えにくい点で上述した 3 つのパターンと区別しているが、殆どの用例は反論や苛立ちなど、話者の否定的な態度表明と関わるのが特徴である。

接続助詞「ケド」の場合は、「A ケド B。」にも「A ケド。」にも「断定型+断定型」のパターンが多いが、「A ケド。」の場合は単に「持ち出し」、「逆接」などという論理関係を示すだけではなく、従属節に相当する情報を補足するか、それとも押しつけ感を軽減するために主節に相当する内容を敢えて「従属節化」してから相手に伝えるかによって、相手に影響を与える機能を有すると考えられる。また、「A カラ。」と同様に、「A ケド。」にも「断定型+Ø」のパターンがある。このパターンの「ケド」によって、話し手が妥協の姿勢を見せながら反論または不満を表わすのである。

接続助詞「シ」は文中にも文末にも「断定型+断定型」が一番多くて、話者の主張を聞き手に納得させるために説得性のある根拠を示す用法は主流であるが、文中の「シ」と比べて文末の「シ」はより多様なパターンがあり、「自己納得」「独話的用法」という新しい用法があるとわかった。

接続助詞は従来、「用言を受けてそれと他語との関係を表わす」（此島 1965）表現とされているが、文末に用いられる場合に新たな用法が生じてくることがわかった。これらの新たな用法に、本来的用法を保ちながら発達していく用法もあり、本来的用法から少し離れて対人関係までに広がっていく用法もある。このような多機能化する言語現象は、大堀（2002）の定義によると「多機能性の発達」とも称され、文法化現象として位置付けられるのである。

#### 【参考文献】

- 大堀壽夫（2002）『認知言語学』 東京大学出版会  
栗原さよ子（2009）「終助詞化した「し」」『学習院大学国語国文学会誌』, Vol.52, pp.87-73 学習院大学文学部  
国立国語研究所（1951）『現代語の助詞・助動詞—用法と実例—』, 秀英出版  
此島正年（1966）『国語助詞の研究 助詞史の素描』, 桜楓社  
近藤研至（2012）「接続助詞シについて」『言語と文化』, Vol.24, pp.68-83, 文教大学  
白川博之（2009）『言いさし文の研究』, くろしお出版  
ジェフリー・N・リーチ（著）,池上嘉彦,河上誓作（訳）（1987）『語用論』 紀伊國書店  
ジョン・R・サール（著）,山田友幸（訳）（2006）『表現と意味—言語行為論研究』, 誠信書房  
田中久美子（1995）「依頼場面における理由提示形式：「から」の待遇上の制約（水谷信子先生退官記念号）」『言語文化と日本語教育』, Vol.9, pp.123-133, お茶の水女子大学  
朴仙花（2008）「現代日本語における接続助詞で言い終わる言いさし表現について—「けど」「から」を中心に—」『言語と文化』, Vol.9, pp.253-270, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科  
森田良行（1984）『基礎日本語』, 角川書店  
山田俊雄（1981）『角川新国語辞典』, 角川書店

## 日中両言語における再依頼に対する断り表現

宗甜甜

東京学芸大学大学院生

本研究は、中国人日本語学習者がどのような点に配慮して断りを行う必要があるかを明らかにするため、日本語母語話者（JS）と中国語母語話者（CS）がそれぞれどのように断りをするのかを探り、その共通点と相違点を明らかにするものである。上下・親疎関係によって「親しい先輩からの依頼」「親しくない先輩からの依頼」「親しい同輩からの依頼」「親しくない同輩からの依頼」の4場面を設定し、ロールプレイを用いて調査を行った。

分析の結果、CSは、親しくない人からの依頼に対しては、直接断るが、親しい人に対しては、関係維持を考慮しながら断っていた。一方、JSが比較的はつきり断るのは親しい同輩のみであった。一回断った後再依頼された場合は、CSは代案を提示し、他の方法を考えて問題解決を試みようとするのに対し、JSは謝罪をし、断ることに対して詫げる傾向があることが明らかになった。

**1. はじめに:** 森山(1990)も述べている通り、断り行為は最も相手に不快感を与える行為で、対人関係上の障害が生じないように配慮すべきである。中国人日本語学習者が日本語母語話者からの、「依頼」「誘い」等に対して断る際も、コミュニケーション上の障害を起こす可能性があるだろう。しかし、日本語教育において専門的な指導がなければ、学習者が日本語での断り方略を身につけるのは難しい。特に、中国国内で日本語を勉強する学習者は、日本語の断り場面に触れるチャンスが少ない故、尚更である。

そこで、本研究では、日本語母語話者と中国語母語話者がそれぞれどのように断りをするのかを探り、その共通点と相違点を明らかにすることとした。

**2. 調査方法:** 本研究は、より自然な会話を収集することができるロールプレイを用いることにした。日本語母語話者ペア、中国人非日本語学習者ペアに分けて、日本と中国で録音調査を実施した。断る相手との上下・親疎関係によって断り戦略が中国語と日本語でどのように異なるかを考察する

ため、「親しい先輩からの依頼」「親しくない先輩からの依頼」「親しい同輩からの依頼」「親しくない同輩からの依頼」の4場面を設定し、調査を行った。依頼内容は外国人の友達が東京にあそびに来るが、バイトがはずせないで他の人に観光案内を頼むというものである。

調査は日本では2013年1月、東京学芸大学において、中国では2013年3月4日、大連大学において実施した。日本の調査では、上記4場面をそれぞれ3名の日本語母語話者(大学生あるいは大学院生)にロールプレイを課し、計12の日本語の断りデータを収集した。中国でも、同様に調査を行い、計12の中国語の断りデータを収集し、計24件の断りデータを収集した。

**3. 分析方法:** データの分析にあたって、先行研究に倣い、「意味公式」を分析単位として用いることにした。文(2004)の意味公式の分類を参考にしながら、今回実際収集した断りデータに基づいて修正を加えた。意味公式をそれぞれの意味役割によって直接断り、間接断り、関係維持発言、内容発言、回答回避の6つに分類した。

「断り談話」における断り言語行動の展開パターンを分析するために、意味公式が出現する順序および組み合わせについて検討することにした。とくに、依頼側から再依頼された場合における断り表現に注目し、日中両言語それぞれの断り言語行動の展開パターンを明らかにし、さらに、それらの使用特徴がいかに人間関係の維持に機能しているかを考察した。

**4. 分析結果:** 親しい先輩からの依頼に対する場合では、中国人話者と日本人話者はそれぞれ3名のうち、2名がまず最初に意味公式{情報要求}を用いている。断り方において、日本人は3名とも間接断りを用いている。中国人も直接断っているのは一人のみで、間接断りが優位になっている。また、再依頼された場合の断り方を分析したところ、中国人は代案提示や条件提示で他の方法で問題解決に貢献しようとしているのに対し、日本人は謝罪することで断りの意を表している。

親しくない先輩に対する場合では、中国人は最初に{情報要求}{感謝}{不可}それぞれ違う意味公式を使用しているのに対し、日本人は3名とも「情報要求」を用いている。断り方では、中国人は3名とも{不可}を使用しているが、{不可}を使用する日本人はいなかった。また、再依頼された場合では、中国人は理解の要求や代案提示で断っている。日本人は親しい目上の場合と同様に謝罪で断っている。

次に、親しい同輩に対する場合で、中国人最初には2名が{情報要求}を、日本人は2名が{弁明}を使用している。断り方では、中国人は直接断る者と間接的に断る者もがおり、どちらか一方で断っている。日本人は{不可}を用い、直接的な断り言語行動をとる傾向がある。また、再依頼された場合、中国人は{回避}または{代案提示}を使用している。日本人はそれぞれ{代案提示}、{不可}、{共感}を用いている。

最後の親しくない同輩に対する場合では、最初に、中国人は2名が{弁明}を使用し断っているのに対し、日本人は2名が{情報要求}を使用しすぐに断ることをしていなかった。断り方では、中国人は直接に断ったのは1名のみで、間接断りを全員は用いられている。日本人も全員間接断りをしている。また、再依頼された場合、中国人は代案提示で、日本人は謝罪で断りの意を再表明している。

**5. 考察とまとめ:** 中国語母語話者と日本語母語話者は、親疎関係、上下関係の異なる相手に対し、

それぞれどのような断り方をしているか、相手との距離差という視点から、その相違点及び特徴をまとめた。

自分との距離が近い相手から遠い順に並べると、親しい同輩、親しい先輩、親しくない同輩、親しくない先輩の順になる。もっとも自分に近い「親しい同輩」からの依頼を断る場合、日本人は3人とも直接断りと間接断りを併用しているが、中国人はどちらか一方で断り行動を行っている。次に自分に距離が近い「親しい先輩」からの依頼に対する場合、日本人は3名とも間接断りを行っている。中国人も間接断りが優位になっており、大きな差はないと言えるだろう。3番目に近い「親しくない同輩」からの依頼に対する場合では、日本人と中国人ともに、間接断りを使用している。距離がもっとも遠い「親しくない先輩」からの依頼に対する場合において、日本人は間接断りを用いているのに対し、中国人は3名とも、直接断りと間接断り両方を使用している。中国人が直接断るのは自分との距離が遠い人で、日本人が直接断るのは近い人だと言える。

また、最初に用いる意味公式について、{情報要求}を用いる人の数を比較した。中国人は上下問わず、親しく自分に近い人に{情報要求}を使っている。一方、日本人は距離がより遠い人に対し{情報要求}を使用する傾向がある。

中国人は親しくない人に対し比較的直接的断ることが多く、日本人は親疎関係と上下関係ともに重視し、目上の人に、そして、親しくない人には直接断らない。これは、加納・梅(2002)で述べている調査結果と一致している。

しかしながら、再依頼に対する断り方について、相手との距離差に関わらず、再依頼された後、中国人は代案提示を、日本人は謝罪を以て、断りの意思を再表明している。中国人は代案を提示し、他の方法を考えて問題解決を試みようとするのに対し、日本人は謝罪をし、断ることに対して詫げる傾向があることが明らかになった。

今後は、データを増やし、今回の結論を検証したい。また、中国人日本語学習者と日本語母語話者との接触場面での断り言語行動の調査も行いたい。

## 参考文献

- 加納陸人、梅曉蓮 (2002) 「日中両国語におけるコミュニケーション・ギャップについての考察—断り表現を中心に」『言語と文化』第15号、pp.19-41 文教大学
- カノックワン・ラオハプラナキット (1995) 「日本語学習者にみられる『断り』の表現—日本語母語話者と比べて—」『世界の日本語教育』第7号 国際交流基金
- 施信余 (2005) 「依頼に対する『断り』の言語行動について—日本人と台湾人の大学生の比較」『早稲田大学日本語教育研究 6』 pp.45-61 早稲田大学
- 肖志、陳月吾 (2008) 「依頼に対する断り表現についての中日対照研究」『福井工業大学研究紀要』第38号、pp.133-140 福井工業大学
- 西村史子 (2007) 「断りに用いられる言い訳の日英対照分析」『世界の日本語教育』第17巻、pp.93-112
- 飛田良文 (2001) 『日本語教育学シリーズ<第一巻>・異文化接触論』おうふう出版社
- 藤森弘子 (1994) 「日本語学習者にみられるプラグマティック・トランスファー—「断り」行為の場合—」『名古屋学院大学日本語学・日本語教育論集』第1号、pp.1-19 名古屋学院大学
- 文鐘蓮(2004) 「断り表現における中日両言語の対照研究」『人間文化論叢』第7巻、pp.123-133
- 劉珏、肖志 (2008) 「断りの発話行為の伝達効果について—誘いに対する断りの理由を中心に—」『福井工業大学研究紀要』第38号、pp.127-132 福井工業大学

## 視覚動詞「see」の対訳から見る中日の差異 —認知スタンスを中心に—

郭海庁

北京大学外国語学院博士後期

事態把握といえ、普通主観的把握と客観的把握に分けられてきた。日本語話者では前者の顕在化は比較的自然的という印象で、英語話者では後者のスタンスに傾きやすいとよく言われている。ただし、中国語話者の事態の捉え方に関しては、まだ議論の途中で、定説がないのが現状である。

本発表においては、小説の実例に基づいて、「話者のゼロ化」「感覚動詞の省略」「指示詞抜き」等の角度から、事態把握における中国語と日本語の相違点を考察した上で、その原因を探ってみたい。

### 1 はじめに

我々は物事を認識する場合、知覚器官で外部情報を捉え、頭脳の複雑かつ迅速な処理を経て言語化する能力を持っている。事態のどの部分に注目するか、どのように表現するか、話者の主観性と密接にかかわっている。言語によって、話者の事態への捉え方も微妙に変わってくる。例えば、傾向として、日本語話者は<主客合一>的な事態把握に傾き、英語話者は<主客対立>的な事態把握を好むことはよく言われている。

ただし、事態把握に関して、既往の対照研究では、小説やエッセイなどの一部分から好例を選び出すことがよくあるが、量的には少ない。管見では、一冊の小説などを調査対象として、何らかの指標に基づきある側面を考察する実証的研究はほとんど見られない。

そこで本研究ではヘミングウェイの名作『老人と海』の訳本を調査対象として、データの分析を踏まえ、視覚動詞「see」の対訳からアプローチして、語彙レベルの比較も交えながら、事態把握における中日両国の話者の認知スタンスの傾きを探ってみたい。

## 2 先行研究

認知スタンスに関しては、ラネカー (Langacker) のステージ・モデルはよく援用される。認知の客体と主体がはっきり分かれている (いわば最適観察構図) 場合、知覚者は観客として舞台の外で、舞台上の事態を見る。それに対して、認知主体が舞台上上がり、袖のところに留まり、直接の注目対象にならない場合 (オフステージ)、と舞台の中心に位置して焦点になる場合 (オンステージ) がある。

なお、事態把握の仕方を<主客合一>的な事態把握と<主客対立>的な事態把握に分けた上に、池上 (2013) では、<主客合一>的な事態把握の言語的指標として、<知覚者のゼロ化>と<知覚行為 (動詞) のゼロ化>が指摘されている。

## 3 知覚動詞「see」の対訳における中日の差異

本研究では「第三言語規準法」という方法を採用し、次のステップに従って調査をした。  
 ①利用できるコーパスが欠けているので、五冊分の『老人と海』を EXCEL に入力する。  
 ②英語原文から「see」を含むすべての例文を探し出して、視覚動詞「see」と対応する中国語訳と日本語訳及び視覚者の有無情報を一覧表にまとめる。  
 ③視覚者もしくは視覚動詞のいずれか、または両者とも明示されていない例文に目を向けて分析する。

### 3.1 語彙レベルから

両言語による訳文を比べると、日本語では対応する動詞が豊富で、複合動詞、慣用句及び慣用表現が愛用されているが、中国語のほうは僅か数個しかない。

	動詞	慣用句及び慣用表現
中国語	看、見、看见、观看、看清、看出	—
日本語	見る、目撃する、見つける、見える、見届ける、見分ける、眺める、見上げる、のぞき見る、拝む、見惚れる、視認する、見当たる、望む、認める、見逃す、見て取れる、見入る、見つめる、ながめわたす、受けとれる、思い当たる、わかる、出会う、知る、探る	眼に見える、瞳を凝らす、目に留まる、目に映る、お目にかかる、目が利く、目にはいる、目のあたりにする、目をとめる、気がつく、目で捉える、探りを入れる、一目でわかる

### 3.2 認知スタンスについて

<知覚者のゼロ化>と<知覚行為 (動詞) のゼロ化>を二つの指標として、中国語と日本語の実証的な分析を進めていく。視覚者または視覚動詞の有無により、主観性の度合いは変動し、次のような三つの段階に分けてみる。

一 視覚者と視覚動詞の両方が言語化される場合。即ち、最も客観的な把握。例えば、

1. (a) Just then, watching his lines, **he saw** one of the projecting green sticks dip sharply.

(b) そのとき、綱を見まもっていた**老人**は、あの緑色の棒のひとつが、ぐっと傾くの



を見てとった。(福田)

(c) まさにその瞬間に、釣綱を見つめていた**老人**は、突き出ている緑の小枝の一本が勢いよく沈み込むのを**目で捉えた**。(中山)

(d) 就在这时，**他**凝视着钓索，**看见**其中有一根挑出在水面上的绿色钓竿猛地往水中一沉。(呉)

(e) 正在这时候，**他**望着他的钓丝，**看见**有一只突出的青色木杆猛然往下坠。(張)

二 視覚者と視覚動詞のいずれかが言語化される場合。例えば、

2. (a) **He could not even see a bird.**

(b) 鳥の影さえ**見えない**。(福田)

(c) 鳥の姿は、ただの一羽すら**見当たらなかった**。(中山)

(d) **他**连一只鸟也**看不见**。(呉)

(e) **他**连一只鸟都**看不见**。(張)

三 視覚者と視覚動詞のどちらも言語化されていない場合<sup>29</sup>。例えば、

3. (a) Now **the old man** looked up and **saw** that the bird was circling again.

(b) ひょいと空を見あげると、グンカンドリがまた輪を描いていた。(中山)

4. (a) The clouds were building up now for the trade wind and he looked ahead and **saw** a flight of wild ducks etching themselves against the sky over the water, then blurring, then etching again

(b) ふと、頭上を見ると野鴨の一群が、空にくっきりその形を刻みこんだような影を見せて水の上を渡っていく。一瞬影が薄くなる。が、つぎの瞬間にはふたたびくっきりした形をとる。(福田)

(c) 雲は貿易風に煽られていまや高く聳えたち、行く手に目を走らせると、カモの群れが海面の上空に自らの姿を鮮やかに描き、いったん霞んではまた姿をくっきり描きだしていた。(中山)

統計のデータから見れば、日本語話者と比べ、中国語話者が<客観的把握>をする傾向があり、英語話者に近い。

#### 4 おわりに

以上では視覚動詞「see」の対訳に基づき、知覚者と知覚動詞をめぐって検討し、中日の差異を探ってみたが、池上(2004)の指摘されている「人称代名詞」と「再帰代名詞」などの指標に関する対照研究も十分に議論する必要があると考えられる。

#### 5 参考文献 (略)

<sup>29</sup>この段階の中国語の例は一例もない

## 「依頼」会話に見られる談話展開のパターン —ウズベク人と日本人の接触場面の考察—

ウマロヴァ ムノジャット

筑波大学大学院博士前期課程

本研究は日本語とウズベク語における「依頼」談話構造の対照研究である。ウズベク人同士の「依頼」談話展開パターンを分析し、次にそれを日本人同士のデータと比較した。その後ウズベク人と日本人の接触場面の分析を行った。その結果、日本語とウズベク語の「依頼」会話の談話構造に相違が2点観察された：①ウズベク語と日本語で依頼の話段がどこから始まるかが異なる。ウズベク人にとって〈先行発話〉が〈依頼〉の開始であり、日本人にとって〈予告〉が〈依頼〉の開始となる。したがって、そこで誤解が起こり、お互いに悪い印象を与えることがわかった。②日本人の「依頼」会話において、依頼者は相手に負担をかけることから、へりくだって謙譲して依頼を遂行する文化である。それに対して、ウズベク人の「依頼」会話では、被依頼者も依頼者への配慮をする文化が背景にあることから、配慮の方法が異なっていることが明らかになった。

**1. 研究背景**：日本語とウズベク語は文の語順と文法的な構造、そして相手に配慮することなどが類似しており、ウズベク人日本語学習者にとって日本語は比較的習得しやすい言語だと言われている。しかし、文法的に正しい表現を用いても、実際のコミュニケーションを行う上で日本人との間に摩擦が生じている。これは言語や文化によっては依頼会話の展開が異なり、両言語において談話の構造が違うからではないかと考えられる。本研究では、このような摩擦について依頼の接触場面を例として考察を試みる。

**2. 先行研究**：今まで依頼表現について数多く研究がなされている<sup>30</sup>。多くは要求・依頼会話と命令・依頼会話の観察で、会話で使われるストラテジーや表現形式の調査が中心である。

<sup>30</sup>特集「依頼表現」『日本語学』(10) Vol-14、1995 明治書院

→ザトラウスキー(1993)は日本語の勧誘の談話を扱って、会話の構造を分析している。本稿ではザトラウスキーの「話段」という概念を参考にする。

→猪崎(2000)は日本人とフランス人の「依頼」会話にみられる『優先体系』の文化的相違を考察した。本稿では猪崎の分析の枠組みである「談話展開のメカニズム」を参考にし、日本人のデータも猪崎から参照する。

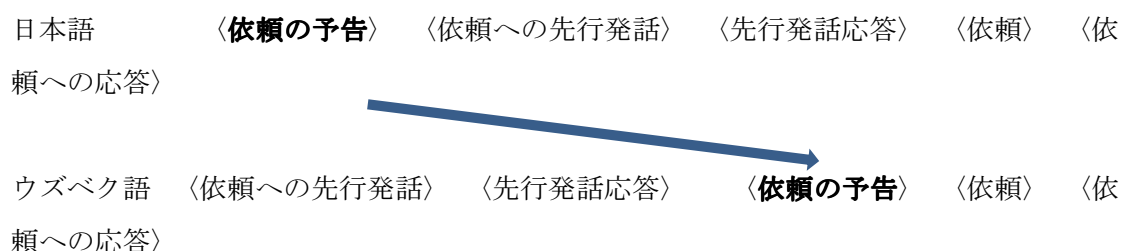
→浜田(1995)は依頼表現をブラウン&レビンソンのメンツの観点からとりあげ、中国人は相手のメンツより自分のメンツを尊重する傾向があると述べ、日本人が中国人に悪く言えば一方的という印象を抱くという点を観察した。

### 3. 資料と分析方法

- 研究の対象：「依頼」談話<sup>31</sup>を中心とする。  
さらに、依頼談話をザトラウスキー(1993: 72)にならい「話段」<sup>32</sup>に分割する。
- 依頼談話の話段分け：〈依頼の予告〉〈依頼への先行発話〉〈先行発話応答〉〈依頼〉〈依頼への応答〉
- 資料 同僚に車を借りる依頼→「車依頼」
- ロールプレイ実施：ウズベク人同士の会話(6組) / 接触場面の会話(8組) / 日本人同士の会話は猪崎(2000)より参照
- 対象者：日本語母語話者 5名、20-40代(会社員)  
ウズベク語母語話者 12名、20-30代(学生)
- 会話の録音→文字化→考察
- アンケート／フォローアップインタビュー

4. 「依頼」談話展開パターン：原則として「依頼」談話の話段は〈依頼の予告〉—「実はお願いしたいことがありますして」「ちょっと頼みたいことがある」などより、それ以降に続く発話で依頼がなされることを予め伝えておく(話段)パターン；〈先行発話〉—「依頼」に入る前に依頼に関する情報を伝えたり、依頼に必要な情報を尋ねたりする(話段)パターン；〈先行発話応答〉—これに応えるパターンで、依頼者の提供した情報を確認したり、さらに質問したりするパターンである。(定義は仁田(1991: 130)による)

#### 4-1. 日本語とウズベク語の「依頼」談話の展開パターン



<sup>31</sup>南不二男(1981)「会話」はいくつかの談話から構成されている。例えば、「挨拶」に始まり、「近況報告」の談話が続き、「依頼」の談話があって、「訪問終了の挨拶」で終わる。

<sup>32</sup>「話段」とは、一般に、談話内部の発話の集合体が内容上まとまりをもったもので、それぞれの参加者の目的によって相対的に他と区別されるものである。

- 日本語とウズベク語の発話順番が異なっている
- 日本語とウズベク語の〈先行発話〉と〈予告〉の機能が異なっている
- 日本語では〈予告〉によって依頼者が相手にこれから負担をかけることを明示的に示している依頼者は〈先行発話〉で依頼できるかを探る。
- ウズベク語では 依頼者は〈先行発話〉を置くことで、暗示的に依頼を初めている。〈先行発話〉を使う頻度も日本語より多い。〈予告〉は被依頼者が依頼を受けそうだったら形式上聞き手に配慮して置かれる。特徴として被依頼者は〈先行発話応答〉で「何か手伝えることありますか」と申し出る(8例の中5例)。

#### 4-2. 日本人とウズベク人の接触場面の考察

日本人とウズベク人に会話をしてもらった結果、談話展開の5つのパターンの中8例の2例に〈依頼の予告〉が出現していない。接触場面での会話の長さは日本人同士やウズベク人同士の場合の平均より2.5倍長くなっている。しかも、発話の3分2部は〈先行発話〉と〈先行発話応答〉に当たっている。これは依頼者は〈先行発話〉の中で何らかの依頼を初め、被依頼者の日本人に依頼を暗示させる努力をする。しかし、相手からは反応がないため、より事情説明を加えているからである。

#### 5. フォローアップインタビューの結果とまとめ

- 日本人にとって「依頼」は〈予告〉から始まる。
- ウズベク人にとって「依頼」は〈先行発話から始まる〉
- 日本人の依頼者は〈予告〉を用いて、相手に対し依頼の推測への配慮を行っている
- ウズベク人の依頼者は〈先行発話〉を通して依頼への心の準備をさせてから依頼する配慮をしている
- また、ウズベク語では依頼者の負担を軽減するために被依頼者からの申し出の配慮も使用される

#### 6. 今後の課題

- 一つの場面に限られたので、一般化はできない。今後、いくつかの依頼の種類と親疎関係も含めて考察
- 今回は依頼は配慮の観点から観察されたが、今後表現形式を含めてポライトネスの観点から考察

#### 参考文献

1. 猪崎保子(2003)『「依頼」会話に見られる『優先体系』の文化的相違と期待のずれ』『日本語学』14号 pp.79-88
2. 岩田尚子(2007)『Politeness —依頼表現・命令表現を中心に—』愛知淑徳大学学位卒論
3. 浜田重喜(1998)『コミュニケーションタスクにおける日本語学習者の定型表現・文末表現の習得過程 —中国語話者の『依頼』『断り』『謝罪』の場合—』『日本語教育』98号 pp.73-84
4. 森山卓郎(1995)『「丁寧な依頼」のストラテジーと運用能力』『日本語学』(10) Vol-14 pp.94-104
5. 山岡政紀、牧原 功、小野正樹(2010)『コミュニケーションと配慮表現』明治書院

## 日本語教育と文学教育の連携 —俳句を用いた授業の実践報告から—

鈴木祐己

東京外国語大学大学院博士前期課程

言語教育において目標言語で書かれた文学作品を鑑賞することは一般的に行われていることだが、言語教育と文学教育の融合ならびに自国の文化と対峙させる学習者の観察についての報告は管見の限りではさほど多くない。本研究では、言語学習に俳句を取り込むことで日本文学及び日本文化への理解を深めると同時に、学習者自身の文化を対峙、内省させることを目的とした授業を行った。その結果から言語技能の向上と文学教育とのバランスを取る上での困難点や可能性について述べ、日本語教育における日本文学教育のあり方を考察するものである。俳句は季語の使用が必須であるがゆえに、文化的な背景知識を要する文学であるが、日本語学習者がそれらの言葉から連想するイメージは必ずしも一様ではない。日本文化の中にある季語と自文化に照らし合わせた季語を学習者がどのように鑑賞し、日本文化と自文化をどのように対峙させたかという点について報告、考察する。

**1. はじめに:** 本報告は、2014年度春学期に東京外国語大学留学生日本語センターにおいて、700レベルの学生を対象とした総合クラスの授業のうち、筆者が行った文学の授業の実践報告である。

授業では、読む・書く・聞く・話すの四技能の習得が目標であり、テキストにより理解

した日本の言語、文化、社会、歴史など様々なトピックや内容をもとに学習者やクラスメートの国や地域比較させ、双方向の視点からディスカッションを行うという学習者主体の授業を目指している。

本報告ではこの一連の授業の中の、特に近代文学の授業における実践を通して、日本語教育と文学教育の連携の実践を報告するものである。日本語学習者に対する文学教育の実践報告や教材研究は数多くなされてきたが、本報告とそれらとの違いは、日本における事例をもとに、学習者が自己あるいは母文化を内省し、自身に引きつけて考えることで、素材をより深く理解する、というプロセスに重点をおいたことである。

## 2. 授業の概要

**2-1. 受講生:** 上級レベルのクラス (N1にチャンレンジするレベル) 7名 (国籍は、スペイン・ロシア・香港・ベトナム・ウズベキスタン・タイ)。

**2-2. テキスト**「日本を知る 30の方法—国際日本学入門」(試作版)

言語・文学・ポップカルチャー・経済・歴史・宗教などテーマは多岐にわたる。

**2-3. 筆者の役割:**ティーチングアシスタント (TA) として毎回参加しており、近代文学 (俳句) の部分を担当した。

**2-4. 授業の流れ:**授業は、予習を前提として行われる。場合によってはあらかじめ配布されたタスク・シートによる予習が求められる。タスク・シートには、主に語彙・文法的な確認問題と、内容理解の問題が書かれている。とくに内容理解の問題を解くことによって、受講者はテキストの要点を抑えることができる。

## 3. 実践報告

**3-1. 担当した部分と授業方法について:** 筆者が担当した部分は、「俳句と現代日本」というテーマである。内容は、伝統的な日本文化を反映した季語が鍵となる俳句という文学の面白さがいかに留学生に共有されるか、ということに主眼がおかれ、いくつかの文化に共通する物の見方が存在することに気づかせる構成になっている。

筆者は授業前にあらかじめ語彙と文法確認、内容理解の問いが書かれたタスク・シートを配布し、予習してくるよう指示をした。授業では、俳句と季語について、基本的な知識を共有したあと、テキストを精読し、適宜内容についてディスカッションを行った。導入部においては、今まで体験した日本の気候から、四季というものについて学生たちに考えさせ、伝統的な四季区分と現代的な四季区分について説明し、季語というものの概念を説明した。その後、テキストを段落に分け学生一人ずつに音読してもらい、要点やキーワードを押さえる質問をし、わからないところがあれば解説をするという方式で精読を行った。ディスカッションにおいては、とくに季語が持つイメージがいかに共有されるかという点を中心に議論を進めた。これは、俳句という文学が、季語を用いることによって、

伝統的な日本文化を色濃く反映しているため、季語の持つイメージを適切に理解することは俳句を理解すること同義であると言っても過言ではないからである。

**3-2. テキスト理解の過程:** 学生たちのテキスト理解の過程には、大きく分けて三つの段階が存在した。①文字通りの意味を理解する段階、②季語を反映させて句全体の理解する段階、③自分の母文化を内省し、自身に引きつけて、より深くテキストを理解する段階、の三つである。口頭発表では、それぞれテキストのどの箇所でのどのような理解が見られたのか、またディスカッションにおいてどのような理解が見られたのかということについて報告する。

**4. おわりに ー日本語教育と文学教育の連携とはー:** 本実践報告では、日本語の授業における日本文学テキスト読解の過程において、学生たちがどのような理解をし、どのような反応を見せたのか、ということについて報告した。

日本語学習者を対象とした文学の授業において、「どこまで文学解釈を行えば良いのか」という“素朴な”疑問が沸き起こるのは、文学は「日本語」の授業において素材として用いているのにすぎない、という認識が根強くあるからである。むしろ素材であることに異論はないが、本実践からも明らかであるように、文学素材とは、とくにその文学が生まれた文化を色濃く反映するという特性があり、目標言語が使われている文化を深く理解するためのツールとして何よりも適切な素材である。ゆえに、先の問題に答えるならば、「考える限り適切に、深く、正しい解釈を伝えるべき」である。報告した授業においては、あくまでも四技能の習得を目標としたクラスにおいて、日本文学の正確な読解を求めたことにより、学生たちは混乱することなく俳句についての知識を得ることができた。さらに、学生自身の経験や母文化に引きつけて考えたことによって、異文化であった季語という世界の切り取り方を、より深く理解することができた。これは本授業の主たる目的であったが、おおむね達成されたと考えて良いであろう。

一方で、筆者は日本語教育と文学教育との「連携」を掲げているが、何をもってして「連携」と言えるのか、ということについては、本実践では答えを見出すことができなかった。これは本実践では日本語の授業において文学素材を扱う、という一方向からの視点になってしまったからであると考えられる。今後は、いかに両者が「連携」すべきか、両者の相互作用とはいかにあるべきか、という点について考えていきたい。

また、文学教育とはすなわち文化教育でもある。さまざまな地域から来日する留学生たちが学び合うためには、教師には当然、学生たちの母文化についてある程度の知識が求められる。本実践についていえば、とくに気候について、四季という区分ではない地域からの留学生への配慮が足りなかったように思う。今後は教材そのものの研究のみならず、学生たち一人一人に真摯に配慮した授業を展開したいと考える。

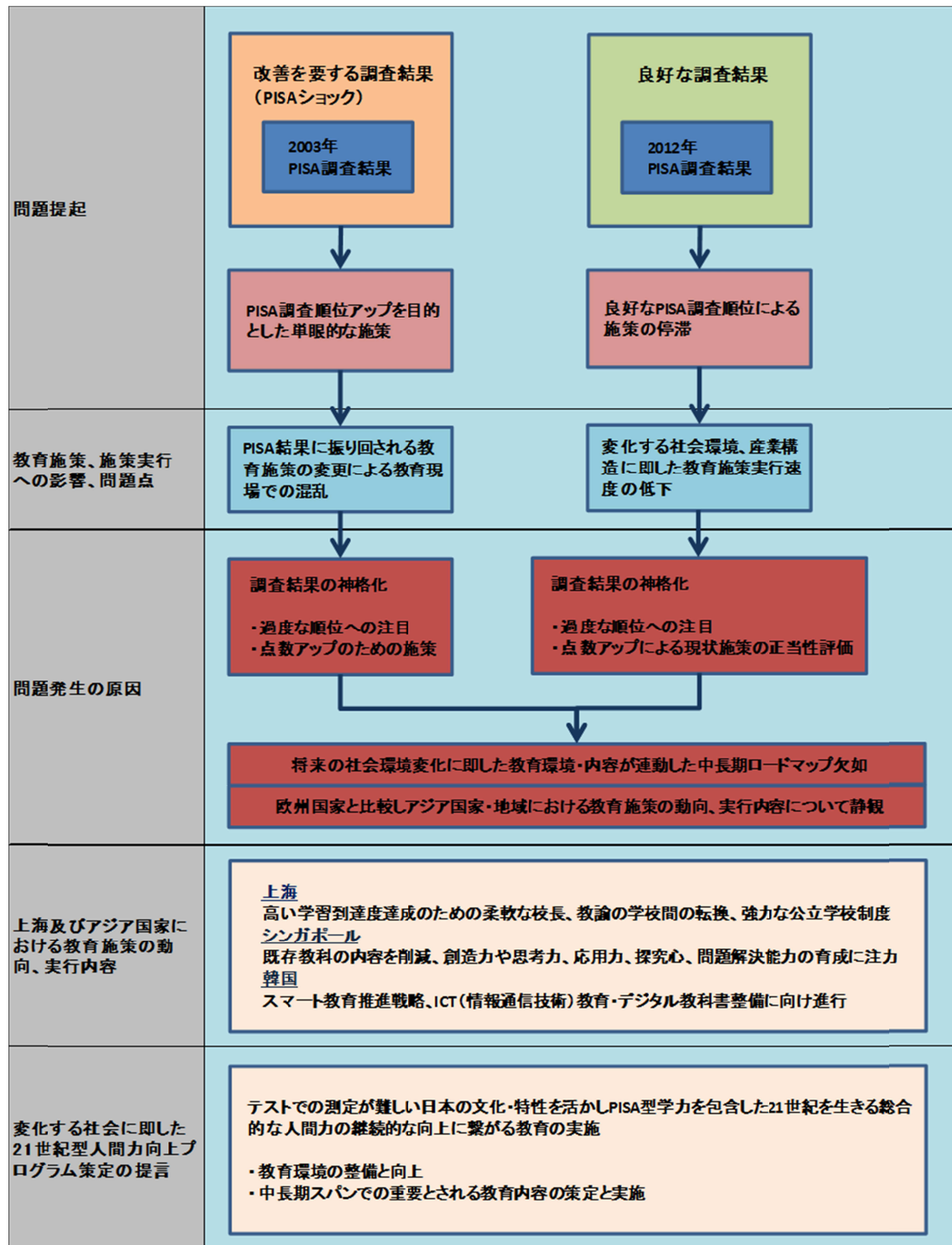
## PISAから日本の基礎教育を考え直す —上海市の教育システムと比較して—

村上昂音

東京外国語大学大学院博士前期課程

OECD生徒の学習到達度調査 (Programme for International Student Assessment, PISA) 2003年調査で日本の順位が急落した「PISAショック」をきっかけに、マスコミや政治家、評論家の多くは「日本の子どもの学力が低下した」という見方が次第に強くなり、「学力重視」の政策が勢いを増した。2012年の結果では日本の平均得点が「読解力」「数学的リテラシー」「科学的リテラシー」の全3分野で2000年の調査開始以降で最も高く、順位も前回を上回った。一方、教育評論家、研究者の間では「ゆとり教育」の根拠とされる「新しい学力」、「生きる力」などの育成及び問題解決能力、体験学習などの重要性を主張する声も根強い。こうした状況の中で学校現場の混乱を招いてしまう恐れがあるので、このような矛盾や混乱を解決するために、PISAの結果は日本の基礎教育に何を意味するのか、また様々な批判もある中で急速に1位となった上海市の取り込みも視野に入れ、日本の基礎教育を考え直したい。





参考文献：日本語文献

- ・伊藤敏夫（2013）「日本の学力が完全復活するまで（PISA2012）」
- ・王智新（2011年）「上海事例」から見た中国の基礎教育の変遷とその問題点」
- ・関百華（2013）「日本における「PISA型学力」の位置づけ  
—「生きる力」との関連を中心に—」

- ・ 荻谷剛彦・志水宏吉 (2004) 『学力の社会学』 岩波書店
- ・ 中田尚美 (2011) 「PISA リテラシーの日本における受容に関する一考察」
- ・ 山内乾史・原清治 (2010) 『日本の学力問題』 日本図書センター  
上巻「学力論の変遷」、下巻「学力研究の最前線」
- ・ 国民教育文化研究所 (2009) 「日本の教育に対する PISA 型読解力の影響と今後～PISA2009 の分析より」
- ・ 文部科学省「PISA 調査(読解力)の結果を踏まえた指導の改善」

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/gakuryoku/siryu/05122201/004.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/siryu/05122201/004.htm)

2014 年 5 月 12 日アクセス

#### 中国語文献：

- ・ 文汇报 (2013.12.04) 第 1, 7 版「上海教育再问鼎, 制胜点何在」

[http://whb.news365.com.cn/whshx/201312/t20131204\\_1732893.html](http://whb.news365.com.cn/whshx/201312/t20131204_1732893.html)

2014 年 5 月 12 日アクセス

- ・ 光明日报 (2014 年 02 月 07 日 06 版) 「PISA, 换个视角看基础教育」

[http://epaper.gmw.cn/gmrb/html/2014-02/07/nw.D110000gmrb\\_20140207\\_5-06.htm](http://epaper.gmw.cn/gmrb/html/2014-02/07/nw.D110000gmrb_20140207_5-06.htm)

2014 年 6 月 26 日アクセス

- ・ 新闻晨报 (2013 年 12 月 4 日) 「PISA 后上海将推自己评价体系—“绿色指标”」

[http://newspaper.jfdaily.com/xwcb/html/2013-12/04/content\\_1122760.htm](http://newspaper.jfdaily.com/xwcb/html/2013-12/04/content_1122760.htm)

2014 年 6 月 26 日アクセス

#### 英語文献：

- ・ OECD educationtoday (December 10, 2013)

「Are the Chinese cheating in PISA or are we cheating ourselves ?」

- ・ OECD (2010) 「Strong performers and successful reformers in education」

「Shanghai and HongKong: Two Distinct Examples of Education Reform in China」

- ・ Xiaohu Zhu (2009) 「Findings from shanghai PISA 2009 and the Related Factors」

The Japan Society of educational sociology

- ・ Tom Loveless (October 9, 2013) 「PISA' s China Problem」

## 学校教育における子どもの自立を育てることの意義に関する研究 —小幡肇学級の卒業生へのインタビューを通して—

劉妍

東京外国語大学大学院博士後期課程

自立を育てる教育実践が短い時間では検証できないため、成人になった子どもたちにインタビューすることを通して、当時、受けてきた自立を育てる実践の当事者の子どもたちの中に、自立がどんな形として残っているのか、また、どんな力に発展していったのかを検討していきたい。今までの先行研究は子どもの主体性や教師の役割という観点から教育実践を評価してきたが、ほぼそのすべてが実際の授業について授業観察やインタビューを行いながらその意味を抽出しようとする試みであった。本研究で、研究方法としては、小学校当時の教育実践を受けた当事者の卒業生に、当時の実践を振り返る半構造化インタビューを行う。当事者が昔学んだものを今の生活の中で、どう位置づいている

のかということを語ることは、本人にとっても、当時の教師や、実践記録にインパクトを受けたほかの人たちにとっても意義のあることであると考えている。

### 【問題意識と目的】

中国人である筆者は日本の学校教育における子どもの自立を育てることの意義に関する研究をしようとする理由や研究の立ち位置について述べよう。中国人である筆者は、中国の教育における自立という問題も視野の中におきながら、日本の学校教育における子どもの自立を育てることに関する研究を通して、自分自身を成長させることは言うまでもなく、日本の文化や教育事情についてより深く学ぶと同時に、母国である中国の文化や社会、教育に対する理解を深めていくことになると思う。

自立の過程は、人の一生を通して行われる。先行研究から、人間の自立の過程をまとめてみると、エリクソン（1984）や久世敏雄（1985）等に従えば、自立は一般的に①身体的自立から②行動的自立③精神的・文化的自立④経済的・社会的自立に至るものであることが分かる。久世（1985）、梶田叡一（1990）によると、自立を育てていくことは、人間教育の大きな目標の一つである。自立を身につけていくことは、生涯を通じて追究されるべき大課題である。学校教育だけで十分に達成できるわけではないが、その基盤づくりは、学校でのあらゆる活動を通じて追究していかねばならない課題であるという。

ところで、自立を育てる教育実践は短い時間では検証できない。村井淳志（1996）は「学習経験の意味づけは非常に長期にわたるプロセスで、学校を卒業した後も続き、年齢とともに深化していくのがふつうである。大人になってから、初めてかつて受けた授業の意味が分かる、ということもある」と指摘している。

教育目標が、実際にどの程度達成されているかどうかという問題や、十数年経って、子どもたちが一人前の社会人になり、学校教育で学んだことが将来生きていくにはどの程度役に立つのか。学習者である子どもたちにとって、社会に入る時点で、意味のある学習とは何なのか。当時受けた教育実践は自分にとってどんな意味を残しているのかなどが問われる。

これまで本研究の研究対象である小幡肇教諭の実践の意義を明らかにしようとする試みはいくつかなされてきた。先行研究は子どもの主体性や教師の役割という観点から小幡実践を評価してきたが、ほぼそのすべてが実際の授業について授業観察やインタビューを行いながらその意味を抽出しようとする試みであった。本研究で、小幡学級の卒業生へのインタビューを通して、卒業生にとって小幡実践の意味や、卒業生の証言に対する小幡教諭のとらえ方について分析しようとした。当事者が昔学んだものを今の生活の中で、どう位置づいているのかということ語ることは、本人にとっても、当時の教師や、実践記録にインパクトを受けたほかの人たちにとっても意義のあることであると考える。

そこで、本研究では以下の2点について明らかにすることを目的とした。一つは、小幡学級の卒業生へのインタビューを通し、大人になった当時の子どもたちの中に残っている小幡教諭の教育実践の意味を明らかにすることである。もう一つは、当時受けてきた自立を育てる実践の当事者の中に、自立がどんな形として残っているのか、またどんな力に発展していたのかを検討することで、学校教育における子どもの自立を育てることの意義を明らかにすることである。

#### 【研究対象と方法】

研究対象は、1990年から2011年まで、奈良女子大学附属小学校に勤めていた小幡肇教諭及び小幡教諭の送り出した卒業生Uさん、Hさん、Tさん、Mさん（1995年奈良女子大学附属小学校入学）4人である。研究方法は、半構造化インタビューである。

#### 【自立の定義について】

教育学における先行研究では自立についてはさまざまな定義があるが、本研究において、自立を「他者とのかわりの中で、主体性を発揮し、学び続けること」とした。小幡教諭は目標として自立という言葉を明確に述べているわけではないが、インタビューによって、小幡教諭の考えている「自分で考えて、行動する、自分で自分をコントロールする」という自立の中身は、筆者の考えている自立の概念の核心的な部分であり、筆者の考えている自立の概念に含み込んでいると言える。

#### 【卒業生及び小幡教諭へのインタビューを通して見えるもの】

インタビューの中で、大人になった子どもたちは当時の教育実践の授業構成や指導法を思い出したり、語ってくれた。主体性の中身として、問いを見つけ、考え、行動するという具体的な内容も出てきている。そこで、先行研究の成果を確認することができた。

そして、小幡教諭の教育実践を実際に見て分析するだけで触れられなかった新たなことが明らかになった。具体的に言うと、卒業生たちの証言から、小幡教諭の自分なりの「問い」を見つけて、それについての自分の「考え」を持ち、それを主張しようとする力を育てたいと考えていることが十数年経っても、当事者に影響を与えている。しかし、

当事者の卒業生の発言の中で、友達の話聞き合う活動や小幡教諭が大事に考えていた「子ども同士で、子どもは育つ」「子どもが育ち合う」というような子ども同士に関する内容があまり見られなかった。

小幡教諭のインタビューから昔の自分と今の自分についての話が出てきた。同じようなことが、当事者のMさんの証言の中にも出てきた。当事者の証言から以下のようなことが分かる。

昔の先生が仲間のように、自分と一緒に問題を考え、探求していたという。子どもたちは、小幡教諭と一緒に問題を考え、学んでいたことを楽しいということを実感するのは子どもたちにとっての小幡実践の意味だと言っていいだろう。筆者の「他者とのかわりの中で、主体性を発揮し、学び続ける」という自立の定義で言うと、小幡教諭は子どもたちと一緒に悩みを分かち合い、喜びを味わい、学んでいたため、当時の「他者」の中に小幡教諭も入っていたということだろう。当時の小幡教諭は、教師としての自分自身の自立を図ると同時に、子どもたちの仲間として、子どもたちと一緒に悪戦苦闘することで、子どもたちの自立を励ましていたと考える。今の教師としての小幡教諭は、昔の自分と比べると、力量や経験のある熟練教師になったため、子どもが問題を探求するという場から離れているが、子どもが子ども同士のかかわりの中で、自分の力を発揮できる場を提供することで子どもたちの自立を育てている。

小幡教諭は子どもたちと一緒に学び、探求した昔の自分から、今の力量のある熟練教師になった。時代が変わっても、教師としての立ち位置が変わっても、小幡教諭は自分なりに子どもの自立を応援したり、育てたりしていた。それは教師として子どもの自立に対する心よりの強い願いがあるからだろうと考えられる。

#### 【今後の課題】

まず、本研究は、インタビューデータは第一次インタビューにとどまっている。「理論的飽和」に到達したことを説明するには不十分だと考える。次に、振り返るインタビューの限界があること。当事者にとって、当時の教育実践が今の自分に影響を与えているが、インタビューで想起できなかつたり、言葉にし、表現できないこともあるかもしれない。複数の研究技法を組み合わせ、研究の妥当性を高めていく必要があると考える。最後、本研究では明らかになったことは、国境を越えても同じようなことが言えるのではないと考えている。今後の研究で、日本だけではなく、中国の文化や社会で目指される自立の内容を明らかにし、その自立を教育目標とした実践をどう展開させていこうとしているのかを日本と比較研究したいと考える。

#### 【引用参考文献】

○梶田叡一(1999)「自立を『援助』する教育のために」/瀬戸真「教育における自覚と自立について」/牧田章「自立への教育『私の手帳』からの実践」教育フォーラム 特集＝真の自立を目指す教育 人間教育研究協議会編 ○久世敏雄・久世妙子・長田雅喜(1980)『自立心を育てる』有斐閣 ○村井淳志(1996)『学力から意味へ 安井・本田・久津見・鈴木各教室の元生徒の聞き取りから』草土文化 ○E・H・エリクソン 仁科弥生訳(1984)『幼児期と社会 2』みすず書房

## 日本で看護職をめざす外国人看護師向けの、 学校〔留学〕方式の可能性

辻好文

東京外国語大学大学院博士後期課程

二国間経済連携協定（以下 EPA と略す）によって、2008年にインドネシアから、翌2009年にはフィリピンから、外国人看護師たちの日本受け入れが始まった。ただし、日本で正規看護職に就くには、日本の看護師国家試験を日本語で受験して合格しなければならない。

しかし、2009年から2014年まで計6回の国家試験で EPA 受験者の結果は、インドネシアが合格87/延べ受験者1143（平均合格率7.6%）、フィリピンが41/618（同6.6%）、両国合計128名合格、延べ受験者1761名で、両国平均合格率7.3%にすぎない。

巨額の国費と、医療機関の多額負担という費用対効果の観点から非効率であるばかりか、外国人看護師たち自身にとって希望を抱きにくい厳しい現実だといえよう。

この結果を踏まえて、政府主導による EPA とは異なるルートによって、合格率を、より高め得る「教育方法」を一つの可能性として提言する研究を試みる。

### <博士論文のための研究着想>

外国で看護教育を受けた者が個人として、厚生労働省による看護師国家試験受験資格認定を介して日本の国家試験を受験・合格して看護師資格を取得できるルートが以前からわが国にあって、日本人・外国人を問わず、このルートを経て日本の看護師資格を取得する者が一定数存在していた。一方、二国間

経済連携協定（Economic Partnership Agreement、以下 EPA と略す）によって 2008 年に始まったインドネシアからの、翌 2009 年に始まったフィリピンからの看護師を日本へ受け入れるルートは、将来日本で働く看護師「候補」として、多人数の外国人看護師を同時に迎える初めてのケースであった（さらに、これら 2 ヶ国に加えて、先月、2014 年 6 月にベトナムからの受け入れ第 1 陣が来日した）。

しかし、この EPA による外国人看護師受け入れの結果は以下のとおりで、きわめて厳しい現実となっている。

<b>EPA 看護師国家試験結果</b>	インドネシア	フィリピン	両国合計（合格率）
第 98 回（2009 年）	0/82 (0%)	--	0/82 (0%)
第 99 回（2010 年）	2/195 (1.0%)	1/59 (1.7%)	3/254 (1.2%)
第 100 回（2011 年）	15/285 (5.3%)	1/113 (0.9%)	16/398 (4.0%)
第 101 回（2012 年）	34/257 (13.2%)	13/158 (8.2%)	47/415 (11.3%)
第 102 回（2013 年）	20/173 (11.6%)	10/138 (7.2%)	30/311 (9.6%)
第 103 回（2014 年）	16/151(10.6%)	16/150(10.7%)	32/301(10.6%)
第 98 回(2009)～第 103 回(2014) 累計	87/1143 (7.6%)	41/618 (6.6%)	128/1761 (7.3%)

なお、看護師国家試験は、第 1 回（1950 年）と第 2 回（1951 年）は年 1 回のみ実施され、第 3 回（1952 年）から第 78 回（1989 年）までは春期と秋期の年 2 回にわたって実施され、第 79 回（1990 年）以降は再び年 1 回のみ実施されている。通常、毎年 2 月に行われ、合格発表は 3 月下旬ごろである。

このように芳しくない結果が出ている最中、昨年（2013 年）5 月 21 日付『朝日新聞』第 1 面に掲載された「中国人看護師が急増、語学で優位、EPA の倍」という見出しによる記事が関係者に衝撃を与えた。そして、その紙面の第 2 面には、中国で看護教育を受けた看護師がどのように日本の看護師資格を取得しているかを具体的に紹介する記事が続いたのである。

#### **現行の EPA 枠組みによる看護師養成の流れ**

- 1) 来日前後の一定期間にわたる日本語研修（来日条件として具体的な日本語能力達成度は課せられていない。ただし、ベトナムからの受け入れに際しては N3 取得が来日の必須条件となった）。
- 2) EPA 枠組みに応募した各医療機関での研修（その内容は看護研修ではなく「看護助手勤務」であって、国家試験受験へ向けた具体的指導の有無も、その内容も医療機関によってまちまちである）。
- 3) 看護師国家試験受験（合格後の就職先は本人希望優先で、研修先医療機関でなくてもよいとされる）。

**\* 上記 2) 「各医療機関での研修」期間中は、勤務の具体的あり方も、国家試験受験準備の指導も、研修先医療機関に全面的にゆだねられている**（悪くいえば、完全な丸投げ状態である）。看護助手業務に対して個人に支払われる給料によって看護師候補者たちの生活を成立させるという側面があるのはやむを得ないが、国家試験受験へ向けた準備の質が保証されているとはいえない。候補者本人も医療機関側も、当初の目標であったはずの看護師国家試験合格を早々と断念して、日本滞在が合法的に許可される範囲で看護助手就労のみに目標を下げるケースも多々あると聞く。

出身国内では高学歴で誇り高い職業の看護師ながらも、日本国内での研修内容は専門職とはみなしにくい雑用業務であるために、来日した意義そのものを感じにくくなる外国人看護師も少なくない。看護業務全体の中では看護助手業務もだれかがしなければならぬ必要で大切な仕事であるが、そういう業務に多くの時間と労力を割くことによって看護師国家試験合格が近づいてくるわけではないのも事実である。

そこで、筆者は、「外国人看護師が日本で働くための準備教育のあり方：『学校』方式の妥当性と有効性」（英訳 Preparatory Education for Foreign Nurses Aiming at Working in Japan: Desirability and Effectiveness of the “Schooling in Japan” System）と題する博士論文として、準備教育のあり方に焦点を当てた研究を試みるつもりである。

### <学校 [留学] 方式の可能性>

EPA の研修先医療機関によって異なりがちな「教育」への温度差が、学校 [留学] 方式によって解消され、候補者たちにとっては、看護師国家試験に合格して日本国内で看護師として働くという「目標」が明確化され得る。なお、EPA 枠組み外による学校方式では、外国人看護師たちが日本へ入国する際の査証 [ビザ] は「留学ビザ」となる。

これによって、「日本語教育」と「看護教育」を適切にドッキングさせ、単なる「日本語習得」だけでも、「国家試験の傾向と対策」だけでなく、日本国内で働く看護師として求められる「文化的・社会的な適応」も含めた「総合的な準備教育」を、外国人看護師候補者たちへ向けて一定の同質性を伴って提供しやすくなるであろう。

日本での看護職をめざす外国人看護師たちのスタートラインともいえるべき資格取得（＝看護師国家試験合格）を手助けするのが準備教育の最たる目的であるのはもちろんだが、最終結果的には国家試験合格を果たせない外国人看護師にさえも帰国後に有意義な留学となり得るような「教育」であるのが望ましい。そのための場として、看護系の学部または学科を擁する「4 年制大学」で、日本での看護職をめざす「外国人看護師に特化したコース」を提供するのが最も適切であろう。

### <参考文献>

安里和晃（2010）「少子高齢化社会における移民政策と日本語教育」『言語政策を問う』（田尻英三大津由紀雄編）ひつじ書房。

奥田尚甲（2011）「看護師国家試験の語彙の様相--日本語能力試験出題基準語彙表との比較から--」広島大学国際協力研究科

『国際協力研究誌』第 17 巻第 2 号。

川口貞親、平野・裕子、小川玲子、大野俊（2010）「外国人看護師候補者の教育と研修の課題：フィリピン候補者を対象とした国家試験模擬試験調査を通して」ならびに「来日第 1 陣のインドネシア人看護師・介護福祉士候補者を受け入れた全国の病院・介護施設に対する追跡調査（第 1 報）（第 2 報）（第 3 報）」『九州大学アジア総合センター紀要』第 5 号。



## タイの国際病院における医療通訳者（日－タイ）の現状と研修の必要性

スイリクワン サグアンポン

タマサート大学大学院博士前期課程

本研究の目的はタイ国際病院における（日・タイ）医療通訳者の現状や問題点について検討し、適切な医療通訳者訓練方法を提案することである。まず、日本人患者の受診が多い病院関係者を中心に調査を行った。8名の医療通訳者、9名の医師そして1名の**通訳関連科目**を教える大学教員を対象にした半構造化面接による聞き取り調査、及び、10名の患者と6名の日本語を専攻とする大学生を対象にした質問紙調査を実施した。調査を分析した結果、医師が医療通訳者に望むことは「訳の正確さ」「いつでも必要なときにすぐ来てくれること」「医療知識を持っていること」などであることが分かった。また、患者が医療通訳者に求めるものは「正しく丁寧な日本語」「細かい気配りがあること」であった。医療通訳者の仕事上の問題点としては「精神的な疲れ」「医療従事者との人間関係」などが挙げられた。医療通訳者の現状については「医療通訳者の養成不足」と「医療に関する仕事は難しいというイメージがあり、**求人への応募が少ないこと**」という問題点があることが分かった。現在の課題はタイにはまだ通訳資格制度や医療通訳の専門的なテキストや本格的な研修がなく、医療通訳者は現場実習を受けるだけであることである。タイに住む日本人が安心して暮らし、国際水準の医療を受けられるように、実際の医療通訳現場に適合した医療通訳の養成プログラムを開発・実施することは急務と考える。

### 研究動機・背景

近年、タイでは、外国人観光客や在住外国人が増加し、医療ツーリズムも注目を集めている。医療従事者と外国人患者のコミュニケーションの橋渡しをするのが医療通訳者の役割である。医療通訳者がいることによって、患者の医療従事者に対する信頼感と医療への安心感が増す。その結果、患者はより適切な医療を受けられるようになる。

タイ全国にある私立病院の中で、日本語医療通訳サービスがある病院は計21ヶ所である。バンコクでは10ヶ所あり、その内、特に日本人がよく利用する病院は三つある。その中の一

つの病院で、調査者は2年ほど医療通訳をした経験がある。現場では多くの問題点があると感じた。例えば、患者の数がだんだん多くなってきているのに対して、医療通訳者が足りなくなっているということである。また、新しく入ってきた通訳者がきちんと訓練を受けていないという問題点もある。そこで、現場での改善すべき点を明確にし、改善策を考えるために、聞き取り調査を実施することにした。調査を実施した病院は日本人が多く住んでいる地域にあり、日本人の外来患者は1日300-350人程度である。外来棟1階に日本人相談窓口が設置され、約20人の日本語通訳が診察時の通訳や様々な手続きの案内を24時間・年中無休で行っている。

## 研究の目的

本研究の目的はタイの私立病院における（日-タイ）医療通訳者サービスの現状、問題点及び将来性について調査し、その調査の結果を踏まえて、様々な文献、資料にあたり、医療通訳者の研修における適切な訓練方法はどのようなものか、提案することである。

## 先行研究

3つの先行研究を検討した。

1. 医療通訳の仕事について 2. 医療通訳の研修や教育 3. 通訳者の資格

## 調査方法の概要

### 1. インタビュー調査

今回、医療通訳者9名（医療通訳者のマネージャー1名を含む）、医師9名、通訳関連科目を教える大学教員1名の、計19名にインタビュー調査を行った。インタビューの時間は、一人あたり20分から30分程度である。

医療通訳者への質問は①医療通訳者の採用資格と活動内容 ②勤務体制 ③仕事をする際に出てくる問題 ④職場で受けた訓練 などについてである。医師への質問は ①医療通訳者の受け入れ経験 ②医療通訳者（が訳したこと）を信用するかどうか ③医療通訳者に望むこと などについてである。大学教員への質問は ①医療通訳の研修プログラム ②タイにおける通訳者の資格 などについてである。

調査者は面接協力者の了解を得て、話の内容をメモすると同時に、インタビューの会話を録音した。収集したデータは文字化し、分析資料とした。

### 2. 質問紙調査

次に、日本人患者10名と日本語を専攻とする大学生6名に簡単なアンケート調査を行った。患者への質問は①医療通訳に求めるもの（資質、能力など）②医療現場におけるコミュニケーションで医療通訳者を通すことに対する不満や問題③医療通訳者の能力についてどう思うかなどで、大学生への質問は ①医療通訳者という仕事を知っているか②医療通訳に興味があるか などである。

調査期間は2013年6月から2013年9月までの約4ヶ月間であった。

## 結果と考察

### 1. 医療通訳者の現状と問題点

まず、医療通訳者へのインタビューの結果をまとめる。医療通訳者の主な業務内容は診察室へ患者に同行し、医師や看護師の指示や話を通訳することと、患者の疑問を医療従事者に通訳することである。また、相談窓口での患者からの電話への対応や、診察の予約を受けるといった業務もある。医療通訳者になるために必要な能力として、語学力、通訳技術、医療知識、コミュニケーションスキル、サービス精神、ストレスに強いこと、血が怖くないことが挙げられた。仕事上の問題は医療従事者との人間関係、勤務時間（夜遅くまでの残業、夜勤、土日休日 出勤）、通訳の難しさ（誤訳、100%訳せない、年配の患者の言っていることが分からない、早口で話す医者や患者の説明についていけない。）などが挙げられた。次に医師へのインタビューの結果をまとめる。医師にとっては医療通訳者は大切な存在であり、特に複雑なケースでは言葉が分からなければ適切な治療はできないという回答があった。調査に協力したある医師は、長く働いている医療通訳者（が訳したこと）は信用するが、新人通訳者でスムーズに通訳できない場合、不安であると答えた。医療通訳者が誤訳をした場合、病院の責任になるので病院の信頼性に影響を与える。医師は医療通訳者の通訳に問題があるどうかは患者の反応や顔から分かるので、問題があれば、経験の長い医療通訳者に交替させると述べた。医師が医療通

訳者に特に望むことは通訳の正確さである。また、ある程度の医療用語の知識を持っていることや、いつでも必要なときにすぐ来るということも重要である。最後に、患者へのアンケート結果について述べる。患者へのアンケート調査によると、医療通訳者の能力は人によって異なり、能力が高く良い人もいれば、マナーが悪く日本語が下手な人もいる。患者が医療通訳者に求めるものは日本語能力、医学用語や一定レベルの医学の知識である。また、病気や怪我のときは不安になり、かつ海外の場合、より心細い気持ちや不安が大きくなるので、細かい気配りがあるとよりよいと考えている。それに私立病院はサービス業なので通訳はマナーがよく笑顔で明るく、丁寧に患者に対応することが求められる。患者が挙げた不満や問題点は医療通訳者が足りず、長い時間待たされる場合があることである。

## 2. 将来の医療通訳者へのニーズ

医療通訳者へのニーズは今後、増加すると考えられる。タイは東南アジアのほぼ中心に位置し、今後、流通の中心地になっていくことが見込まれ、自動車部品メーカーなど多くの日本企業がタイに進出している。また、日本からロングステイを目的に来る定年を迎えた日本人も多くなり、現在、訪タイする日本人が急増している。したがって、医療機関では、日本人患者に対する通訳サービスが必要となっている。タイの大手私立病院はタイ在住の日本人だけでなく、近隣諸国に在住している日本人にとっても、医療の拠りどころとなっている。近年では、ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマーなどへの日本企業の進出や日本人観光客の増加に伴って、タイの私立病院を受診する日本人が増えているが、医療通訳者の不足により増加する通訳ニーズに対応できない事態も発生している。

今後、ニーズにこたえるため、医療機関は効率よく、能力の高い医療通訳者を養成する必要があると考える。

## 3. 医療通訳の訓練方法

ある病院の医療通訳者に通訳技術を教えたことのある大学教員によると、タイでは、現在のところ、本格的な医療通訳の研修プログラムはなく、通訳資格制度もない。そのため、大学教員が受け持った講座では、基本的な通訳技術を教えるだけであった。

調査を行った病院での訓練はほとんど OJT (On the job training) である。医療通訳者は医学用語集を渡され、自分自身で用語を覚え、すでに働いている医療通訳者が現場で通訳している姿を見ただけで研修が終わり、すぐに現場に派遣される。そのため、難易度が高いケースにあたった場合、語学力があっても訳せない。医師や患者に叱責されて自信をなくし、仕事をやめてしまう者も多い。原因は主に医療知識不足によるストレスや精神的な疲れである。そこで、調査者は海外の医療通訳者の養成や訓練プログラムについて調べ、次のような医療通訳の研修プログラムを提案した。

医療通訳の研修プログラム (研修は医療通訳者の試用期間中に行う。)

試用期間 (3ヶ月)	研修の内容
1ヶ月目	医学用語、医療知識、病院のサービスの品質とホスピタリティ
2ヶ月目	通訳技術 (主に Role-play)、医療通訳倫理
3ヶ月目	On the job training、試験

## 参考文献

Flores, G. et al. (2003). Error in Medical Interpretation and Their Potential Clinical Consequences in Pediatric Encounters. *Pediatrics*, 111(1), 6-14.

外務省 (2013) 「[在外公館医務官情報](http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/asia/thailand.html)、タイ、病気になった場合 (医療機関) 『外務省』  
<<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/asia/thailand.html>> (2013年6月)

多文化共生センターきょうと (2012) 『医療通訳の実学、実技、実践：通訳者のためのトレーニングガイド』 京都。

## 台湾における日本研究—国科会全資料をもとに—

王素蘭

台湾開南大学

本稿の目的は日本学術振興会に相当する台湾国科会の1991年から2013年までの22年間にわたる学術研究論文・研究計画助成総数622件と台湾全国の総合大学25校317人と技術大学17校184人を合わせた42校の日本語学科専任教員総数501人に基づいて、教員の量と質を分析することによって、狭義的には日本語教育を含めた日本語学・日本文学・日本文化、広義的には日本研究に寄与するところにある。

結論として①日本語学分野では総数356件のうち総合大学の東呉大学は75件、技術大学の台中科技大学は26件、日本文学分野では総数175件のうち総合大学の台湾大学は50件、技術大学の南台科技大学は14件、日本文化分野では総数91件のうち総合大学の輔仁大学は14件、技術大学の文藻外語大学は8件の首位をそれぞれ占めている、②日本語学・日本文学・日本文化の分野別研究助成比率は約3:2:1となっている、③日本語学科の日本人専任教員人数の比率は総合大学では87人の27.9%、技術大学では42人の22.8%と高いわりに、日本文化研究指向が見られるなどの三点が挙げられる。

台湾国科会（2014以降科技部と改名される）は台湾の学術振興の中核を担う日本学術振興会に相当する機関として1999年まではもっぱら研究論文、2000年からは主に研究計画助成金事業などの学術研究への助成や特約研究員採用、若手研究者養成、国際シンポジウム主催を実施している。特に毎年一回の研究計画申請の可否はもはや台湾研究者の学術レベルを左右する一大事と言っても過言ではない。

本稿の目的は台湾国科会の1991年から2013年までの22年間にわたる学術研究論文・

研究計画助成総数 622 件と台湾全国の総合大学 317 人と技術大学 184 人を合わせた日本語学科専任教員総数 501 人に基づいて、教員の量と質を分析することによって、狭義的には日本語教育を含めた日本語学・日本文学・日本文化、広義的には日本研究に寄与するところにある。

1963 年に中国文化大学に初の日本語学科が設けられたものの、1987 年に言論統制、反日思想を背景とした戒厳令解除をきっかけに、現在では総合大学「日本語文学系」の 25 校と、主に昔の五年制高等専門学校から昇格した技術大学「応用日語系」の 17 校を合わせた 42 校には、学科名こそ違え、実質的に日本語学科が設置されるに至った。特筆すべきは当時研究者として来日した政治大学趙順文教授の協力のもとで東京外国語大学中嶋嶺雄学長と政治大学鄭丁旺学長が 1996 年 10 月 29 日に日本初の国立大学と台湾の大学との姉妹校締結の突破口を開いたのを皮切りに、続々と前例にならっての姉妹校締結がなされるという点であろう。日本の国立大学と実質的な学術交流による台湾の日本研究への第一歩は中嶋学長をぬきにしては語れないといえる。

台湾の日本語学科運営は今でも主に日本語と日本文学の人材育成に重点を置いてなされているのが現状である。近年、日本語、日本文学ないし日本歴史・社会・経済・政治などを含めた広義的な日本文化を統括したいわゆる日本研究が盛んに唱えられているにもかかわらず、上述の台湾国科会の学術審査機関のもとで日本歴史は歴史学、日本社会は社会学、日本経済は経済学、日本政治は政治学というように、制度的にめいめいの専門領域として位置づけられているので、ヨーロッパ学、日本学、イスラム学を認められないのが難点に違いない。実は台湾大学にはほぼ 10 年前にも学長直属の日本総合研究センターがあったものの、学長任命の初任センタ一長の座には政治学専門の許介麟教授、後任には法律学専門の朱柏松教授が就いていたが、惜しくも数年後には事情があつて廃除された。とはいえ現在では日本研究のための「有識者会合」のもとで台湾大学文学部附属日本研究センターを始め、台湾のいくつかの大学に日本研究センターが設置されるようになった。こうして新たに設けた研究機構がどの専門領域に重点を置いて研究するのか、どのような研究成果をあげていくのかが今後台湾の学会で注目される。

日本語学分野では総数 356 件のうち総合大学の東呉大学は 75 件・技術大学の台中科技大学は 26 件を占めている。これは東呉大学が日本語学科設置早々、日本語教育人材育成に力を注いだおかげだといえよう。日本文学分野では総数 175 件のうち総合大学の台湾大学は 50 件、技術大学の南台科技大学は 14 件となっている。1984 年に設置された台湾大学日本語学科ではお茶大出身の趙姫玉教授・范淑文教授、東北大出身の陳明姿教授、京都大学出身の朱秋児教授のもとで優れた人材が結集し、文学研究志向のかがあつて、素晴らしい研究成果が開花した。日本文化分野では総数 91 件のうち総合大学の輔仁大学は 14 件、技術大学の文藻外語大学は 8 件の首位をそれぞれ占めている。とはいえ輔仁大学 14 件のうち半数以上を日本政治学の一人の教授が独占している。

研究助成総数 622 件のうち、分野別に日本語学は 356 件 (57.2%)、日本文学は 175 件 (28.1%)、日本文化は 91 件 (14.6%) をそれぞれ占めている。このデータから見れば、日本語学・日本文学・日本文化はほぼ 3 : 2 : 1 の傾向をたどっている。なお日本語学科の日本人専任教員人数の比率は総合大学では 87 人の 27.9%、技術大学では 42 人の 22.8% と高いわりに、日本文化研究指向が見られる点が挙げられる。極端的に言えば日本語学科に所属しながらも、主にギリシャ神話のホーマー詩を題とした研究計画を五件も採用された日本人教員もいる。これは研究成果が教育に繋がらない一例にすぎないが、日本文化の分野に入れるのにも躊躇している。

一方、次の表から分かるように、一人につき、教授>副教授>助理教授>講師というように、職位が高いほど、研究成果が上がるという結果が明らかに見られる。

	人数	研究数	1 人につき
教授	27	266	10
副教授	53	210 (20)	4
助理教授	69	142 (6)	2.1
講師	3	4	1.3

なお括弧内の 20 件と 6 件はそれぞれ技術大学の副教授と助理教授の助成を受けた件数を示している。

結論的に言えば、現段階では地域研究をあまり重視しない台湾国科会の学術審査制度では日本研究を開花させるのはどうしても無理と言わざるをえない。なかんずく中国一辺倒でかつ反日思想の今の官僚制度のもとで希望者多数にもかかわらず高校での日本語クラス助成金が半減されたり、大学入試センター試験の受験科目に日本語を導入する 5 ヶ年研究計画が四年目を迎えようしているところを馬政権成立直後たちまち中止を余儀なくされたり、本学主催の日本姉妹校 21 大学学長会議の祝辞を台湾教育部 (日本文科省に相当する) に依頼しても全く応答がなかったりするなど諸般の事情に鑑み、台湾の日本研究の開花は次の政権交代まで他力本願ではなく、自力で成し遂げるしかないというのが私の本音としか言いようがない。実際開南大学では日本研究を深めるべく、日本の集中講義制度を正式に導入し、各学科のニーズに合わせて、2013 年を例に、山口大学瀨瀨厚副学長は日本政治史、岡山大学江口泰郎教授、広島大学佐藤暢治教授・高永茂教授は日本語学と言語学、拓殖大学山田正通副学長は英語学、島根大学安藤安則副学長は物流学、埼玉大学伊藤博明副学長は日本美術史というように、一学年に日本姉妹校各分野の学者を約 6 名招聘し、講義を行うなど、日本研究に寄与している。

## 戦前日本における農業団体の米価調節論 ——1930年代の議論を中心として

黄楚群

東京外国語大学大学院博士後期

1910年代以降、米穀問題をめぐり、様々な議論、運動が行われていた。米穀問題は社会問題として顕在化し、地主や自小作農などの農村の諸階層だけではなく、資本家のほか、労働者などの一般大衆からも関心が寄せられた。本報告では、主に戦前二大農業団体の一つである系統農会の中心・帝国農会の議論に焦点を当て、帝国農会が米価調節についてどのように議論を展開していくのかを検討することによって、議論の背後にあった近代化過程における日本農業に対するビジョンを探ってみたい。時代は、1930年代を中心とする。

### 関心所在

近代化（工業化、資本主義化を中心とする）の中、農業（特に米穀問題）に対し政策側がどのような政策を行っていたかを念頭に置き、それらの政策に対して農業側（農業団体の関係者、学識経験者、農村議員など）がどのようなリアクション（議論面を中心に）を取っていたのか、政策にどのように関わっていたのか、それを通じて、近代化過程における日本農業に対するビジョンを明らかにしていきたい。

### 農業における米の位置 図1

### 時代区分&背景

→米穀統制法（1933年）～食糧管理法（1942年）

- 1) 間接統制から直接統制への過渡期
- 2) 米価調節議論がより洗練化した時期（主張に根拠付けの生産費調査が発展してきた）
- 3) 経済恐慌後、戦時統制へ強まっていく中、農業と政治、資本との矛盾がより明確に出てきた時期

→米価変動 図2、図3

## 主要先行研究

### 財政学の視点

大内力（1950）『日本農業の財政学』東京大学出版会

### 市場の近代化の視点

持田恵三（1954）「食糧政策の成立過程」『農業総合研究』8巻2号197-250頁

持田恵三（1970）『米穀市場の展開過程』農林総合研究所

大豆生田稔（1993）『近代日本の食糧政策』ミネルヴァ書房

玉真之介（2013）『近現代日本の米穀市場と食糧政策——食糧管理制度の歴史的 성격』筑波書房

### 政策形成の視点

川東埴弘（1990）『戦前日本の米価政策史研究』ミネルヴァ書房

→食糧政策形成及び実施された過程に、現実状況を見据えて、それに合わせて、農業側がそれに対して、どのように議論してきたか、米価調節主張の中に、どういう農業ビジョンを持って政策に働きかけてきたのか、を重点において再考察したい。

## 考察

帝国農会の建議答申案および帝国農会幹事の議論からこの時期における帝国農会の動向を考察することによって、米価調節議論を通じて、帝国農会が何を目指していたのかを明らかにしたい。

### 1、建議答申案について

資料1：通常総会の答申・建議案

⇒米穀政策に関する主張

価格保障、植民地米・外米の輸移入へのコントロール、生産制限、粳貯蓄、自治的販売

※生産費を償える価格

⇒食糧増産策を掲げていた一方、農村のインフラ整備、生産技術改良、耕地改良など農業発達に関わる具体案を建議していた

### 2、帝国農会幹事の議論

岡田<sup>ゆたか</sup>温 & 東浦庄治

資料2、3

## まとめ

岡田、東浦の議論から伺えるように、自由経済と小農経営の矛盾が問題視され、それを如何に払拭できるのかが議論のポイントであった。さらに、その矛盾が米価問題に集中されているという現実を見据えて、政治手段による米価調節を主張することに至った。これらの議論は帝国農会の建議・答申案にも反映された。ただし、両者があくまでも小農経営のまま、資本主義に対応しようとする立場に立ったことを留意してもらいたい。

帝国農会は、「生産費を償える米価」を主張し、小農経営の維持・改善を図ろうとしていたのである。戦争の情勢に従い、国家からの食糧増産の要請が強まりつつも、適正な農産物価格政策を要請し、「家族労作専業農家ノ育成保持」、「健全ニシテ調和アル農村ヲ建設振興スル」ことを主張し続けた。その根本的な目的は、「農業ノ維持培養」（産業としての農業の育成）にあった。

## 主要参考文献

石橋幸雄（1961）『帝国農会米生産費調査集成』農業総合研究所第207号

大内力（1950）『日本農業の財政学』東京大学出版会

大豆生田稔（1993）『近代日本の食糧政策』ミネルヴァ書房

岡田温（1929）『農業経営と農政』龍吟社



- 川東 輝弘 (1990) 『戦前日本の米価政策史研究』 ミネルヴァ書房
- 川東 輝弘 (2006a) 「帝国農会幹事岡田温 (7) 帝国農会幹事時代」 (松山大学論集 18 (1)、1 - 39 頁、2006,4)
- 川東 輝弘 (2006b) 「帝国農会幹事岡田温 (8) 帝国農会幹事時代」 (松山大学論集 18 (2)、19 - 81 頁、2006,6)
- 川東 輝弘 (2006c) 「帝国農会幹事岡田温 (9) 帝国農会幹事時代」 (松山大学論集 18 (5)、1 - 59 頁、2006,12)
- 川東 輝弘 (2007a) 「帝国農会幹事岡田温 (10) 帝国農会幹事時代」 (松山大学論集 18 (6)、17-77 頁、2007,2)
- 川東 輝弘 (2007b) 「帝国農会幹事岡田温 (11) 帝国農会幹事時代」 (松山大学論集 19 (2)、21-53 頁、2007,6)
- 川東 輝弘 (2007c) 「帝国農会幹事岡田温 (12) 帝国農会幹事時代」 (松山大学論集 19 (3)、23-62 頁、2007,8)
- 川東 輝弘 (2008a) 「帝国農会幹事岡田温 (13) 帝国農会幹事時代」 (松山大学論集 20 (4)、1-36 頁、2008,10)
- 川東 輝弘 (2008b) 「帝国農会幹事岡田温 (14) 帝国農会幹事時代」 (松山大学論集 20 (5)、1-52 頁、2008,12)
- 川東 輝弘 (2009a) 「帝国農会幹事岡田温 (15) 帝国農会幹事時代」 (松山大学論集 20 (6)、1-48 頁、2009,2)
- 川東 輝弘 (2009b) 「帝国農会幹事岡田温 (16) 帝国農会幹事時代」 (松山大学論集 21 (1)、1-41 頁、2009,4)
- 川東 輝弘 (2009c) 「帝国農会幹事岡田温 (17) 帝国農会幹事時代」 (松山大学論集 21 (2)、41-73 頁、2009, 8)
- 川東 輝弘 (2009d) 「帝国農会幹事岡田温 (18) 帝国農会幹事時代」 (松山大学論集 21 (3)、1-42 頁、2009,10)
- 川東 輝弘 (2010) 『農ひとすじ 岡田温——愛媛県農会時代』 愛媛新聞サービスセンター  
産業組合史編纂会 (1965) 『産業組合発達史 (第三卷)』 産業組合史刊行会
- 桜井 誠 (1989) 『米その政策と運動 (上、中)』 農産漁村文化協会
- 澤村 康 (1937) 『米価政策論』 南郊社
- 戦後日本の食料・農業・農村編集委員会 (2014) 『戦後日本の食料・農業・農村第 14 巻 農業団体史・農民運動史』 農林統計協会
- 玉真之介 (1984) 「東浦庄治の日本農業論」 (日本農業経済学会『農業経済研究』 56 巻 1 号、38 - 46 頁)
- 玉真之介 (1995) 『日本小農論の系譜—経済言論の適用を拒否した 5 人の先達』 農山漁村文化協会
- 玉真之介 (1996) 『主産地形成と農業団体』 農山漁村文化協会
- 玉真之介 (2013) 『近現代日本の米穀市場と食糧政策——食糧管理制度の歴史的な性格』 筑波書房
- 帝国農会史稿編纂会 (1972a) 『帝国農会史稿 記述編』 農民教育協会
- 帝国農会史稿編纂会 (1972b) 『帝国農会史稿 (資料編)』 農民教育協会
- 東浦庄治 (1933) 『日本農業概論』 岩波書店
- 東浦庄治 (1933) 『農業団体の統制』 日本評論社
- 東浦庄治選集刊行会編 (1952) 『日本農政論』 農業評論社
- 日本農業研究会編 (1977) 『日本農業年報第三輯米穀問題特輯』 (昭和八年) 御茶の水書房 (復刻版)
- 野本京子 (1999) 『戦前期ペザンティズムの系譜——農本主義の再検討』 日本経済評論社
- 古桑実編 (1979) 『産業組合総索引』 日本経済評論社
- 米穀対策調査会 (1936) 『米穀対策調査会議事録』
- 松田延一 (1951) 『日本食糧政策史の研究 第二巻』 (食糧庁)
- 松田忍 (2012) 『系統農会と近代日本 1900—1943』 勁草書房
- 持田恵三 (1954) 「食糧政策の成立過程」 『農業総合研究』 8 巻 2 号 197—250 頁
- 持田恵三 (1970) 『米穀市場の展開過程』 農林総合研究所
- 八木芳之助 (1932) 『米価及び米穀統制問題』 有斐閣

## 戦前日本における電力国家管理と「経済の社会化」 —永井柳太郎の思想を中心に—

内川隆文

東京外国語大学大学院博士前期課程

戦前日本の電力国家管理とは当時の電力産業を寡占していた五大会社（東京電燈、東邦電灯、大同電力、宇治川電気、日本電力）が電力国家管理四法案の施行（1939）によって経営権が政府に接収された歴史的事実を指す。

電力国営化は従来、ファシズム政策の一環として、あるいは軍官の革新分子によって断行された非合理的な政策として捉えられることが一般的であった。本稿はこのような通説的立場に対し、実施背景には或る程度の合理的根拠があると見る。つまり、国家管理に先立つ1920年代に電力産業が謳歌した自由競争によってもたらされた社会的なひずみが、電力の国家管理の強力なプッシュ要因であったことを論証する。その上で有力なキー概念として「経済の社会化」論を提示する。

今発表では、電力国家管理を強力に後押しした革新官僚である永井柳太郎に焦点を当て、この人物を通じて「経済の社会化」論が如何に解釈され、実際の政策に反映されたのかを発表する。

## 戦前日本における電力国家管理と「経済の社会化」

—水井源太郎の思想を中心に—

### 1. イントロダクション

#### ◆本発表の目的

電力国家管理の位置づけを整理するために、まず水井源太郎を中心とした主要人物の「社会化」論を取り上げる。それにより、従来の産業・経済といったマクロレベルからは必ずしも満足し得えられなかった戦前—産業民主化の要求といった側面に焦点を当てる。

#### ◆電力国家管理（電力管理四法）の施行（1939）によって成立

- ・ 当時電力市場を寡占していた五大会社（東京電燈、東海電力、宇治川電力、大同電力、日本電力）を政府系の日本発送電株式会社（日発電）に強制統合。
  - ・ 電力管理四法とは、「電力管理法」、「日本発送電株式会社法」、「電力管理二律ヲ杜絶処理ニ關スル法律」、及び「電気事業法中改正法」のことをいう。
  - ・ 国家管理の原案は内閣調査局調査官の通信者出身・奥村實知朗と陸軍省出身・鈴木貞一によって練られた。特許として、「民間国營」と呼ばれる企業統制が挙げられる。
  - ・ 五大会社の資本・設備等を日発電に法律に基づき強制出資されたことで国営化を達成。
  - ・ 日発電の所有権は五大公社に、経営権は主に通信省が掌握（所有と経営の分離）。
  - ・ 企業の互的所有権を脅かすことされ、五大公社だけでなく財界全体から反発を招いた。
  - ・ 日中戦争と滿州事変に挟まれた「準戦時体制」と呼ばれる1935年に初めて構想が公開される。
- 総動員体制以前に議論が沸出したことから、当初から国家管理の原案に軍事色が色濃く存在していたとは言いつづかった。国家管理に軍事的思想合いが色濃く反映されるのは、1937年以降のことである。

#### ◆対象時期

始期：1920年  
終期：1938年（電力管理四法案の成立）

### 2. 電力国家管理の経緯と概要

1935年2月26日、二・二六事件勃発、日本全体に革新を求める気運が蔓延する

3月 内閣調査局による発送電株式会社案発表、財界に衝撃を与える

7月 電気総合企業案提出、商工各課所、日本経済連盟会、全国産業団体連合会等の国家統制に反対表明

9月 日本電力、宇治川電力、大同電力の三社が国家管理に反対表明

同月 通信省、電力民衆調査及び日本電力段階（特）法案案編成発表（翌年、撤回）

1937年6月 政府、国家管理の期間延長・臨時電力調査会を設置

12月 電力国家管理案閣議承認

同月 全国産業団体連合会、電力国家に反対

1938年1月 水井源太郎の電力管理法外四法案、議案提出される

2月 日本経済連盟、電力管理法に絶対反対を表明、委員同様に議論を行う

1938年3月 社会大衆党その他小会派、電力国家管理案を支持するものの、修正案が衆院を通過

同月 貴族院質疑の中で水井源太郎に対し、反対派の法学者・松本系治が激しい批判を演説

同月 修正案可決後、同院協議会が買われ、さらに会期を一日延長された後に電力案、同院を通過

4月 電力管理法、公布

【水井源太郎】(1939)、『現代日本産業源流史Ⅱ 電力』(1964) 各巻木の年表より作成

「第七十三議會がこれらため会期一日を延長したのは、當時政府が電力国家管理について如何に重大決心を抱いていたかを物語るもので、電力管理法は帝國議會史上空前の難案を経、幾度か停頓し、時に内部の紛争騒ぎは衆議の議案を予みづから目的地に到達したのであった」

「電力の民有国營論は、これらの実情（市中における公費削減の不可）に即したもので、理念としては、従来 國營と謂へば同時に所有を意味する概念を一擧し、有と用とを區別して、所有権絶対の思想に一掃を授けられたところに新時代の性格を具有したものであった」

【電力国家管理の概要】(1942) より引用

#### 3. 先行研究における電力国家管理の経緯

##### 3.1 国家独占資本主義論からのアプローチ

梅本哲生 (1974)  
「国家独占資本主義の成立過程において電力事業は、産業政策を担う中心的な重化学工業統合としての存在から、社会資本＝産業基盤へと転換することを余蘊なくさせられた」

##### 3.2 経営史からのアプローチ

梅本哲生 (2001)  
「電力国家管理の問題を考える場合、戦時経済、とくに「生産力拡充計画」の構想との関係で見ることが重要」

梅川正郎 (2004)  
「日本電力産業の発展にとって、長い回り道だった」

中野昭史 (2005)  
「民間国營構想は日本の対外的な国家的発展を支えるための戦争準備の体制、つまり後の総動員体制の構築を強く意識したものであった」

#### 4. 経済の社会化論

社会化とは、重要産業の経営を国営その他の社会的所有に移すという議論

##### 4.1 WW1後の英独の社会化論

###### ◆英における社会化論

・ 1919年3月23日：社会化法、国営業法

4月24日：カリ業法

12月31日：電気業法

・ ウイニール体制下での独では、社会主義者を中心に経済制度の社会化が推進された。

・ だが、20年代初期から既に社会化は行き詰った。理由の一つは、資本家もしくは企業経営者から生産手段を没収するほどの強制力が当時の独にはなかったこと、二つ目としては対象上りの理由がある。

・ その後の経済政策の主導権は産業合理化運動を推進した企業経営者に取って代わられた。

◆英における社会化論

- ・ギルド＝ユニオンアリズム
- ・G. H. Cole 著 “The next ten years in British social and Economic policy” は史料書と男など、国家管理の原案作成に関わった者たちに大きな影響を与えたといわれている。
- ・1926年、他の資本主義諸国に先駆けて送電料線の国有化が実現される。(Grid-System)
  - 国家管理の議論の中で大いに参考にされた。

◆20年代の日本への影響

英領における社会化の議論は、実行的な経済成長で累積する社会問題と大衆運動の激化の真中にあった20年代の日本に輸入され、学界・労働界において大いに議論されることになった。そのような背景や思想の蓄積が30年代の経済・社会制度の転換期において大きなインパクトを持ったのである。

3.2. 水井惣太郎の社会化論

◆プロトタイプ

- ・第一次近衛内閣(1937~1939)において逓信大臣を務め、衆議院での国家管理に対する批判に対し、常に第一線で対応した政治家。
- ・1906年から3年間、ユニテリアン団体の背景でオックスフォード大学の奨学金を得、ソッチェスター・カレッジに留学、植民地学を学ぶ(当時、英国に帰国したフェビアンズ、サンディカリズム、ワルドス主義派等別組合主義、ギルド社会主義等にも、当然、深い関心を抱いた)【水井惣太郎】。
- ・大正デモクラシーの真諦を求むとして主権的な役割を果たし、ノーブール賞の賞状やストライキへの参加など、労働問題についても深い関心を抱いていた。また、女性問題についても取り組んでおり、戦前期における経済と社会の軋動・矛盾に対し大きな関心を抱いていた。

◆水井惣太郎の社会化論

(以下、昭和7年4月16日付の声明「国家主義大衆党の綱」より抜粋)

- ・吾人は既に資本主義経済組織の欠陥を認め、資本家地主権の階級専制に反対した。更に吾人はそれ以上の強烈なる意識を以て無産階級の組織政治を実現せんとする国家的革命運動に反対せねばならぬ。」
- ・「吾人は原則として自由を尊重する。人間は生まれながらにして、平等の能力を帯びるものではない。個性を異にする如く、その能力を異にする。各人をして最大限度に活動させる機会を得せしめ、以てその能力を最大限度に発揮せしむることが社会進歩の要諦である。従って吾人は、決して公正なる競争を抑制せんとする者ではない。併し、吾人は真に公正なる競争を尊重するが故に、公正なる競争と而立せざる特殊階級の国家管理又は国家統制を憎み、公正なる競争に対する最大限の機会を保障せんと欲する。資本は産業のために存し、産業は国民の為に存する。資本を主として産業を従となし、産業を主として国民を保障せんとするが如きは、斯くて許さるべきでない。新経済組織は、一面に於て、最大限の生産効率の保障であると同時に、他面に於て、社会正義の確立であらねばならぬ。」

(以下、昭和11年1月10日朝日新聞所載「二・二六事件以後」より抜粋)

- ・吾人は決して個人の自由を無視するものではない。個人をして企業上、経済上、最大限度に活動させる機会を得せしめ、もって人間天賦の全能力を発揮せしめることが、すなわち社会進歩の要諦なるを認むぬ。」
- ・吾人は全国民の共同の利益を実現するべき最善の手段として、国家統制の下、全産業の合理化並びに社会化を推進せしめ、これに依つて生産の増大と、分配の公正を確保せんと欲する。即ち産業は、原則として、之を民衆に委すと雖も国家これを統制し、一方に於いて「ラーヴ・スターヴ・プロダクション」を実現すると同時に、他

方において労働者階級における分配を実現し、且不平利得増大の原因となるべき独占的性質を有する産業は之を国家管理の下に置き、以て経済組織の合理化並びに社会進歩に繋がる階級闘争をその根柢から防止せんとする」

- ・上記の発言をみるように、水井は労働問題への関心を示す一方で、その政策思想は体制内改革に留まっていた。別首すれば、水井は左翼革命に対し強い拒否反応を示していた。それは留学時代に展開した欧州労働運動にも大きく影響されたといわれている
- ・労働問題の根本的解決を目指した水井は、然しながら左翼革命という手段はとらなかった。むしろ、それに代替されるナショナルリズムを道具として使い、資本主義階級の根本的矛盾の是正に邁進することを志した。
- ・電力国家管理はそのような観念に基づいた政策の具現化であり、国家と大衆の間に存した「資本家」という名の階級体を覆ることが当初の目的であった
- ・水井をしてその目的を断らしめるならば、「資本主義経済組織の全体的改革を目的とはしないけれども、国家の統制によって、資本主義経済組織の欠陥を是正し、これによって国民生活を再構築」することであった

4. 結論

- ・電力国家管理問題は、通説にあるように近い将来の戦争遂行を目的としたものではなかった。
- ・もっとも、水井が多用した「労働陣営」という言葉の通り、国家の統合力の振興を目的としたことは疑いない。
- 国民生活の上及び経済成長と社会問題の止揚は、その中で達成されるものであった
- ・1937年の日中戦争勃発により臨時体制に急進する中で、電力国家管理は将来の日本の青年軍を育てる闘争から、次第に現実的かつ重化学工業への進出に注力し、電力の供給へと行って来た。
- 通説は、この点から批判を浴びる形で国家管理の形骸を求めたと思われる
- ・水井惣太郎や植民地大衆党といった革新政治家から、農村権和男、鈴木貞一といった官僚組織を刷新して形成された国家管理を推進する一翼は、20年代の自由競争とその弊害に対する深刻な懸念から自らの思想を立案させたという点で一貫していた。
- ・電力国家管理は私的所有権の国家による革新的介入であったため、電力業界のみならず「財界や学界の主要な人物にいたるまで広範な抵抗を招いた。このような情状は、40年代に入り国家労働員法第11条の発動が議論されることで、再現されることとなる。
- ・その意味で、国家管理問題は資本主義経済組織の再編を意図した前例無しの位置づけであった。

5. 参考文献

- 中須史「日本電気事業経営史：9 電力体制の時代」(日本経済評論社,2005)
- 堀川武典『日本電力業発展のダイナミズム』(名古屋大学出版会,2004)
- 榎本哲史『戦前日本資本主義と電力』(八洲社,2000)
- 榎本哲子『電力国家管理と官僚統制』(発行年代史 (5), 1974)
- 小林康、栗井寛子は編『現代日本産業発達史III 電力』(現代日本産業発達史研究会,1964)
- 松村三三ほか編『水井惣太郎』(福地委員会,1959)

6. 参考資料

- 電気分館『電力国家管理の歴史』(日本放送電気株式会社,1942)
- 向井徳松『経営形態としての私有国家事業：経営形態の變遷(統制階級と企業経営)』(経営学論集 11, p.459-483)
- 向井徳松『公私混同の接近と私有国家事業(産業統制より産業管理へ)』(三田学会雑誌,1936)

## 1893年シカゴ万国宗教会議とアメリカ社会 —アメリカ仏教伝播の観点から—

那須理香

国際基督教大学大学院博士後期課程

この発表では、1893年にアメリカ、シカゴで開催された万国宗教会議をとりあげ、この会議が当時のアメリカの宗教、社会にどのような影響を与えたかを考察する。

シカゴ万国宗教会議は、クリストファー・コロンブスの「新大陸発見」400年を記念して開かれたコロンビア万国博覧会に併設する会議の一つとして開催されたものである。この時期になぜこのような宗教会議が開かれることになったのか、その背景を明らかにする。そして、この会議の主催者（アメリカキリスト教界）のもくろみ、講演者たちの主張と聴衆の反応及びアメリカ社会における反響をまとめる。会議後、宗教相対主義がアメリカ社会に受け入れられることになったが、どのような経緯でそれが起こったのかを明らかにする。さらに、アジア代表の仏教が強いインパクトを与え、仏教を自らの宗教として信仰する者も出るなど、仏教伝播のきっかけとなったことについてもまとめる。

シカゴ万国宗教会議がアメリカ近代宗教史において、大きな転換点となる出来事であった事を確認したい。

### 1. はじめに

日本仏教の世界伝播において1960年代のアメリカ禅ブームは良く知られている。「世界の禅者」と言われる鈴木大拙のZENに関する英文著作が起こしたものである。しかしそれ以前にもアメリカに日本仏教が受け入れられた歴史的な出来事があった。それがシカゴ万国宗教会議である。この研究では、鈴木大拙が英訳した禅の師積宗演の演説をもとに、明

治期の近代仏教が西欧に受け入れられた様相を見る。釈の演説が、当時新たに形成されつつあった「近代仏教」の、世界に向けた提示に成功したという主張を展開したい。

## 2. シカゴ万国宗教会議：開催の意義および会議の概要

- ・ 1893年9月11日から27日まで、クリストファー・コロンブスの「新大陸発見」400周年を記念して開かれたコロンビア万国博覧会に併設する会議の一つとして開催
- ・ 社会的背景：「金箔の時代」、ダーウィンの進化論 → 社会規範としてのキリスト教の弱体化

・ 開催の意図：万国宗教会議の議長、ジョン・ヘンリー・バロウズの演説（キリスト教の威信の回復）

- ・ 概要：参加国（約20か国）、参加宗教（約12）
- ・ 日本仏教代表団：釈宗演(臨済宗)、蘆津實全(天台宗)、土宜法龍(真言宗)、八淵蟠龍(浄土真宗)、野口善四郎(通訳)

## 3. 日本仏教代表団：明治期の仏教の現状と仏教代表団の参加意義

- ・ 明治政府の宗教政策：神仏分離、神道国教化（廃仏毀釈による仏教衰退）  
アジア諸国へのキリスト教宣教の脅威（アジア仏教の壊滅）  
→ 近代化による日本仏教再興とアジア仏教のリーダーとしての役割

## 4. シカゴ万国宗教会議での釈宗演の演説：ポール・ケーラスへの影響（→ 鈴木大拙の渡米）

- ・ 釈宗演略歴 — 臨済宗円覚寺の禅僧、慶応義塾で洋学を学ぶ（1885-1887）  
→ 伝統仏教の法主でありながら近代西洋についての知識も修得  
スリランカで上座部仏教を修行（1887-1889）  
（オルコットらの「プロテスタント仏教」に遭遇）  
→ 仏教をキリスト教プロテスタントの教義に照らし合わせた、西洋的観点からの仏教理解を認識する

- ・ シカゴ万国宗教会議での演説：「仏教の要旨并に因果法」（鈴木大拙による英訳）

‘The Law of Cause and Effect, as Taught by Buddha’

「仏陀は創造主ではなく、自然界の事象も人間の行いもすべては因果法と言う自然の法則によって支配されているという宇宙の真理を最初に発見したものである」

⇒ 釈の演説における「近代仏教」の特質（マクハマンの「仏教モダニズム」を参考として）

- a. 西洋的な一神教：伝統日本仏教の多神教的様相を排して、仏陀ひとりの教えを強調
- b. 科学的な合理主義と自然主義：創造主を否定、仏教の因果法を進化論と同等に位置づける

⇒ ポール・ケーラス（科学と宗教の整合性を追究したアメリカ宗教啓蒙者）の著作へ

の影響

「業と涅槃」『カルマ』『仏陀の福音』(1894) → 仏教啓蒙活動、鈴木大拙をアメリカに招聘

トルストイによる『カルマ』のロシア語訳 → 西欧で人気を博した

日本では芥川龍之介が『カルマ』の一部を「蜘蛛の糸」として発表

として発表

→ ポール・ケーラスの業績は、釈の演説が「近代仏教」の提示に成功した証拠といえる

## 5. むすび

釈宗演は、臨済宗の法主として伝統仏教を体現する存在であった。それとともに、西洋の科学知識やキリスト教概念を修得し、スリランカでは植民地支配による仏教壊滅の現状を目の当たりにした。そこから、仏教が生き残るためには伝統から脱し、近代化を成し遂げることが必要とする立場をとるようになった。シカゴ万国宗教会議における演説は、釈のもくろみを見据えた仏教界のアピールを、キリスト教を背景とする西欧世界に向けて放つ絶好の機会であった。鈴木大拙によって翻訳された釈の演説「仏教の要旨并に因果法」は、「近代仏教」において強調された仏陀中心の信仰という側面と、因果法と云う合理性をそなえた側面を印象付けることができた。釈の提示した「近代仏教」は、アメリカ仏教伝播の歴史の中で大きな足跡を残したものとして捉えられる。

### <参考文献>

ケテラー、ジェームス・E 『邪教 / 殉教の明治—廃仏毀釈と近代仏教』、東京：ペリカン社、2006年

ジャフィ、リチャード「釈尊を探して—近代日本仏教の誕生と世界旅行」『思想』2002.11. No.943

末木文美士「伝統と近代」『ブッタの変貌—交錯する近代仏教—』京都：法蔵館、2014年

スノドグラス、ジュディス・M 「近代グローバル仏教への日本の貢献—世界宗教会議再考」『近代と仏教—国際シンポジウム第41集—』京都：国際日本文化研究センター、2012年

常光浩然編、『日本仏教渡米史』東京：仏教出版局、1964年

森孝一、「シカゴ万国宗教会議：1893年」『同志社アメリカ研究 26』、1990年

Carus, Paul. "Karma and Nirvana: Are the Buddhist Doctrines Nihilistic?," in *Monist* 4:3, 1894.

\_\_\_\_\_. *Karma: A Story of Buddhist Ethics*. Chicago: Open Court Publishing Company. 1894, reprinted in 1917.

\_\_\_\_\_. *The Gospel of Buddha*. Chicago: Open Court Publishing Company. 1894.

Seager, Richard Hughes, *The Dawn of Religious Pluralism: Voices from the World's Parliament of Religions, 1893*. La Salle, Illinois: Open Court Publishing Company, 1993.

McMahan, David L., *The Making of Buddhist Modernism*. Oxford: Oxford University Press. 2008.



## 村上春樹『女のいない男たち』試論 —「シェエラザード」を通して—

倪逸舟

東京外国語大学大学院博士前期課程

1979年にデビューして以来、およそ35年にわたり、世界中の読者を魅了し続けてきた日本現代国民作家である村上春樹が作り出した物語は30を超える言語に翻訳されている。また、創作活動と並行し、レイモンド・カーヴァーなどの英語圏の作家の作品を数多く訳していた彼自身は一人の翻訳者でもある。本発表では、2014年4月に出版された村上春樹の最新短編小説集「女のいない男たち」の同名の表題作を筆者が中国語に訳し、それをもとに、具体的なテキストを挙げながら、村上文学独特な文体や言葉の姿を明らかにしようとする。なお、翻訳者としての作者は創作するとき、どういうふうか、あるいは、どのぐらい翻訳の視点に影響されるかについての問題も窺いたい。

### 一. はじめに

『女のいない男たち』は2005年に刊行された『東京奇譚集』以来、日本現代国民作家である村上春樹の9年ぶりの短編小説集で、今年4月に文藝春秋より発売された。一見してみると、まったく繋がりのない六つの物語から成り立っているが、六つ目の書き下ろし作品で、また、この小説集の同名の表題作でもある「女のいない男たち」が示しているように、最初から最後まで貫かれている主題があることでもいえる。



その中でも、「シェエラザード」という作品はやや異色なところがあり、何かしら読み手の心に響かせるものがある。そこで、本発表は「シェエラザード」を三つの異なった視点に立ち、考察していくことにする。つまり、小説のテキストを挙げつつ、繰り返し現れてくる「シェエラザード」の役割を分析すること、主人公である「シェエラザード」が三度も行った「空き巣狙い」という行為を社会的な面から読み解くこと、また、作者の村上春樹がどういうふうにも物語に関与したかといった三つの次元からである。

発表の内容をもっと理解しやすくするため、今回取り上げている作品の内容を予め簡単にまとめる。

「何らかの原因で「ハウス」に閉じ込められている羽原を、その女は4か月前から「連絡係」として週に二度のペースで訪れ、羽原の世話をする。羽原より4歳年上の35歳で、基本的に専業主婦で、小学生の子供が二人いた。彼女は『千夜一夜物語』の王妃シェエラザードと同じように、羽原と性交するたびに興味深い不思議な話を聞かせてくれた。それゆえ、羽原はその女をシェエラザードと名付けた。あるときシェエラザードは自分の前世はヤツメウナギだったとベッドの中で言う。また、自分が水底で石に吸い付いて、水草にまぎれてゆらゆら揺れていたたり、上を通り過ぎていく太った鱒を眺めていたりした記憶がはっきりあるとも言う。更に、私たちの言葉に置き換えることのできない、とてもヤツメウナギ的な主題を、ヤツメウナギ的な文脈で、ヤツメウナギ的なことを考えると告げる。シェエラザードはときどき空き巣に入っていた十代の頃の話もした。高校2年生のとき彼女は同じクラスのサッカーの選手の男の子に虚しい恋をしていた。ある日彼女は無断で学校を休み、男の子の家に行く。玄関のマットの下で鍵を見つけ、それを使って中に入り二階にある彼の部屋に入る。『愛の盗賊』のように彼の所有物を盗む代わりに、自分の物を置いていった。一度目は使いかけの鉛筆を持ち帰り、タンポンを一つ彼の机の1番下の抽斗の、いちばん奥の、見つかりにくいところに置いていくことにした。二度目はサッカーボールをかたどった小さなバッジを持っていき、自分の髪を三本置いていった。最後の三度目は、彼の匂いのするTシャツを洗濯物から見つけ、それに匹敵するようなものは何も持ち合わせていなかったから、ただそれシャツを持ち帰った。その時点で純粋な空き巣狙いになった。四度目に彼の家をシェエラザードが訪れたとき、ドアの錠前は新しいものに取り替えられ、入れなくなった。「空き巣狙いの時代」のお話を聞いたその夜、羽原はシェエラザードが自分に与えてくれたものについて考え、女を失うことについて考え、そして、自分がヤツメウナギとなったことを考えた。」

二. メトニミーとしての「シェエラザード」

三. 「空き巣狙い」という行為

四. 作者が死んではいない

五. 終わりに

## 坂口安吾のアイデンティティ政治研究 The study of identity politics in sakaguchi ango's work

盧柏丞

台湾東海大学大学院博士前期課程

戦後に書かれた坂口安吾の一連のテキストにおけるアイデンティティに関連する言説をめぐって、これまでも多くの論究によって議論されてきた。にもかかわらず、そのテキストに現れるその一見、不整合性や矛盾に関しては、まだ多くの疑問が残る。本稿は、これらのテキストは、安吾の一種の政治参加だと仮設し、差異の政治、文化的アイデンティティ、そして文化の政治学という三つの側面から、安吾を読み直すことによって、これまで指摘されてきたその不整合性や矛盾の解明を試みる。

### はじめに

坂口安吾戦後の作品を見たとき、彼の作品が大体天皇制言説、ナショナルアイデンティティ、文化言説と歴史に関する研究四つの種類に分けることができる。坂口安吾がそれらの文章を書く目的を考えると、彼は文章を書くことによって自らのナショナルアイデンティティや文化的アイデンティティがある種集団アイデンティティを作り、読者にそれらの作品を読んでもらうときに、坂口安吾自分自身のアイデンティティと読者のアイデンティティの間の差異を考えさせ始め、読者のアイデンティティを再構成することと考えられている。その作品によって読者のアイデンティティを再構成することとはアイデンティティ政治になる。

坂口安吾に関する研究はとても多く、天皇制言説、ナショナルアイデンティティや文化言説に関する研究もあるけれども、天皇制言説について研究や文化言説について研究というような

ある一つのテーマを選んで研究することが多い。本研究は坂口安吾の文章の中に、あらわれた天皇制言説、ナショナルアイデンティティ、文化言説がアイデンティティ政治という視点から見て、安吾の（1）天皇と天皇制に関する考え方（2）天皇と日本の関係（3）国家構成の考え方（4）自らの日本人アイデンティティを構成すること、この四つの部分を考え直すつもりである。

アイデンティティ政治という視点から坂口安吾の作品を研究するとき、その作品の中に二つのテーマがあると思う。まずはナショナル的なアイデンティティ、次に文化的なアイデンティティという二つのテーマである。ナショナル的なアイデンティティというテーマを探究したいのは政治的なことで、坂口安吾が書いた天皇制言説やナショナルアイデンティティ言説に関する文章はナショナル的なアイデンティティというテーマに属する。文化的アイデンティティのほうは彼の作品のなかで、文化言説や歴史研究に関する文章であり、その内容とは日本文化を探究するや日本人のあるべき姿を描いていた。坂口安吾は当時ができたことを注目するだけでなく、西洋文化と比較することと歴史という視点から文化や伝統を作られた原因と目的を説明する文章もある。

ナショナル的なアイデンティティと文化的なアイデンティティというテーマは坂口安吾の作品で独立のテーマではなく、ときには二つのを合わせて論じるのもある。たとえば、かれは天皇制言説を探究するとき、政治的場面に関心することだけではなく、日本人にとって天皇をあらわれる文化的な重要性も注目している。この例を見ると、ナショナル的なアイデンティティと文化的なアイデンティティとは密接なつながりがあることを示した。坂口安吾はナショナル的なアイデンティティと文化的なアイデンティティに関する主題を書くことによって日本人のアイデンティティを再構成するつもりだと思ふ、つまり、安吾が文章を書くことによって政治に参加することが言え、ある種アイデンティティ政治に形成する。

安吾文学のアイデンティティ政治を説明するため、差異の政治、文化的アイデンティティ、そして文化の政治学という三つの側面から分析するつもりである。それから、どうしてその三つの側面を分析しなければならないかを説明する。

### 差異の政治

「**日本文化私観**」の内容については伝統文化という普遍的価値観を拒否することを書いているが、坂口安吾つたえたいのは日本人の生活にとって最も合致する文化や風俗を探して、自分の国の文化的アイデンティティを再構成することを期待していると思う。安吾にとって、ほかの文化を受けることは模倣ではなく、自分に最も合致のやり方をするのほうこそ一番大切なものである。つまり、彼がほかの文化を受けよという言説を書いたとき、伝統文化を守るといふ選択肢以外の道を示している。伝統文化を守るとほかの文化を受けるといふ二つ論点があったら、人々はどっちがいいかと考えさせ、あくまでじぶんの価値観やアイデンティティを形成すると思う。この結果をみると、安吾が差異の政治によってアイデンティティ政治を行うとおもう。

## 文化的アイデンティティ

坂口安吾が天皇と天皇制の影響を探究するとき、かれはいくつかの視点から天皇制度と日本人の関連性を論じる。安吾にとって天皇という存在は政治的な意義をもつではなく、文化的な意義をもつことはもっと重要なことだとおもう。安吾がといたように、

「天皇制自体は真理ではなく、又自然でもないが、そこに至る歴史的な発見や洞察に於て軽々しく否定しがたい深刻な意味を含んでおり、ただ表面的な真理や自然法則だけでは割り切れない<sup>33</sup>。」日本の歴史の中で、天皇という存在は日本文化の一部となり、むりやりにこの一部分を消したら、アイデンティティの構成とは大きいな影響をあたえるかもしれない。

## 文化の政治学

アイデンティティ政治の表現法として、小説、エッセイ、詩という文学作品はもちろん、音楽、映画という表現法もある。文学作品を書くことによって自分の立場をつたえることや政治に参加することとすれば、文化の政治学に属する。坂口安吾の執筆の動機を考えると、彼は自分の国あるいは暮らしている場所に期待しているから、文章を書くによってその希望や期待を伝えると思う。そういう考え方からみると、『安吾の日本史地理』シリーズ、『安吾巷談』シリーズとは安吾が自分のバージョンの物語を作って、自分と読者のアイデンティティを再構成することがわかる。

アイデンティティ政治は自由に自分を認める身分を選び、その身分を確立に努力する行動であり、文学作品や芸術の作品もある種アイデンティティ政治の表現法である。差異の政治、文化的アイデンティティ、そして文化の政治学という三つの側面からあげた例を見ると、坂口安吾の作品を読むときに、安吾つたえた立場と読者持っている立場と対話させて、その対話の過程に、読者の考え方は変わったかもしれないが、自らの立場はもっと明らかにすることができる。

## 終わりに

安吾は文章を書くことによって政治に参加することがわかるが、彼の作品の政治に関する言説と文化に関する言説について、矛盾のところがあるか、そして、もし矛盾のところがあつたら、なにか理由があつてから、安吾はこういう書き方をしなければならないかという部分は本研究これから解明したいのところである。

---

<sup>33</sup> 坂口安吾「墮落論」『坂口安吾全集 14』、ちくま文庫、1990年

## 日清修好条規の検討 —清国、日本及び国際的視点より—

李宜潔

台湾国立政治大学大学博士前期課程

日清修好条規に関する研究は日本でも台湾でも盛んに行われていると言えるが、日本も台湾も相手国の研究成果を容易に受け入れられない。

故に本稿は3つの視点より日清修好条規を検討して、客観的立場より両方とも受け入れる論説を見出すと試みたい。即ち、1：明治維新後の日本の視点よりである。明治維新の国権外交が日清修好条規の締結に対してどのような影響を与えたかということを探究する。2：鴉片戦争後の中国の視点よりである。中国が鴉片戦争後に直面した外交問題を分析し、それによって中国がなぜ日本と修好条約を締結しなければならないかとの理由を見出す。3：鴉片戦争後の国際的視点よりである。列強が鴉片戦争後東アジアに対する態度の転換によって、日清修好条規締結の意味を検討する。

これらの視点より中日両国のそれに対する相互的理解を進めようとする。

### ● 研究動機

今まで日清修好条規締結の過程はほぼ明らかにしたが、それをめぐる問題はまだ解明していない所が残っているのみならず、今までそれらの研究がおよそ自分の国の立場に立った論点より提出されて、相手国の立場を含めて考えることが少ないため、中日両国の学者は互いに相手国の研究を納得できない現象が生じた。

例えば日清修好条規締結の意味について、藤村道生「日清修好条規の締結は清政府が自動的中国を中心とする中華外交秩序を放棄して、それは日本の勝利と共に清国の失敗である」と提出したが、それは日本側の視点より得た結論で、もし清国が鴉片戦争後における外交難局の視点より検討しても適用できるか。故に日清修好条規に関する研究はすでにたくさん提出されたが、また研究する余地があると思われる。

本稿では①清国の視点より：清国が鴉片戦後に直面した外交難局を焦点に、清国がなぜ日本と修好条規を締結するかということをも明らかにしたい。また②日本の視点より：明治維新における西化運動と国権外交の視点より、日本がなぜ清国と修好条規を締結したかったかという問題を探究してみたい。最後③国際の視点より：列強が鴉片戦後東アジアに対する態度の転換という視点より、日清修好条規締結の国際的意味は何であろうかということをも解明してみたい。

## ● 研究目的

研究の目的には3点ある：1、日清修好条規を締結する前の清国・日本及び列強の態度を分析する。2、日清修好条規締結交渉の折衝過程を検討し、清国・日本及び列強の反応を明らかにする。3、日清修好条規を締結した後の清国・日本及び列強の国際的変化より日清修好条規締結の意味を探究する。

## ● 研究方法

上述述べた3つの視点より、中国と日本の文献をともに参考して、時間の順序に沿って研究を進めたい。中国の文献に関しては、主に李鴻章『李鴻章全集』、『同治朝籌辦夷務始末』、曾国藩『曾国藩全集』を参考する。日本の文献については、主に日本外務省『大日本外交文書』第2、3、4巻、また『岩倉具視文書』、『大久保利通文書』、『木戸孝允文書』などの史料を参考する。

## ● 先行研究

ここで本稿で解明したい3つの問題と関係ある先行研究を紹介する。まず先行研究の視点を分析、その視点より提出した学説を説明、最後に筆者自身がそれに対する自分なりの意見を述べたい。

主に李啓彰「近代中日關係的起點-1870 年中日締約交渉的検討」、林子候「試論同治年間中日訂約經緯」、藤村道生「明治維新外交の旧国際關係への対応-日清修好条規をめぐって」、徐越庭「日清修好条規」の成立」(1)(2)らにより提出した学説に対する検討を加える。

## ● 目次

### 第一章 序論

#### 第1節 研究動機

#### 第2節 研究目的

第3節 先行研究と研究方法

## 第二章 日清修好条規締結の構想

第1節 日本が条規締結を提出した原因

第2節 日本の要求に対する清国の反応

第3節 清国態度の転換

第4節 修好条規締結に関する列強の反応

## 第三章 日清修好条規の内容

第1節 柳原草案と津田草案の比較

第2節 李鴻章らを作りあげた草案

第3節 清日全権が折衝後に使用した条規

第4節 修好条規に対する清日両国内の反応

## 第四章 三つの視点より検討した日清修好条規締結の意味

第1節 明治維新の西化運動と国権外交

第2節 清国の外交難局

第3節 東アジアに対する列強態度の転換

第4節 日清修好条規締結の国際的意味

## 第五章 結論

### ● 予期研究成果

主に4点ある。1、日本が清国と修好条約を締結したい理由を分析、それが明治維新の西化運動と国権外交との関係を解明する。2、清国は日本と締約する理由を明らかにする。3、当時国際社会の動向を理解する。4、清国・日本及び当時国際社会的視点より、全面的に日清修好条規締結の意味を解明する。



== MEMO ==

東京外国語大学国際日本研究センター

**サマーセミナー2014「院生による研究発表会・予稿集」**

Summer School 2014 "Postgraduate Students' Workshop in Japanese Studies" Abstract

+++++

発行:2014年7月28日

編集者・発行者 東京外国語大学国際日本研究センター

代表者 野本京子

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1 アゴラ・グローバル2階

電話/FAX:042-330-5794 E-mail: info-icjs@tufs.ac.jp

URL <http://www.tufs.ac.jp/common/icjs/jp/>

